（様式）

昭和　年
月末現在　小學校教員俸給支拂狀況竝ニ國庫交付金及其ノ使途調

月別	俸給所要額	支拂濟額	支拂年月日	支拂未濟額	負擔法 補助法 ニ依ル國庫交付金 交付年月日	交付金種別	交付金額	同上交付金ノ小學校教員俸給充當狀況 充當年月日	俸給充當額
何月分	円	円		円		第　條　段法	円		円
何月分						第　條　段法			
何月分						第　條　段法			
計									

記載上ノ注意

一、一回ノ交付金ヲ二回以上ニ亘リ教員俸給ニ充當シタル場合ハ充當年月日毎ニ充當金額ヲ列記スルコト

二、各國庫交付金額ト當該下欄内ノ教員俸給充當額トハ一致スベキモノナルモ若一致セザル場合ハ其ノ理由ヲ備考ニ記載スルコト

○市町村立小學校教員加俸令第三條該當者報告ニ關スル件

（昭和二年二月二日　發學第三一三二號通牒）

學務部長ヨリ珠洲支廳長金澤市長小學校長宛

市町村立小學校教員加俸令第三條ニ依リ年功加俸支給上ニ關シ調査ノ必要有之候ニ付每年三月八月ノ二回ニ亘リ左記樣式ニ依リ取調報告相成度

記

市町村立小學校教員加俸令第三條該當者調

（昭和）　年三月三十一日
八月三十一日現在

年數	勤續年月數 起算年月日	勤續年數	現受俸給年功加算額	俸給額	性別	職氏名
五年以上五年十一ヶ月以内	年　月　日	何年何月	何　円	何　円	男又ハ女	何小學校訓導（專科訓導又ハ准訓導）何某
十年以上十一年十一ヶ月以内	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十五年以上十五年十一ヶ月以内	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二十年以上二十年十一ヶ月以内						
二十五年以上二十五年十一ヶ月以内						
三十年以上三十年十一ヶ月以内						
三十五年以上三十五年十一ヶ月以内						
四十年以上						

備考

一、本調査ハ每年三月三十一日及八月三十一日現在ニ依リ調査シ各翌月十五日限報告ノコト

二、該當者調査ニ付テハ勤續年數起算年月日ヨリ起算シ上欄各年限ニ達シタル者ヲ調査スルヲ主眼トスルヲ以テ各調査期ニ於テ其ノ年限ニ

達シタル者ニ付テノミ調査記載スルコト

三、金澤市各小學校ニアリテハ市長ニ珠洲郡内小學校ニアリテハ支廳長ニ報告（調査ノ翌月十日迄ニ）シ市長支廳長ハ之ヲ取纏メ第一項期間内ニ提出ノコト

四、昭和二年ニ限リ三月三十一日現在調ヲ省略シ二月一日現在ヲ以テ調査シ二月十五日迄ニ報告ノコト

○復職教員ノ年功加俸受給者報告方ニ關スル件

（昭和二年八月三十一日發學第二九一五號通牒）

學務部長ヨリ小學校長宛

市町村立小學校教員年功加俸受給者ニシテ休職中ノ者復職シタル場合ハ左記樣式ニ依リ取調其ノ都度遲滯ナク報告有之度

記

休職年月日	休職事由	休職當時ノ在勤學校	同上年功加俸額	勤續年月日數	復職ノ年月日	現在俸給額	職名	氏名

備考

勤續年月數欄ニハ訓導又ハ准訓導ニ任命セラレタル日ヨリ起算シ本調査當日迄ノ年月數ヲ算定シ何年何月何日ナルカヲ記入スルコト

○特別加俸支給ニ關スル件

（昭和二年十一月三十日發學第三五六九號通牒）

學務部長ヨリ小學校長宛

明治三十三年三月勅令第百三十三號市町村立小學校教員加俸令第七條第一項及同年七月石川縣令第九十一號市町村立小學校教員加俸給與細則第四條該當者ニ就テハ將來左記樣式ニ依リ即報相成度候也

記

特別加俸受給者ニ關スル調

勤務ヲ命シタル月日又ハ勤務ヲ解キタル月日	增任學級	通勤區別	特別加俸年額	資格	氏名	備考

備考

一、增任學級欄ニハ單級（全校兒童ヲ以テ編制シタル學級）多級（此ノ場合ニ於ケル多級トハ一學年ヨリ四學年迄又ハ一學年ヨリ五學年迄一學年ヨリ六學年迄ノ兒童ヲ以テ編制シタル單級ノミヲ云フ）又ハ「第何學年」若シクハ「第何學年ヨリ第何學年迄」何分教場第何學年ヨリ第何學年迄等ト記入ノコト

一、通勤區別欄ニハ自宅ヨリ通勤、他家ヨリ通勤（下宿又ハ自炊等）學校内止宿等ト記入ノコト

○市町村立小學校教員住宅等狀況調ノ件

（昭和二年十月十五日發學第三二四九號通牒）

學務部長ヨリ支廳長市町村長町村學校組合管理者宛

一、標記ノ件ニ關シ別記樣式ニ據リ毎年七月一日現在ヲ以テ御調査ノ上其ノ月末日限リ御報告相成度

市町村立小學校教員住宅等調

教員總數	自宅ヨリ通勤スル教員數	受給教員 住宅受給	受給教員 住宅料受給	受給教員 賃借料受給	受給教員 計	同上ノ總員數ニ對スル割合	現在住宅 棟數	現在住宅 戸數	住宅料月額 總額	住宅料月額 一人當	賃借料月額 總額	賃借料月額 一人當

（七月一日現在）

備考

一、本表ハ毎年七月一日現在ニ依リ記載ノコト但シ住宅料及賃借料ノ月額ハ七月一日ノ現員（上欄受給教員數當該受給者數）ニ對シ其ノ月現給スヘキ額トス

二、自宅ヨリ通勤スル教員欄ニハ自己所有ノ家屋其ノ他ニシテ家賃、間代ノ如キチ負擔セサル教員數ヲ計上スルコト

三、受給教員數ノ總教員數ニ對スル歩合ハ四捨五入法ニ依リ小數第二位迄算出ノコト

四、住宅料、賃借料月額一人當ハ夫々其ノ總額ヲ受給教員數ニテ除シ四捨五入法ニ依リ錢位迄算出ノコト

五、賃借料ハ市町村ヨリ住宅貸主ニ對シ直接支拂フ料金トス

六、本件施設ナキ向ハ教員總數及自宅ヨリ通勤スル教員數ヲ調査報告ノコト

○學校教員出勤缺勤休養等調査ノ件

（昭和十年四月六日發學第二九號通牒）

學務部長ヨリ中等學校長小學校長青年學校長宛

自今前年度中貴校ニ勤務セル教員ニ就キ其ノ出勤缺勤休養等ノ狀況左記ノ通御調査ノ上毎年四月十日限御報告相成度

追テ本年度ニ限リ四月二十日限御報告相成度

昭和　年度學校教員出勤缺勤並ニ休養等ニ關スル調

石川縣　　學校

姓名	男女別	年齢	勤務別日數 出勤	病欠	事故欠	産前産後休養	忌引遠慮	合計	引キ續キ一週間以上ニ亘ル病欠 欠勤期間	同日數	病名	産前産後ノ休養日數 産前	産後	總計	備考
	男														
	女														
	計														
計	男	名													
	女	名													
	計	名													

調査上ノ注意

一、「勤務別日數」ニ於テハ授業日ニ就キ調査スルコト但シ出張日數ハ出張日數ニ加算スルコト

二、「引續キ一週間以上ニ亘ル病缺」調ニ於テハ「何月何日ヨリ何月何日マデ」「何日」トシ此ノ間日曜祭日休暇ニテモ病氣ナルコト明ラカナル日ヲモ加算スルコト

三、引續キ一週間以上ニ亘ラサルモ病缺日數多キトキハ病名等備考欄ニ記入ノコト

四、「產前產後休養日數」調ニテハ分娩日ハ之ヲ產前ニモ產後ニモ加ヘズ總計ニ算入ノコト
五、死亡、病氣休退職ハ詳細備考欄ニ記入ノコト
六、年度內ニ於ケル異動ハ「　月　日　校ヨリ(ヘ)來(轉)任」ト備考欄ニ記入ノコト

○普通恩給ヲ受クル者再就職ニ關シ報告方ノ件

（昭和七年四月三十日
發學第三五四號通牒）

學務部長ヨリ公立中等學校長、小學校長、實業補習學校長宛

自今普通恩給ヲ受クル者教職（教諭、助教諭、訓導、保姆）ニ就キタルトキ又ハ其ノ後休退職、轉任或ハ增減俸（加俸ヲ含ム）等官職、俸給ニ異動ヲ來シタルトキハ其ノ都度速ニ左記御報告相成度及通牒候也

記

一、恩給受領ノ年月日及其ノ年額
一、恩給支給總　國庫又ハ何府縣
一、恩給ヲ受ケタル最後ノ官職名
一、再就職ノ年月日及其ノ職名、俸給額
一、增減俸ノ年月日及其ノ金額並從前ノ額
一、休退職、轉任ノ年月日及轉任學校名

○體育的施設ニ關スル件

（大正十五年七月十六日
發社第一四三一號通牒）

學務部長ヨリ小學校長宛

學校衛生上ノ參考資料ニ供シ度候條貴町村內ニ於テ主催者ノ如何ニ係ラス本年夏季休暇中ニ兒童體育ヲ目的トシタル體育的施設ノ計劃有之候ハハ左記要項ニ基キ御調査ノ上本月末日限リ御回報相成度候也

追テ冬夏季ニ於ケル本文施設ニ關シテハ每年五月十日其施設ノ概況郡長ニ報告ノ事ト相成居リ候處尙今同樣冬季休暇中ニ係ルモノハ每年五月末日夏季休暇中ニ係ルモノハ十月末日限リ報告相成度候

記

一、主催者
一、施設ノ名稱
一、場　所
一、期　間
一、經費豫算並出所

○外國學生（兒童ヲ含ム）ニ關スル件

（昭和五年五月二十一日
發學第五二三號通牒）

學務部長ヨリ小學校長宛

記

外國學生（朝鮮臺灣人之ニ準ス）ニ關スル調査（何々小學校名）

一、入學情況並入學者學歷

調査上必要有之候ニ付左記事項每年五月末日現在ヲ以テ調査シ六月五日迄ニ御報告相成度候也

追而該當者無之場合ト雖モ其旨期日迄ニ報告相成度尙本件ニ關シ曩ニ當該郡長ヨリノ照會ハ自然消滅ノ義ト御了知相成度申添候

	入學情況			入學許可者ノ入學前ノ學歷	
	入學志願者	入學許可者	內地ニ於テ受ケタル者	本國ニ於テ受ケタル者	本國ニ於テ日本人ノ經營スル學校ニ於テ受ケタル者
第一學年					
第二學年					
第三學年					
第四學年					
第五學年					
第六學年					

計	

備考

一、朝鮮人、臺灣人ハ朱書スルコト

二、卒業者數竝卒業後ノ情況

卒業者數	上級學校入學者	官公署銀行會社員就職者	實業從事者	……	……	其他

備考

一、卒業者ハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月末日マテノ間ニ卒業シタル者ニ就テ調査スルコト

二、前項ノ期間內ニ於ケル中途退學者ニ關シテハ其學年及人員ヲ備考ニ附記スルコト

三、朝鮮人、臺灣人ハ朱書スルコト

三、在學者個別情況

第何學年	國籍	男女別	入學者	官公私費	前學年ノ學業成績	前學年ノ出席情況	卒業豫定年月	性格	氏名	年齡	備考
支那	國名又ハ省州名等		學歷								
奉天省											

備考

一、官公私費欄ニハ支那學生ニアリテハ國ノ補給生ハ「官」、省、洲等ノ補給生ヲ「公」私費生ヲ「私」ト記入スルコト

二、前學年ノ學業成績ハ $\frac{6}{30}$（三十人中ノ六位）又ハ甲乙10 9等其順位評語又ハ評點等便宜ノ樣式ニ依リテ之ヲ表示スルコト

三、前學年ノ出席情況ハ授業日數何日中出席日數何日ナルカヲ $\frac{200}{240}$ 等ト記入スルコト

四、性格欄ニハ各人ノ性格ニツキ其概評ヲ「溫良」「怠惰缺席多シ」「穩健著實」「不良執拗」「勤勉」「普通」「熱狂性」等ヲ記入スルコト

五、朝鮮人、臺灣人ハ本表ニ準シ朱書スルコト

四、學科學年別人員竝學資

	現在人員			學資						
	官費生	私費生	計	入學受驗料	授業料	諸會費	學用品費	寄宿料下宿料	其他	授業料等納入方法
第一學年										
第二學年										
第三學年										
第四學年										
第五學年										
第六學年										

計																

備考

一、學資欄ハ入學料及受驗料ノ如キ一回限リノモノハ其ノ額ヲ授業料等ニシテ年額ヲ本體トスルモノハ「年何圓」ト記入シ其他ハ凡テ一人平均月額ヲ記入スルコト

二、官費生欄中支那學生ニ在テハ「國三」「洲五」等ト記シ國ノ官費生ト洲ノ官費生等ノ區別ヲ明カニスルコト

三、朝鮮人、臺灣人ハ朱書スルコト

五、寄宿ノ情況

學校寄宿舎ニ在ル者		
私設ノ共同宿舎ニ在ル者		
營業下宿ニ在ル者		
普通民家ニ同居スル者		
世帯ヲナス者		
其他		
計		
備考		

備考

一、朝鮮人、臺灣人ハ朱書スルコト

○青年學校ニ關スル調査報告ノ件

（昭和十一年五月十三日）
（石川縣訓令甲第十號）

市役所
町村役場
青年學校

青年學校ノ設置者ハ其ノ青年學校ニ關スル調査ヲ別記樣式ニ依リ毎年五月末日迄ニ報告スベシ

大正十四年四月石川縣訓令甲第九號ハ之ヲ廢止ス

第一號表

青年學校經費豫算額調

學校名	經常費									臨時費	合計
	職員俸給及手當						其ノ他ノ經費	計			
	專任教員			專任教員以外ノ學校長及教員	其ノ他ノ職員	計					
	既設	增置新設	計								

備考　一、既設專任教員トハ前年度迄ニ置キタル專任教員ヲ、增置專任教員トハ既設專任教員ヲ有スル學校ニシテ更ニ其ノ年度ニ增置シタル者、新設トハ其ノ年度ニ於テ新ニ置キタル專任教員ヲ謂フ

二、其ノ他ノ職員欄ニハ書記及舍監ヲ記載ス

第二號表

前年度經費支出額調

學校名	經常費								臨時費	合計
	職員俸給及手當						其ノ他ノ經費	計		
	專任教員			專任教員以外ノ學校長及教員	其ノ他ノ職員	計				
	既設	增置新設	計							

備考　專任教員ノ分類ハ前表ニ依ル

第三號表

教授及訓練期間調

學校名	性別	本科	研究科	專修科
	男子	年	年	年
	女子	年	年	年
	男子	年	年	年
	女子	年	年	年

備考　一部、二部ノ設ケアルモノハ適宜劃線ヲ設ケ記入スヘシ

第四號表

前年度修了者及卒業者數調

學校名	性別	普通科修了者	本科卒業者	研究科修了者	專修科修了者	計
	男子					
	女子					

	男子
	女子

第五號表

前年度青年學校課程修得者數調

學校名	前年度青年學校課程修得者數

備考　青年學校ノ課程ヲ修メ前年度ニ於テ青年學校長ガ兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依リ陸軍大臣ノ定メタル課程ヲ修得シタルコトヲ證明シタル者ノ數ヲ記載スヘシ

第六號表

前年度中途退學者數調

學校名	性別	普通科	本科研究科	計
	男子			
	女子			

男子	女子

○青年學校生徒就學情況等調査ニ關スル件

（昭和十一年四月二十二日
發計敎第七五號通牒）

學務部長ヨリ青年學校長宛

標記ノ件左記樣式ノ通相定候條爾今毎月末調ヲ以テ翌月十日迄ニ提出相成度候也

記

郡市　立青年學校月報

昭和　年　月分

生徒就學情況（甲）

報告區分	事項 ＼ 區分 科 年	男子 普通科 一	男子 普通科 二	男子 普通科 計	男子 本科 一	男子 本科 二	男子 本科 三	男子 本科 四	男子 本科 五	男子 本科 計	男子 研究科 一	男子 研究科 二	男子 研究科 三	男子 研究科 四	男子 研究科 計	男子 專修科	女子 普通科 一	女子 普通科 二	女子 普通科 計	女子 本科 一	女子 本科 二	女子 本科 三	女子 本科 計
四月九月末調	入學資格該當者數																						
	學校在籍生徒數 一部																						
	學校在籍生徒數 二部																						
	入學歩合																						
毎月末調	授業日數 一部																						
	授業日數 二部																						
	授業延日數 一部																						
	授業延日數 二部																						
	出席延日數 一部																						
	出席延日數 二部																						
	出席歩合 一部																						
	出席歩合 二部																						

子				
研究科				專修科
一	二	三	計	／

行事豫定及實施（乙）

何月實施行事			何月豫定行事		
行事名	日時	行事ノ概要	行事名	日時	行事ノ概要

（註）

一、甲乙表共毎月末調ヲ以テ翌月十日迄ニ提出スルモノトス

二、甲表中「入學資格該當者數」トハ當該地域内ニ於ケル年齢該當者中通年他出者（通勤者ヲ含マス）中等學校以上ノ學校在學者、不具癈疾ニシテ就學ニ堪ヘサル者ヲ控除シタルモノヲイフ

「入學歩合」ノ算出ハ「入學資格該當者數」ヲ以テ「學校在籍生徒數」ヲ除シテ得タル商ヲ百倍シ四捨五入ヲ以テ小數點以下二位ニ止ム

其ノ他調査事項ノ記入ハ青年學校令施行細則「改正ノ第八號樣式」中當該事項ノモノニ同シ

三、乙表中實施行事ハ報告書提出月ノ前月分ヲ豫定行事ハ同當月分ヲ記入スルモノトス

年　月　日

石川縣知事　　殿

青年學校長　氏　　名　㊞

○壯丁教育調査ニ關スル件

（昭和七年三月二十五日
文部省發社三八號通牒）

標記ノ件ハ教育上ノ參考ニ資スルノ目的ヲ以テ毎年徵兵檢査ニ際シ實施シ來リタルモノナル處今般右調査ニ對シ一段ノ改善及擴充ヲ圖ルノ必要ヲ認メ別記ノ通調査要項ヲ相定メタルニ付今後之ニ依リ御實施相成度之ガ實施ニ關シテハ關係徵兵官ト御協議ノ上遺漏ナキヲ期セラレ度且調査整理ノ上ハ速ニ御報告相成度尙各徵兵署ニ於ケル本調査ノ實施ニハ成ルベク貴縣係員ヲシテ直接其ノ指導及監督ニ當ラシメラレ度又學力調査ノ調査問題ニ關シテハ全國ヲ通シ齊一ナルコトヲ必要トスルヲ以テ本省選定ノ調査問題ニ對シテハ之ニ變更ヲ加フルコトナク御實施相成度此段依命通牒ス

追而本件ニ關スル大正十四年四月二十三日照普一二號、昭和二年二月十四日發普三三號及昭和三年三月二日發普三八號ノ各通牒ハ廢止ト相成ニ付御了知相成度

昭和七年度學力調査ノ調査問題（見本刷）近日送付ノ筈ニ付貴縣ニ於テ印刷作成ノ上御使用相成度尙調査要項、調査票、調査實施上ノ注意事項等ハ近ク印刷ノ上所要部數送付ノ筈ニ付爲念申添フ

記

壯丁教育調査要項　（昭和七年三月二十五日
文部省發社三八號通牒）

一　目的

本調査ハ毎年徵兵檢査ニ際シ道府縣壯丁ノ教育程度及學力情況ヲ調査シ一般教育特ニ青年教育ノ改善進歩ニ資スルヲ以テ目的トス

二　調査事項

本調査ノ調査事項ハ左ノ四トス

(イ)　教育程度別人員調査

壯丁ノ教育程度ヲ左ノ十種ニ分チ各該當人員ヲ調査ス

(一)　不就學

(二)　尋常小學校中途退學

(三)　尋常小學校卒業

(四) 實業補習學校前期修了
(五) 高等小學校卒業
(六) 實業補習學校後期卒業
(七) 中等學校在學及中途退學
(八) 中等學校卒業
(九) 專門學校卒業及在學
(十) 大學々部卒業及在學

(備考)
右ノ各種別ノ範圍ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム
右ノ(一)乃至(七)ニ屬スル者ニ對シテハ更ニ青年訓練所(充當實業補習學校ヲ含ム)ニ於テ訓練ヲ受クル者ノ人員ヲ調査ス

(ロ) 國語、算術及公民科知識ニ關スル學力調査
國語、算術及公民科知識ニ關スル調査問題ヲ壯丁ニ課シテ解答ヲナサシメ其ノ結果ヲ左ノ教育程度ノ種別ニ從ヒテ調査ス但シ中等學校卒業以上ノ教育程度ノ者ニ對シテハ國語及算術ハ之ヲ調査セズ
(一) 不就學
(二) 尋常小學校中途退學
(三) 尋常小學校卒業
(四) 高等小學校卒業
(五) 實業補習學校後期卒業
(六) 中等學校在學及中途退學
(七) 中等學校卒業以上

(備考)
右ノ種別ノ(四)ハ教育程度別人員調査ニ於ケル種別ノ(四)及(五)ヲ(七)ハ(八)、(九)及(十)ヲ合シタルモノトス
本調査ニ使用スベキ調査問題ハ本省ニ於テ之ヲ選定シ其ノ內容及形式ハ各道府縣ヲ通ジ之ヲ齊一ナラシムルモノトス

(ハ) 尋常小學校ヲ卒業セザル者ノ不就學及中途退學ノ原因別人員調査
壯丁中尋常小學校ヲ卒業セザル者ニ就キ其ノ不就學又ハ尋常小學校中途退學ノ原因ヲ夫々左ノ八種ニ分チ各該當人員ヲ調査ス
(一) 癲癇、白痴
(二) 不具、癈疾
(三) 病弱、發育不完全
(四) 學業不振、學校嫌忌
(五) 家業ノ手傳
(六) 雇傭、徒弟
(七) 出稼、乘船
(八) 其ノ他

(二) 青年訓練關係調査
壯丁中青年訓練ニ關係ヲ有スル者ニ就キ左ノ各項ノ該當人員ヲ調査ス
(一) 青年訓練ヲ受クル者
(甲) 青年訓練所(充當實業補習學校ヲ含ム)ニ於テ訓練ヲ受クル者
(乙) 青年訓練所規程第八條ニ依リ訓練ヲ受クル者ト看做サレタル者
(二) 青年訓練所中途退學者(充當實業補習學校中途退學者ヲ含ム)
(三) 青年訓練所優良出席者(青年訓練ヲ受クル者ノ中、青年訓練所、充當實業補習學校及青年訓練所規程第八條認定ノ學校ニ於テ別ニ定ムル標準時數以上出席シタル者)

三 調査壯丁
本調査ヲ受クル者ハ徵兵署ニ於テ徵兵檢査ヲ受クル壯丁全部ノ外、徵兵署ニ於テ身體檢査ノミヲ受クル兵役法施行令第七條ニ依ル現役志願者、陸軍補充令施行規則第八十二條ニ依ル幹部候補生志願者、陸軍工科學校生徒志願者及陸軍戸山學校軍樂生徒志願者トス
學力調査ニ於テハ疾病其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ依リテ調査ヲ受ケ難キ者ニ限リ之ヲ除外ス

四 調査事務者
道府縣ノ本調査事務ハ社會教育主事及社會教育主事補又ハ視學官及視學之ヲ處理ス各徵兵署ニ於ケル本調査實施事務ハ市教育事務職員公立ノ青年訓練所主事、小學校長等ヲ調査委員トシテ之ヲ處理セシム道府縣ノ本調査事務者ハ各徵兵署ニ於ケル本調査實施ノ指導及監督ニ任ズルモノトス

五 調査方法
(イ) 本調査ハ徵兵署開設ノ場所ニ調査場ヲ設ケテ之ヲ實施スルモノトス
(ロ) 本調査ハ道府縣調査事務者ニ於テ徵兵官ト協議ノ上檢査ノ當日檢査ニ支障ナキ時刻ヲ選ビテ之ヲ實施スルモノトス但シ交通ノ關係ニ依リ檢査ノ前日ニ到着スルコトヲ要スル町村ノ壯丁ニ對シテハ檢査ノ前日ニ實施スルコトヲ妨ゲズ
檢査ノ當日遠隔地ヨリ參集スベキ壯丁ニ對シテハ檢査開始前ノ早朝ニ實施スルヲ避クルコトヲ要ス
(ハ) 調査ニ要スル時間ハ各壯丁ニ付一時間以內ニ於テ毎年之ヲ定ム
(ニ) 調査事項中學力調査ハ當日ノ受檢者全部ヲ合シ又ハ之ヲ町村別ニ分チ一齊ニ行フモノトス但シ徵兵檢査ノ都合ニ依リ各壯丁ニ對シ個々ニ行フコトヲ妨ゲズ
其ノ他ノ調査事項ハ壯丁名簿ニ依リ又ハ各壯丁ヨリ直接聽シテ之ヲ調査スルモノトス
(ホ) 各徵兵署ニ於テ本調査ヲ實施シタル結果ハ之ヲ町村別等ニ依リ一括シテ整理ノ上各調査事項ニ付之ヲ調査票ニ記入スルモノトス
調査ノ實施及整理ニ關スル注意事項及調査票ノ樣式ハ本省ニ於テ毎年之ヲ定ム
(ヘ) 學力調査ニ於テハ其ノ教育調査タルノ本旨ニ鑑ミ調査事務者ハ之ガ實施ニ當リ壯丁ヲシテ學科試驗等ト混同セシメザルヤウ留意スルコトヲ要シ且調査ノ結果ニ關シテハ壯丁ニ對シ學力情況ノ優劣ヲ講評セザルモノトス
(ト) 道府縣ニ於テ必要ト認ムルトキハ學力調査ニ當リ本省選定ノ調

査問題ニ依ル調査ヲ實施シタル後徴兵檢査ニ支障ナキ限リ別ニ當該道府縣作成ノ調査問題ニ依ル調査ヲ行フ事ヲ妨ゲズ

(チ) 學力調査ノ調査問題ハ全國ニ於ケル本調査ノ實施ヲ了スルマデハ之ヲ外部ニ發表セザルヨウ特ニ留意スルコトヲ要ス

六　調査ノ報告

道府縣ニ於テハ本調査ノ結果ヲ一微塵區（檢査區ヲ設ケタルトキハ檢査區）ヲ單位トシテ整理シ之ヲ各調査票ニ記入ノ上整理濟ノ分ヨリ逐次本省ニ報告スルモノトス

○學校生徒ノ服忌ニ關シ統計上取扱ノ件

（明治四十五年一月十二日發學第二八一號依命通牒）

內務部長ヨリ縣立學校長郡市長宛

客年八月二十六日附收學第四二五五號ヲ以テ生徒服忌ニ關スル義ニ付通牒致置候處右服忌ニ丁リ休業ヲ認可シタル場合ハ就學ニ關スル統計上當該生徒ニ限リ授業日數ヲ短縮シタルモノト看做シ御取扱相成可然儀ニ候條御了知相成度候也

「追テ小學校兒童出席簿ノ取扱ニ關シテハ左記ノ通心得シメラレ度候也」

記

一、服忌兒童ハ適宜ノ符號ヲ附シ出席及缺席ト區別スヘシ

一、日日出席平均數ハ其月ニ於ケル一般兒童ノ教授日數ヲ以テ一般兒童ノ出席總數ヲ除シタル數ト其月ニ於ケル服忌兒童ノ教授日數ヲ以テ當該兒童ノ出席總數ヲ除シタル數トノ和ヲ記入スヘシ

「」內ハ縣立學校長ニハ省ク

○雜誌小冊子等提出ニ關スル件

（昭和七年六月四日發學第六八八號通牒）

學務部長ヨリ中等學校長小學校長教育研究會長補習學校長男女青年團長宛

貴今貴校（會、團）ヨリ雜誌或ハ小冊子等發行ノ際ハ其ノ都度一部宛御提出相成度候也

第十二編　雜

○教育會開設ノ節屆出ノ件

（明治十九年四月十五日石川縣丙第四十號）

（郡（區）役所　（戶長）役場

町村立小學校

明治十四年（七月）丙七十號ヲ以テ郡區町村ニ於テ學事ニ就キ諮詢講究等ノ爲メ教育會ヲ開設セントスルモノハ其規則等可伺出樣達置候處自今伺出ニ及ハス其規則相副屆出ヘシ

右相達候事

○教員集會ニ關スル件

（昭和十一年四月十一日發學第六七號依命通牒）

學務部長ヨリ町村長町村學校組合管理者

小學校長青年學校長宛

昭和二年二月五日附發學第三一六四號通牒教員集會ニ關スル規程左ノ通改正相成候也

記

教員集會ニ關スル規程

第一章　通則

第一條　教員集會ハ初等教育青年教育及社會教育等ニ關スル事項ニ調査研究シ其ノ改善進歩ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　教員集會ヲ分チテ郡教育研究會、部教育研究會ノ二種トス

第三條　教員集會ノ會合ハ事務所所在地ノ學校內ニ於テ之ヲ行フ前記場所以外ニ於テ會合セムトスルトキハ其ノ都度知事ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　教員集會ハ會長之ヲ召集シ其ノ期日竝ニ議件ハ開會五日以前ニ知事ニ屆出テ其ノ狀況ハ會後遲滯ナク報告スヘシ

第五條　教員集會ニ左ノ役員ヲ置ク

	會長	副會長	理事	幹事
郡教育研究會	一名	一名	各郡ノ部數ト同數	一名
部教育研究會	一名	一名	—	一名

部教育研究會ノ幹事ハ之ヲ置カサルコトヲ得

第六條　會長ハ會ヲ代表シ會務ヲ總理シ會議ノ議長トナル

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

理事ハ會長ノ諮問ニ應ヘ重要ナル會議ニ參與ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ處理ス

第二章　郡教育研究會

第七條　郡教育研究會ハ郡內小學校長青年學校長小學校ニ類スル各種學校長ヲ以テ組織ス

第八條　郡教育研究會ハ其ノ事務所ヲ左記學校內ニ置ク

郡名	學校名
江沼郡	錦城尋常高等小學校
石川郡	松任尋常高等小學校
羽咋郡	羽咋尋常高等小學校
鳳至郡	輪島男兒尋常高等小學校
能美郡	芦城尋常高等小學校
河北郡	津幡尋常高等小學校
鹿島郡	七尾男兒尋常高等小學校
珠洲郡	飯田尋常高等小學校

第九條　郡教育研究會長ハ其ノ事務所々在ノ學校長ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ會員ノ互選トシ其ノ任期ヲ二ケ年トス

理事ハ各部教育研究會長ヲ以テ之ニ充ツ幹事ハ會長之ヲ選任ス

第十條　郡教育研究會ノ定會ハ毎年四月及十二月中各一回之ヲ開ク但シ必要アル場合ハ知事ノ認可ヲ得臨時會ヲ開キ又ハ會期ヲ變更スルコトヲ得

第三章　部教育研究會

第十一條　部教育研究會ノ區域ヲ左ノ通定メ其ノ事務所ヲ左記ノ學校内ニ置ク

郡名	部名	區域	學校名
江沼	第一部	大聖寺町　三谷村　塩屋村　三木村　瀬越村	錦城尋常高等小學校
	第二部	橋立村、塩津村、篠原村	北濱尋常高等小學校
	第三部	勅橋村　作見村　月津村　矢田野村　分校村　那谷村	勅橋尋常高等小學校
	第四部	山代町　南郷村　東谷口村　勅使村　庄村	山代尋常高等小學校
	第五部	山中町　東谷奥村　河南村　西谷村	山中尋常高等小學校
能美	第一部	小松町　安宅町　牧村　根上町　湊村	芦城尋常高等小學校
	第二部	白江村　粟津村　苗代村　御幸村	今江尋常高等小學校
	第三部	大杉谷村　金野村　西尾村　新丸村	西尾尋常高等小學校
	第四部	白峰村　尾口村　鳥越村	鳥越尋常高等小學校
	第五部	川北村　吉田村　粟生村　久常村　山上村	辰口尋常高等小學校
	第六部	寺井野町　國府村　板津村　中海村	小野尋常高等小學校
石川	第一部	美川町　柏野村　蝶屋村　笠間村　石川村	美川尋常高等小學校
	第二部	松任町　宮保村　一木村　郷村　出城村　御手洗村　安原村　旭村　中奥村　林中村　山島村	松任尋常高等小學校
	第三部	鶴來町　舘畑村　林村　蟻山村　河内村　吉野谷村	鶴來尋常高等小學校
	第四部	野々市町　額村　富奥村　押野村	野々市尋常高等小學校
	第五部	金石町　大野村　二塚村　戸板村	金石尋常高等小學校

	第六部	内川村　犀川村　湯涌谷村	犀川尋常高等小學校
河北郡	第一部	浅川村　川北村　内灘村	大浦尋常高等小學校
	第二部	三谷村　森本村　大場村　八田村　花園村	森下尋常高等小學校
	第三部	中條村　井上村　津幡町　笠谷村　英田村　倶利伽羅村	津幡尋常高等小學校
	第四部	宇ノ氣村　高松町　七塚村	宇ノ氣尋常高等小學校
羽咋郡	第一部	河合谷村　南大海村　北大海村　中莊村　北莊村　末森村　柏崎村	北川尻尋常高等小學校
	第二部	志雄町　一ノ宮村　邑知村　富永村　粟ノ保村　羽咋町　千里濱村　越路野村	羽咋尋常高等小學校
	第三部	上甘田村　西土田村　中甘田村　上熊野村　下甘田村　志加浦村　高濱町　堀松村　加茂村　東土田村	高濱尋常高等小學校
	第四部	熊野村　西浦村　鵜浦村　富來町　稗造村　鉋打村　東增穫村　西增穫村　西海村	富來尋常高等小學校
鹿島郡	第一部	餘喜村　瀧尾村　鹿島路村　越路村　金丸村　御祖村　久江村　能登部町　鳥屋村	能登部尋常高等小學校
	第二部	南大呑村　北大呑村	庵尋常高等小學校
	第三部	崎山村　東湊村　矢田郷村　德田村　七尾町　西湊村　石崎村	七尾男兒尋常高等小學校

	第四部	高階村　相馬村　金ケ崎村　和倉町	田鶴濱尋常高等小學校
	第五部	笠師保村　豐川村　中島村　熊木村　西岸村	中島尋常高等小學校
	第六部	東島村　中乃島村　西島村	向田尋常高等小學校
鳳至郡	第一部	輪島町　大屋村　河原田村　三井村　鵠巢村　西保村	輪島男兒尋常高等小學校
	第二部	町野村　柳田村　南志見村	町野尋常高等小學校
	第三部	宇出津町　神野村　三波村	宇出津尋常高等小學校
	第四部	鵜川村　諸橋村　兜村	鵜川尋常高等小學校
	第五部	穴水町　住吉村	穴水尋常高等小學校
	第六部	門前町　本郷村　浦上村　七浦村　諸岡村　黑島村　鋤地村	御比尋常高等小學校
珠洲郡	第一部	飯田町　若山村　直村	飯田尋常高等小學校
	第二部	寶立村　上戸村	鵜飼尋常高等小學校
	第三部	木郎村　小木町	松波尋常高等小學校

郡		
第四部	正院村　峭島村　三崎村	正院尋常高等小學校
第五部	西海村	大谷尋常高等小學校

第十二條　部教育研究會ハ其ノ部内小學校長青年學校長小學校ニ類スル各種學校長ヲ以テ之ヲ組織ス

第十三條　部教育研究會長ハ其ノ事務所所在ノ學校長ヲ以テ之ニ充ツ副會長ハ會員ノ互選トシ其ノ任期ヲ二ケ年トス幹事ハ會長之ヲ選任ス

第十四條　部教育研究會ノ定會ハ毎年五月、九月、一月中各一回之ヲ開ク但シ必要アル場合ハ知事ノ認可ヲ得臨時會ヲ開キ又ハ會期ヲ變更スルコトヲ得

附　則

第十五條　本規程實施ニ要スル細則ハ會ニ於テ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更改廢セムトスル場合亦同シ

本規程ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二年二月五日付發學第三一六四號通牒ノ同規程ハ廢止ス

○メートル法度量衡使用ノ件

（大正十五年二月二日　石川縣訓令甲第三號）

知事官房　農産物檢査所

內務部　種畜場
警察部　商品陳列所
（郡）市役所　工業試驗場
警察本分署　輸出絹織物檢査所
巡査教習所　生絲檢査所
公私立學校　水産試驗場
金澤測候所　育成院
農事試驗場　公立圖書館
蠶業試驗場　公立病院
蠶業取締所　町村役場

爾今特別ノ事由アルモノヲ除クノ外左記各項ニ依リ速ニメートル法度衡ヲ使用スヘシ

一、既定ノ法令、文書、圖書、臺帳等ニ表示アル度量衡ハ此等ヲ改訂又ハ更新ノ場合ニハメートル法ニ改メ端數ヲ整理シテ成ルヘク簡單ナル數ノモノトナスコト

二、新ニ法令、統計、文書、圖書、臺帳等ニ表示スル度量衡ハメートル法ニ依ルコト

三、新ニ物件ノ購入、寶却又ハ新設等ノ場合ニ用ウル度量衡ハメートル法ニ依ルコト

四、學校ニ於ケル教授上ノ度量衡ハメートル法ヲ主トスルコト

五、度量衡器其ノ他ノ器具機械ニシテ度量衡ノ目盛アルモノノ新規購入改造又ハ修繕ヲ爲ストキハメートル法ノモノトナスコト

六、商品其ノ他ノ物件ニナス度量衡ノ表記又ハ竝値標準ハメートル法（端數ヲ整理シテ成ルヘク簡單ナル數ノモノトナスコト）ニ依ルコト

七、一、二、三、四、五、六ノ各項ニシテ已ムヲ得サル場合ニ限リ慣用ノ度量衡ヲ併註又ハ併記スルコト

八、溫度壓力其ノ他ノ計量單位ニ付テモ以上ニ準シテ統一ヲ實行スルコト

○桃山報德會堂利用ニ關スル件

（大正十五年一月十五日　收文第七〇三號通牒）

內務部長ヨリ郡市長中等學校長宛

報德會ハ桃山御陵下ニ於テ教育勅語ノ御趣旨ヲ普及シ其ノ徹底ヲ期スル目的ヲ以テ雜誌ノ發刊講演會等ノ開催ニ努メ社會教化事業ニ盡シ居リ候處更ニ一千人ヲ收容シ得ル報德會堂ヲ客年十一月竣工セシメタルヲ以テ一層事業ノ徹底ヲ期スヘク今後各地ヨリ桃山御陵竝乃木神社ヘ參拜スル學生、生徒、青年團、處女會其ノ他ノ團體ニシテ先帝陛下ノ御聖德、乃木將軍ノ經歷其ノ他國民精神作興ニ關スル講演會等希望ノ向ニ對シ可成需ニ應スヘキ趣申越候條右御了知ノ上希望ノ場合ハ日時、團體名、人員數、希望演題竝ニ之ニ費シ得ル時間等ヲ具シ豫メ同會宛通知相成樣「致度候也」（貴管內關係ノ向ヘ周知方御取計相成度候也）

「　」內中等學校長　（　）內郡市長宛

○汽車賃割引證票使用方取締ノ件

（明治四十四年四月一日　收學五一五〇號通牒）

內務部長ヨリ（郡）市長縣立學校長宛

去ル明治四十二年十月二十日附收學第五一五〇號ヲ以テ汽車賃割引證票等ノ使用取締方ニ關シ及通牒置候處更ニ今回別紙ノ通リ申來候間「御管內各學校ヘ夫々取締方」御示達相成度候也（注意）縣立學校ヘハ本文括弧內ヲ「貴校職員及生徒」トス

追テ學校ニ於テ割引證交付ノ際所定ノ手續ヲ爲ササル爲使用者カ乘車ニ際シ不測ノ迷惑ヲ蒙ルコトモ有之趣ニ付學校ニ於テハ必ス左記ノ手續ヲ履ミテ交付スルコト又一旦交付シタル割引證ヲ紛失シタルトキハ氏名、年齡、番號、學校名其他參考トモナルヘキ事項ヲ詳記シ速ニ東京鐵道院營業課宛報告スルコトモ併セテ御注意相成度此段申添候也

一、割引證ニハ必ス番號、使用者、氏名、年齡、學校名、學校長名若ハ管理者ノ氏名ヲ記入スルコト

一、學校長若クハ管理者氏名ノ下ニハ其職印ヲ押捺シ尙豫メ帳簿ヲ備置キ該帳簿ト割引證トニ懸ケ前記職印ヲ以テ割印スルコト

○乘車船賃割引證不正使用者取締方ニ關スル件

（明治四十四年三月二十日　官普一四號）

普通學務實業學務專門學務三局長通牒

冬夏季休業中各學校職員生徒ニ對シ鐵道院ヨリ交付セラルル乘車船賃割引證不正使用者取締方ニ就テハ去四十二年十月十三日官普一三六號ヲ以テ及通牒置候處同院ニ於テ昨年夏季使用ノ割引證ニ就キ一二管理局ヲシテ取調シタル結果往々濫用者アルヲ發見致候趣就テハ斯ル濫用者多數アル學校ニ對シテハ戒飭ノ爲割引證ノ交付ヲ見合セ若シ到底救濟ノ途無之ト認ムル場合ニ於テハ一般學校ニ對シテモ割引ヲ廢止スル等相當ノ處置ヲ採ルヘキ見込ナル旨同院ヨリ申越有之候ニ付テハ爾今一層注意ヲ加ヘ右樣ノ不都合無之樣貴管內各學校ヘ夫々ニ嚴重御示達相成度此段及通牒候也

○旅客運賃割引證ノ件

（大正十年一月二十七日　發文八號）

文部大臣官房文書課長通牒

首題ノ件ニ關シ左記事項承知相成度シ

一、割引證ハ貴管下ノ學校ニ對シテハ貴廳ヨリ交付セラレタシ

一、身分證明書ハ所定ノ樣式ニヨリ（紙質ハ模造紙二十斤位ノモノ）作製ノ上交付シ生徒ニ對シテハ每學年教員ニ對シテハ一年每ニ新ニ作製シテ交付セラレタシ尙右證明書ハ旅行ノ際常ニ携帶セシメラレ度若シ係員ノ請求アルトキ證明書ヲ呈示セサルトキハ（國有鐵道旅客及荷物運送取扱細則第七十條）ノ規定ニ依リ二倍ノ賃金ヲ請求セラルルニ付一層注意ヲ與ヘラレタシ

一、一般ニ教育ニ從事スル者（校長ヲ含ム）ハ割引證ノ交付ヲ受クルコトヲ得レトモ事務官、書記、小使等ハ之ヲ受クルコトヲ得ス

一、小學兒童ニテモ十二歲以上ノ者ニハ交付セラルヘシ

一、割引證ハ必要ニ應シ隨時請求セラルルモ差支ナシ

一、使用者ニ交付セラルルモ隨時ニテ差支ナシ

一、使用者ニ交付ノ方法ハ學校ニテ適宜處理セラレ差支ナキモ受領者ノ姓名、割引證、番號等ノ記入簿ハ相當ノ期間保存セラルルヲ要ス

一、一人ニ交付スル割引證ノ數ハ制限ナキモ乘車區間ノ下ニ往復ト記入スレハ一枚ニテ往復差支ナキニ付可成節約スル樣注意ヲ乞フ若シ交付ヲ受ケタル割引證不用ニ歸シタルトキハ返納セシメ尙其ノ旨帳簿ニ記入シ置カレタシ

一、割引證ハ從來ト同樣私設鐵道ニモ連絡有效ナリ

一、割引證ノ不正行使ニ對シテハ嚴重ナル制裁ハ殷アリ右不正行使者ヲ出シタル學校ニ對シテハ爾後割引證ヲ下附セサルコトモアルニ付學校長ニ於テ十分監督セシメラレタシ

一、割引證ハ左記樣式ニヨリ記入相成度シ

（割引證ハ上卷五三八ノ三一頁旅客及荷物運送規則參看）

○旅客運賃割引證交付ニ關スル件

（大正十年六月二十八日　收學第六號ノ內）

知事ヨリ文部大臣官房文書課長宛照會

旅客運賃割引證ハ一般教育ニ從事スル者ニ交附スヘキ本年一月二十七日御通牒ノ次第モ有之候處左記該當者モ等シク交附シ差支無之哉何分ノ儀御回答相煩度候也

記

一、實業補習學校教員養成所長、教員、生徒

二、小學校教員養成所長、教員、生徒

三、幼稚園長、保姆

右回答

首題ノ件ニ關シ本月二十八日附收學第六號ノ內ヲ以テ御照會ノ處右ハ御意見ノ通ニテ差支ナキモ十二才以下ノ小學校生徒ニハ適用セラレサルニ付御了知相成度

○同上ノ件

（大正十年十月十日　發文四五號）

文部大臣官房文書課長通牒

近來私立學校中國有鐵道割引證及身分證明書交附ニ關シ往々手數料ヲ徵收スル向有之趣ノ處右ハ甚タ不都合ノコトト存セラルルニ付將來右樣ノコトナキ樣御監督相成度

○同上ノ件

（大正十年三月一日　發文一九號）

文部大臣官房文書課長通牒

休職教員ニシテ割引證ノ交付ヲ受ケ乘車スル者往々有之趣鐵道省ヨリ特ニ通報アリシニ付爾後休職教員ニハ割引證御交付無之樣御注意相成度

○同上ノ件

（大正十一年十一月十六日　收學第一〇八三號通牒）

內務部長ヨリ（郡）市長縣立學校長私立校長宛

陸金城兩女學校長宛

大正十年一月教員生徒旅客運賃割引證規則改正セラレ回數ヲ制限セス適時割引證ヲ行使シ得ルコトトナリテヨリ生徒ニ於テハ濫メ餘分ニ割引證ノ交付ヲ受ケ實際之カ使用ヲ爲ササル向モ有之自然種々弊害ヲ生シタル場合モ有之趣其筋ヨリ通知有之候ニ付右樣ノ事無之樣充分御配意相成度候也

追テ以後割引證御請求ノ際ニハ枚數ト共ニ之ニ對スル人員概數及使用見込期間ヲモ御記入相成度候也

○旅客運賃割引證訂正ニ關スル件

（大正十二年六月十二日
官文四〇號）

文部大臣官房文書課長通牒

國有鐵道ニ於テ旅客運賃ノ割引ヲ爲ス場合ニ提出スル證券ニシテ訂正ヲ爲シタルモノノ取扱方ニ關シ左記規定ヲ制定シ來ル七月一日ヨリ實施可相成旨當該官廳ヨリ通報有之ニ付右御了知相成度

追テ證票交付ノ際發行者ニ於テ必要事項ヲ記入發行可相成筈ナルモ該規定ヲ勵行セサル向モ有之往々他人ニ讓與スル等ノ不都合ヲ爲ス者ヲ生シ取締上甚タ遺憾ナル次第有之趣ヲモ併セテ申越タルニ付右ノ如キコト無之樣特ニ嚴重ニ御取締相成度

記

國有鐵道旅客及荷物運送取扱細則

第六條　旅客又ハ荷主ノ提出シタル割引票其ノ他ノ文書中ニ訂正シタル箇所アル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限リ之ヲ有效トシテ收受スルコトヲ得ルモノトス

一、發行者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ發行者ノ認印

二、使用者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ使用者ノ認印

○休學中ノ生徒ニ對スル旅客運賃割引證ニ關スル件

（昭和二年四月九日
收學第一號通牒）

學務部長ヨリ公私立中等學校長實業補習學校長宛

標記ノ件ニ關シ左記甲號ノ如キ長街縣ノ照會ニ對シ乙號ノ通回答致シタル旨其ノ筋ヨリ通牒越候條御了知相成度候也

（甲號）

長野縣照會

鐵道乘車割引券交付方ニ關シ左記ノ廉何分ノ御指示相煩度此段及照會候也

記

一、休學中ノ生徒ヨリ鐵道割引證ヲ請求シ來リタルトキ該割引證ヲ交付スルモ差支ナキヤ

（乙號）

文部大臣官房文書課回答

本年二月二十五日學發甲第三六號ヲ以テ御照會相成タル件ハ交付セサルコトニ經何決定相成タルニ付此段回答ス

○陸軍造兵廠參觀ニ關スル件

（大正十二年九月七日
收兵社第五五七號通牒）

內務部長ヨリ郡市長及町村長及公私立學校長宛

從來首題ノ件ニ就テハ凡テ陸軍大臣ノ認可ヲ要シタル處爾今通常ハ陸軍造兵廠長官ニ於テ許可シ得ルコトニ定メラレ候ニ付從來ハ同廠長官宛ニ官衙、學校、團體ノ長若クハ其ノ代表者ヨリ人員、期日ヲ出願スヘキ旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條可然御取計相成度候也

追テ今後ハ青年團體ニ對シテモ許可セラルヘク又外國人（諸學校在學中ノ者ヲ含ム）ノ參觀ハ外務省經由陸軍大臣ノ許可ヲ要スヘキ儀ニ付御了知相成度候

○同上ノ件

（昭和四年一月三十日
收學第二七二一號）

學務部長ヨリ實業補習學校長金澤高等
豫備學校長青年訓練所主事宛

標記ノ件ニ關シ青年訓練所在所者ニ對シ爾今參觀許可相成ヘキニ付希望ノ向キハ地方長官ヲ經テ陸軍造兵廠長官宛出願セシメラレ度旨陸軍省ヨリ通牒有之候條御了知相成度

○軍港觀覽ニ關スル件

（昭和八年七月十五日
收社兵第七二六號通牒）

學務部長ヨリ市町村長宛

標記ノ件ニ關シ吳鎭守府ヨリ今般左記ノ通通牒越候條將來右ニ依リ御取扱相成度候也

記

一、海上輸送其ノ他ノ關係上日曜及祝祭日ノ觀覽ハ成ルベク避クルコト

二、觀覽許可時刻ハ午前八時ヨリ午後四時迄トス

三、觀覽願書ハ左記事項ヲ記載シ觀覽期日一週間前迄ニ到着スル樣本府宛提出ノコト

（イ）觀覽者ハ住所、身分、職氏名、年齡（團體トナルトキハ引率者ノミニ付記載シ尙團體名及男女別員數ヲ附記）

（ロ）觀覽ノ日時及吳着發ノ時刻

（ハ）觀覽希望個所

四、汽船ニテ軍港入港ノ場合ハ別紙樣式ニ依ル「吳軍港入港願」ヲ吳港務部宛三通（但シ八百噸以上ノ場合ハ吳鎭守府司令長官宛四通）提出シ許可ヲ要スルニ付相當日時ノ餘裕ヲ見積リ事前ニ手續ノコト

五、海軍兵學校ノ觀覽ハ直接同校宛出願ヲ要ス

六、海軍兵學校觀覽ノ場合吳、小用間ハ海軍汽艇ノ便乘ハ許可セラレザルモ左記ニ依リ民船傭入方（船賃自辨ノコト）交渉スベキニ付豫メ申出ラレ度尙小用、兵學校間徒步約三十分ヲ要ス

（イ）吳河原石、小用間片道一人約十五錢所要時間三十分

（ロ）江田島、宮島或ハ字品間片道一隻約五圓（定員約三十人）

（ハ）江田島、宮島或ハ字品間片道一隻約十五圓（定員約八十人）所要時間一時間半

七、吳海軍下士官兵集會所ノ宿泊（一人一泊二十錢）ハ在鄕軍人、青年訓練所員、各學校生徒、青年團員等ニシテ一見識別シ得ル服裝ヲナ

シ指揮者ヲ有スル統制アル團體ニ限リ同所ニ於テ支障ナキ場合特ニ許可セラルルニ付豫メ本府宛照會セラルルカ或ハ直接同所宛照會セラルレバ出來得ル限リ便宜取計フベク

八、從來豫定觀覽時間ニ比シ觀覽希望個所多キニ過ギ充分ナル效果ヲ擧ゲ得ザル場合勘カラザルヲ以テ團體ノ場合ハ一日ノ豫定ハ略吳工廠、軍艦、吳海兵團位ニ止ムルヲ可トス

尙廣工廠、吳航空隊及海軍潛水學校ハ相當隔在セルヲ以テ之等ヲ全部一日ニテ觀覽ハ到底不可能ナリ

昭和　年　月　日

願人　住所　氏　名

吳海軍港務部　御中

吳軍港第　區入港願

全長　吃水

一、船種及總噸數

一、船名及符字

一、船長氏名（船主任住所氏名）

一、入港目的

一、陸揚場所（積込場所）

一、碇泊場所

一、滯在期間　昭和　年　月　日ヨリ向フ　日間

一、發船地

右　出願ス

○衆議院議員選擧運動ノ爲ニスル公立學校等ノ設備ノ使用及其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ニ關スル規程

（昭和十年一月十九日
石川縣令第四十四號）

第一條　公立學校又ハ衆議院議員選擧法施行令（以下單ニ施行令ト稱ス）第七十六條ノ營造物ノ設備ノ管理者施行令第八十一條ノ二第二項及第八十一條ノ三第二項又ハ此等ヲ準用スル第八十三條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスルトキハ別樣式ニ準シ申請スベシ其ノ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二條　演說ニ依ル選擧運動ノ爲公立學校又ハ施行令第七十六條ノ營造物ノ設備使用ノ許可竝ニ其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ヲ受ケントスル場合ノ申請書ハ別記樣式ニ準シ之ヲ作成スベシ

第三條　公立學校又ハ施行令第七十六條ノ營造物ノ設備使用ノ申請又ハ其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設公營ノ申請ヲ受理シタルトキハ當該營造物ノ管理者ハ直ニ其ノ受理ノ年月日時ヲ申請書ノ餘白ニ記載スベシ

第四條　施行令第八十一條ノ二第四項又ハ之ヲ準用スル第八十三條ノ規定ニ依リ自ラ演說會開催ノ爲ニスル施設ヲ加ヘントスルトキハ豫メ當該營造物ノ管理者ト協議スベシ

第五條　公立學校又ハ施行令第七十六條ノ營造物ノ設備ノ管理者ハ第三條ノ申請アリタルトキハ別記樣式ニ依ル營造物使用竝ニ施設公營申請書處理簿ニ之ヲ登錄スベシ

第六條　公立學校又ハ施行令第七十六條ノ營造物ノ設備ハ午前零時ヨリ午前八時迄ハ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得ズ

第七條　公立學校又ハ施行令第七十六條ノ營造物ノ設備ノ管理者ハ使用ノ許可ニ際シ火災豫防、危害若ハ損傷防止ノ爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ入場ノ人員ヲ制限スルコトヲ得

第八條　公立學校又ハ施行令第七十六條ノ營造物ノ設備ノ管理者其ノ使用ノ許否ヲ決定シタルトキハ別記樣式ニ依リ直ニ之ヲ知事ニ報告スベシ

第九條　公立學校又ハ施行令第七十六條ノ營造物ノ設備ノ使用ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ代人ノ爲スベキ後片付ハ使用許可時間內ニ於テ之ヲ爲シ當該營造物ノ管理者又ハ其ノ代理者ニ引渡スベシ

前項ノ規定ニ依ル引渡ニ付テハ別記樣式ニ準シ引渡書二通ヲ作成シ引渡シタル者及引受ケタル者ニ於テ各一通ヲ保存スベシ

第十條　公立學校又ハ施行令第七十六條ノ營造物ノ設備ノ管理者ハ其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ニ關シ選擧終了後遲滯ナク別記樣式ニ依ル報告書ヲ知事ニ提出スベシ

附　則

本令ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

昭和二年八月石川縣令第四十七號衆議院議員、縣會議員竝市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員選擧運動ノ爲ニスル公立學校等ノ設備ノ使用ニ關スル規程ハ之ヲ廢止ス

別　記

演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ程度及收納スベキ費用ノ額等承認申請書樣式

公營施設程度及公營費用額承認申請書

一　營造物ノ名稱　何々小學校（何公會堂）（何議事堂）

二　使用ニ供スベキ設備　講堂及附屬控室（第何講堂）（階上（階下）大廣間）（會議室）

三　演說會場ノ坪數　何　坪

四　平　面　圖　別紙ノ通

五　施設ノ範圍、程度

（一）演說會場

照明ノ種類、程度　常設電燈何燭光幾燈（臨時有料（無料）取付電燈何燭光幾燈）

演壇、机、椅子等　演壇一個卓子何脚椅子何脚湯瓶及湯呑各一個

聽衆席　其座又ハ座數詰何坪其ノ他ハ板張ノ儘トス（腰掛何脚）（椅子何脚）

（二）辯士控室

照明ノ種類、程度　常設電燈何燭光幾燈（臨時有料（無料）取付電燈何燭光幾燈）（何匁蠟燭三本）

其ノ他　卓子何脚椅子何脚　煙草盆何個湯茶器何具

（三）其ノ他

會場看板　戸板紙張ノモノ一個（板製ノモノ一個）

其　ノ　他　下駄棚、便所、雨具掛ヲ開放ス

六　收納スベキ費用ノ額

晝　間　何圓何錢

夜間甲(乙)　何圓何錢

(使用料條例ニ定ムル料金ニハ演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ公營ニ要スル費用ヲ包含ス(セズ))

(營造物使用料條例別紙ノ通添付ス)

右承認相成度衆議院議員選擧法施行令第八十一條ノ二第二項及第八十一條ノ三第二項(第八十三條)ニ依リ申請候也

昭和何年何月何日

右營造物管理者

何郡(市)何町(村)長　氏　名印

(何郡(市)何町(村)農會長　氏　名印)

(何商工會議所會頭　氏　名印)

石川縣知事　氏　名宛

備考

添付ノ別紙平面圖ニハ演說會場、舞士控室等ノ位置ヲ明ニシ且演說會場ノ坪數算出ノ基礎ヲ明記スベシ

營造物ノ設備ノ使用及其ノ使用ニ依ル演說會開催ノ爲ニスル施設ノ公營申請書樣式

營造物使用竝ニ施設公營申請書

一　使用セントスル營造物ノ設備

何々小學校講堂及附屬控室(第何講堂)

(何公會堂階上(階下)大廣間)(何會議事堂會議室)

二　使用ノ日時

昭和何年何月何日　自午前(後)何時　至午前(後)何時

三　施設公營費負擔者

國庫負擔　(申請者負擔)

四　施設公營ノ費用額　何圓何錢

五　申請者ノ居所

何府縣何郡(市)何町(村)大字何(町)何番地(何某方電話何番)

(何選擧事務所電話何番)

(六　代人ノ氏名及居所)

(何府縣何郡(市)何町(村)大字何(町)何番地(何某方電話何番)

(何選擧事務所電話何番))(申請者ノ居所ニ同ジ)

右許可相成度(費用相添)此段申請候也

昭和何年何月何日

右　議員候補者　氏　名印

(議員候補者何某ノ選擧事務長)

(氏　名印)

何々管理者

氏　名宛

備考

一　代人ヲ定メザル場合ニ在リテハ第六項ハ記載ヲ要セズ

一　營造物使用申請ト併セテ演說會開催ノ爲ニスル施設ノ公營申請ヲ爲サザルモノニ付テハ題名中ノ「竝ニ施設公營」ノ字句及ビ第三項及第四項ハ之ヲ記載スルニ及バズ

一　前項ノ場合ニ於テハ第一項ニ仍「演壇一個、机何脚、腰掛何脚」等營造物使用竝ニ施設公營申請書處理簿樣式

營造物使用竝ニ施設公營申請書處理簿

管理者印	受理月日時	提出方法	使用日時	營造物ノ名稱及申請事項	公營費負擔者	同上金額及納付月日	許否月日及不許可理由	申請者及代人ノ氏名	取扱者印
	何月何日午前(後)何時何分	郵便(本人出頭)(代人出頭)	何月何日自午前(後)何時至午前(後)何時	何々小學校(何公會堂)(何々使用竝ニ施設ノ公營)(申請者)	國庫	何圓何錢(何月何日納付)(何月何日公營ヲ受ケザル旨申出ニ依リ何月何日納付金還付)	何月何日許可(何月何日何々ノ爲不許可)	議員候補者何某(議員候補者選擧事務長)(代人氏名)	㊞

引渡書樣式

引渡書

一　營造物ノ名稱　何々小學校(何公會堂)(何議事堂)

二　使用日時　昭和何年何月何日午前(後)何時使用開始午前(後)何時終了

三　損傷等ノ有無　設備等ニ損傷ナシ(何々何個破損ノ外他ニ損傷ナシ)

右引渡候也

昭和何年何月何日

引渡人　氏　　名印
引受人　氏　　名印

營造物設備ノ使用及施設公營ノ許否ニ關スル報告書樣式

營造物使用等許否報告

許可（不許可）ノ日	營造物ノ名稱	使用スベキ日時	許可又ハ不許可ノ事項	施設公營費負擔者	申請者氏名	備考
何月何日許可（何月何日不許可）	何々小學校（何公會堂）	何月何日自午前（後）至午前（後）何時	使用竝ニ施設公營（使用）	國庫（申請者）	議員候補者（議員候補者何某選擧事務長）氏名	

右報告候也

昭和何年何月何日

何郡（市）何町（村）長　氏　　名印
〔何郡（市）何町（村）農會長　氏　　名印〕
（何商工會議所會頭　氏　　名印）

石川縣知事　氏　　名宛

備考

備考欄ニハ藏願ノ有無及其ノ處理狀況、不許可ノ場合ハ其ノ理由等ヲ記載スベシ

演說會ニ必要ナル施設ノ公營ニ關スル報告書樣式

演說會施設公營狀況報告

營造物ノ名稱	施設公營費用額	同上納付又ハ還付月日	申請者及納付者	備考
何々小學校	圓　錢	何月何日請求濟	氏名	
何公會堂		何月何日納入	國庫負擔	
		何月何日還付	氏名	
			本人負擔	
			何月何日使用ヲ爲サザル旨申出ニ付還付	

右報告候也

昭和何年何月何日

何郡（市）何町（村）長　氏　　名印
〔何郡（市）何町（村）農會長　氏　　名印〕
（何商工會議所會頭　氏　　名印）

石川縣知事　氏　　名宛

○衆議院議員選擧運動ノ爲ニスル演說會施設公營ニ關スル件

（昭和十年一月十九日發地第一四八七號通牒）

內務部長學務部長ヨリ市町村長町村組合管理者
商工會議所會頭農會長縣立學校長宛

客年六月衆議院議員選擧法中改正アリ之ニ伴ヒ同年十一月同法施行令及施行規則中改正相成候處右ノ內標記ノ件ニ關シテハ本日石川縣令第四十四號ヲ以テ取扱ニ關スル細目ヲ規定相成候ニ付テハ左記事項御留意相成度候也

追テ現在ノ公立學校、公會堂、議事堂（市町村會等ノ會議室ヲモ含ム）ニ付演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ノ程度其ノ他必要ナル事項及其ノ公營費用トシテ收納スベキ費用額ニ付テハ右縣令第一條所定樣式ニ準ジ選クモ二月十日迄ニ承認申請相成度

記

一、公營トシテ爲スベキ施設ノ範圍、程度等ハ當該營造物ノ設備ノ實狀

ニ部シテ定メラルベキモノナレドモ、一面ニ於テハ公營ニ關シ納付セシメ又ハ國庫ニ於テ負擔スル費用ノ額ニ相應セシムル樣留意スルコト

二、公營ニ關シ納付セシムル額ハ內務大臣ノ定メタル規準ニ從ヒ其ノ所定ノ定額ニ依リ之ヲ定ムベキモノニシテ適宜增減スルガ如キコトハ認メラレズ尤モ施行規則別表備考第四號ノ料金ニシテ暖房ヲ用フル場合ト之ヲ用ヒザル場合及會衆ヨリ入場料ノ類ヲ徵收スル場合ト然ラザル場合ノ別ヲ存スルトキハ暖房ヲ用ヒズ且會衆ヨリ入場料ヲ徵收セザル場合ノ料金ノ額ニ依ルベキコト

三、同一時ニ同一營造物ヲ使用スル爲議員候補者數名連署ヲ以テ申請シタルニ對シ許可ヲ與ヘ併セテ施設ノ公營ヲ爲シタルトキハ施行令第七十二條ノ二第一項ノ適用ニ付テハ關係議員候補者ガ各自一回公營ヲ受ケタルモノト看做サルベキモノナルコト

四、營造物ヲ演說會場ニ使用スルニ當リ辯士控室トシテ聽衆席以外ニ教室等ヲ使用シ或ハ便所鄰下等ニ點燈ノ設備ヲ爲シ之ガ爲費用ヲ要シタル場合ト雖モ凡テ一括シテ公營費用ニ包含セラルルモノナルコト

五、營造物使用ノ料金ガ公營ニ要スル費用ヲモ包含（施行令第八十三條第二項參照）スル場合ト雖モ公營ノ申請又ハ使用申請書ニ公營ヲ受クル旨ノ附記ヲ要ス、又其ノ料金ハ勿論公營ノ範圍、程度ニ付知事ノ承認ヲ受クルコトヲ要スル義ナリ

六、施行令第八十一條ノ二第四項ニ依リ議員候補者ガ自ラ加フル施設ニ對シテハ豫メ管理者ニ於テ一定ノ制限ヲ加ヘ差支ナキモ此ノ場合ハ豫メ告示スル等申請者ニ依リ取扱ヲ異ニスルガ如キコトナキ樣留意スルコト

七、施設公營ノ申請アリタルトキハ假令演說會開催ノ爲使用セザリシ場合ト雖モ施行令第八十一條ノ三第三項ノ申出ヲ爲サザル限リ施設ノ公營ヲ受ケタルモノト看做シ納付金ハ還付スルヲ要セザルモノナルコト

八、公營トシテ爲スベキ施設ノ範圍、程度及納付セシムベキ費用ノ額ニ關スル告示ハ大體左記樣式ニ準ズルコト但シ縣立學校長ノ爲スベキ告示ハ縣公報ニ依ルモノトス

何市（町）（村）告示第何號

衆議院議員選擧法施行令第八十一條ノ二第二項及第八十一條ノ三第二項（第八十三條竝ニ第八十一條ノ二第二項及第八十一條ノ三第二項）ノ規定ニ依リ石川縣知事ノ承認ヲ得衆議院議員選擧運動ノ爲ニスル演說會ノ施設ノ公營ノ範圍、程度及納付セシムベキ費用額左ノ通定ム

昭和何年何月何日

何郡（市）何町（村）長　氏　名

（何郡（市）何町（村）農會長　氏　名）

（何商工會議所會頭　氏　名）

營造物ノ名稱及設備	施設ノ種類	何小學校第一講堂	同第二講堂	何議事會堂	何公會堂階下廣間	同上階上廣間
演說會場坪數		一五〇坪	〃	〃坪	〃坪	〃坪
演說會場	照明ノ種類程度	常設電燈何燭光幾燈（臨時有料取付電燈何燭光幾燈）	〃	〃	〃	〃
演說會場	演壇	各二	〃	〃	〃	〃
演說會場	機械	一	〃	〃	〃	〃
演說會場	椅子	二	〃	〃	〃	〃
演說會場	湯瓶	一	〃	〃	〃	〃
演說會場	湯呑	一	〃	〃	〃	〃
演說會場	聽衆席	二〇〇〇坪	〃	〃	〃	〃
演說會場	疊	二〇〇坪	〃	〃	〃	〃
演說會場	蓆	二〇〇坪	〃	〃	〃	〃
演說會場	莨蓙	二〇〇坪	〃	〃	〃	〃
演說會場	數張	二〇〇坪	〃	〃	〃	〃
辯士控室	照明ノ種類程度	電燈	〃	〃	〃	〃
辯士控室	椅子	一	〃	〃	〃	〃
辯士控室	机	一	〃	〃	〃	〃
辯士控室	蠟燭	五	〃	〃	〃	〃
辯士控室	其ノ他	常設電燈何燭光幾燈（何匁蠟燭何本）	〃	〃	〃	〃
辯士控室	烟草盆	二具	〃	〃	〃	〃
辯士控室	湯呑茶器	二具	〃	〃	〃	〃
其ノ他	會場看板	一	〃	〃	〃	〃
其ノ他	紙張製	ナシ	〃	〃	〃	〃
其ノ他	小使	ナシ	〃	〃	〃	〃
其ノ他	給仕	平常ノ儘開放ス	〃	〃	〃	〃
其ノ他	便所下駄掛等	〃	〃	〃	〃	〃
其ノ他	棚	〃	〃	〃	〃	〃
其ノ他	具	〃	〃	〃	〃	〃
納付セシムベキ額	雨戸	〃	〃	〃	〃	〃
納付セシムベキ額	晝夜間	四圓九圓	〃	〃	〃	〃

○公立學校設備使用ニ關スル件

（昭和二年九月七日
發學第二九四四號通牒）

學務部長ヨリ縣立學校長（市部ヲ除ク）
珠州支廳長町村長町村學校組合長宛

標記ノ件ニ關シ別紙甲號ノ照會ニ對シ乙號ノ通回答セラレタル趣通知有之候條御了知相成度

（甲　號）

衆議院議員選擧法第百四十條第二項ニ依リ衆議院議員選擧ノ際公立學校ノ設備ハ之ヲ演說ニ依ル選擧運動ニ其ノ使用ヲ許可スルコトニ相成候處此ノ規定ハ府縣制第三十九條及市制第三十九條ノ三第一項ニ準用セラレ候ニ付府縣會議員等ノ選擧ノ際公立學校ノ設備ハ之ヲ演說ニ依ル選擧運動ニ其ノ使用ヲ許可スヘキコトハ明瞭ニ候得共モ町村制ニ於テハ此ノ規定ノ準用ナキ爲メ聊カ疑義ヲ生シ候ニ付左記ノ場合ニ於ケル取扱方御指揮被下度此段及稟伺候也

追テ本件ハ管内町村ヘ對シ通牒ヲ發スルノ必要ニ迫ラレ居候ニ付テハ至急御指揮相仰度申添候

記

一、町村會議員選擧ノ際公立學校（小學校以外）ノ設備ヲ演說ニ依ル選擧運動ニ使用セシメテ差支ナキヤ

二、小學校令第三十條但書ヲ廣ク解釋シテ町村會議員選擧運動ニ使用セシメテ差支ナキヤ

（乙　號）

標記ノ件ニ關シ十月二十日貴學發第六八二號ヲ以テ御照會ノ處右ハ左記ノ通御諒知相成度

記

町村會議員選擧ノ際公立學校ノ設備ヲ演說ニ依ル選擧運動ニ使用セシメ又ハ小學校令ニ依リ小學校舍ヲ町村會議員選擧運動ニ使用セシムルハ其孰モ然ルヘカラス尙大正十五年勅令第二百十一號ニ依リ指定セラレタル市以外ノ市ノ市會議員選擧ニ關シテモ亦同シ

○選擧演說ノ爲公立學校等ノ設備使用ニ關スル件

（昭和二年十一月十一日
收學第三三八八號通牒）

學務部長ヨリ支廳長、市町村長、
町村學校組合管理者宛

今般標記ノ件ニ付某縣ヨリ甲號ノ通照會有之タルニ對シ乙號ノ通回答致シタル趣通牒有之候ニ付御了知相成度

甲　號

縣會議員選擧ニ關シ選擧演說ノ爲學校ノ設備ノ使用許可ヲ受ケタル候補者中一般入場者ヨリ入場料ヲ徵收スルモノ有之候處右ハ選擧法其ノ他ノ規程ヲ對照シ之カ使用ヲ拒否スヘキ規定無之相認メ候ニ付此ノ儘默認致置候得共一應御意見承知致度此段及照會候也

乙　號

一般入場者ヨリ入場料ヲ徵收スルカ爲公立學校ノ設備ノ使用ヲ禁止スル法令上ノ規定ハ無之モ實際ニ當リテハ避ケシメラルル樣致度此段回答ス

○演說ニ依ル選擧運動ノ爲ニスル公立學校等設備使用ニ關スル件

（昭和五年二月八日
收地第一五四八號通牒）

內務部長
學務部長ヨリ市町村長町村組合長農會長縣立學校長宛

標記ノ件ニ關シ議員候補者又ハ推薦届出者ヨリ申請アリタルトキハ能フ限リ迅速處理シ且公平ニ取扱ハルヘキハ勿論ノ義ニ有之候得共左記事項其ノ筋ヨリ特ニ申越ノ次第モ有之候條御注意相成度

記

一、衆議院議員選擧法施行令第八十條ニ「二日以內ニ」トアルハ公立學校等ノ設備使用申請者ニ對スル許否決定ノ通知ヲ可及的速カナラシメントスルノ趣旨ナルヲ以テ申請アリタルトキハ右期間內ト雖モ能フ限リ迅速ニ處理スルコト

一、公立學校等ノ設備使用ノ許可ヲ受ケタル者カ所定ノ使用開始時刻ニ使用ヲ開始セサルトキハ其ノ使用ヲ拒否スル向往々有之斯クノ如キハ穩當ナラサルヲ以テ許可ヲ受ケタル使用時間內ハ何時ニテモ使用セシムル樣取扱フコト

下卷

目次（下卷）

第一編　御影、詔勅及敬禮

●教育勅語謄本交付ノ件……明二三年縣訓一六一……一
○教育ニ關スル　勅語奉讀及謄本取扱方……明二三縣訓一六二……一
○御影奉置ニ關スル件……明二五縣訓二七……一
●御眞影複寫奉置手續……明二五縣訓七九……一
○御眞影ノ複寫ニアラサル他ノ　御影奉置手續……明二五縣訓八〇……二
○御影奉置所ノ建設變更ニ關スル件……大八發學一二九……三
○菊御紋章ニ關スル件……大一三發學一三二八……三
○教育ニ關スル　勅語等廢校ノ節返納ノ件……明二四縣訓四二……三
○御眞影奉揭ニ關スル件……昭三收學二〇九七……三
○御影奉護ニ關スル件……大五發學一三……四
○御影奉拜ニ關スル件……大八收學三一一九……五
○新聞雜誌等ニ奉揭ノ　御影ニ關スル件……昭六收學二四七二……五
○國民精神作興ニ關スル　詔書ノ御趣旨貫徹方……大一二縣訓號外……五

○教學振興ニ關スル御沙汰ノ件……昭三　縣訓甲　二七……六
○國民道德振作ニ關スル件……昭九　縣訓甲　四……六
○國際聯盟脫退ニ關スル件……昭八　縣訓甲　四……七
●行幸啓ノ際拜觀ニ關スル件……大二　收兵　八〇二……七
○皇后陛下御誕辰當日儀式擧行ニ關スル件……明四五　收學　四三〇〇……七
○憲法發布ノ　勅語及訓話ノ件……大三　收學　六六三……八
○勅語奉讀式擧行方ノ件……昭七　發學　一五〇九……八
○君ガ代奉唱ニ關スル件……大九　發學　五三……八
○四大節ニ判任官及同待遇者參賀並賀表差出ノ件……昭二　縣訓甲　三四……九
○宮城京都御所拜觀方ノ件……大九　收學　二三二八……九
○同上ノ件……大一〇　收學　五七三……一〇
○宮城內ノ拜觀ニ際スル服裝ノ件……大一〇　發學　七三……一〇
○宮城竝新宿御苑拜觀ニ關スル件……大一〇　收發　一二三〇……一〇
○同上ノ件……大一一　收學　三五四……一二
○生徒兒童宮城拜觀ニ關スル件……大一二　收學　三七……一二
○青年團員宮城拜觀ニ關スル件……大一二　收文　五四一……一三
○同上ノ件……大一二　收文　七一八……一三
○宮城（乙種）拜觀順路ノ件……大一二　收學　一八八……一三

○宮城等拜觀ニ關スル件……大一五　收學　二一一三……一四

第二編　通則

●市町村ノ廢置分合等ニ因リ消滅スヘキ學校幼稚園ノ存續期間等ニ關スル規程……明四〇　縣令　三七……一五
○公立學校設置ノ指定ヲ受ケ若クハ許可ヲ得タルモノ等地租免除ニ關シ通報方……明二七　縣訓甲　五五……一五
●有租地ヲ公立學校地ト爲シタルトキ通知ノ件……明三二　縣訓甲　二六……一六
○公立學校敷地ハ民有地第二種ヘ編入ノ件……明二〇　縣訓　二二八……一六
○宗教的情操涵養ニ關スル件……昭一〇　收學　一八〇五……一六
●學校生徒兒童ノ思想善導ニ關スル件……大九　縣訓甲　五六……一七
○生徒兒童戎器携帶取締ニ關スル件……大一二　收學　二七五……一七
○理化學實驗ニ關スル件……昭五　發學　三三七……一八
○兒童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ關スル件……昭二　收學　三五五七……一八
○夏季休業日利用ニ關スル件……昭四　發學　一二〇四……一八
○非常災害ニ關スル教養規準……昭一〇　縣訓甲　一四……一八

○生徒兒童ノ運動競技會參加ニ關スル件……昭四　學務部長通牒……二〇
○運動競技大會ニ參加ニ關スル件……昭六　發學　一四五一……二一
○生徒兒童修學旅行ニ關スル件……昭八　發學　一八六……二一
●學校體操教授要目實施ニ關スル件……昭一一　縣訓甲　二〇……二二
○學校體操教授要目實施設備標準……大一五　縣訓甲　八五……二二
○公立學校校印及學校長ノ職印……昭八　縣訓甲　二九……二四
○石川縣國民精神文化講習所規程……昭九　縣告　四九三……二五

第三編　小學校

第一章　總則

●小學校令施行細則……明三四　縣令　一四……二七
○小學校令施行細則中ノ字義解釋ニ關スル件……大八　發學　二七……六五
○中等學校入學者選拔方法改正ニ關スル件……昭一二　縣訓甲　二七……六五
○同上ノ件……昭一二　發學　二〇三八……六六
○中等學校入學準備教育ニ關スル件……昭一二　發學　二〇三九……六七
○小學校兒童ノ學用品等ニ關スル件……明三八　縣訓甲　一四……六七
○小學校生徒服裝ニ關スル件……明三一　縣訓甲　六……六八
○學校樹栽ニ關スル件……明二九　縣訓甲　三五……六八
○學校園施設ニ關スル件……明三八　縣訓甲　三八……六九
●市町村立小學校教員養成所規程……明四四　縣令　九二……六九

第二章　設置、廢止及設備

○町村學校組合ニ關スル件……大九　收地　一五六……七七
○校舍改築修理ニ關シ注意方……明二九　縣訓甲　九……七七
○小學校舍建築工事設計調査ニ關スル件……大一二　發改　四……七七
●學校建築物ノ營繕並ニ保全ニ關スル件……昭一〇　縣訓甲　二二……七八
○校舍建築ニ關スル屆出ノ件……大一五　發學　二〇九一……八〇
○校地校舍等ノ使用ニ關スル件……大一一　發學　七六一……八〇
○市町村立小學校敷地內ニ記念碑建設方ニ關スル件……大六　發普　六八……八一
○學校屋外體操場開放ニ關スル件……大一〇　發學　一五八……八一
○小學校ノ設備ヲ議員選擧事務ニ使用ノ件……昭二　收學　一七一〇……八二

○小學校舍等使用ニ關スル件……昭二　收學　一八五一……八二
○小學校ノ校舍等使用ニ關スル件……昭二　收學　二九五八……八三
○小學校令第三十條但書ニ依リ小學校ノ校舍使用ニ關スル件……昭二　收學　三〇〇四……八三
○小學校舍ヲ町村會議員選擧運動演說會場ニ使用セシムルノ件……昭四　收學　三三四六……八三
○小學校校舍ヲ議會報告演說會場等ニ使用ニ關スル件……昭六　收學　二四六七……八四
○學校醫執務席ニ關スル件……大一〇　發學　一五九……八四

第三章　教科及編制

○小學校教科目加除ニ關スル件……大九　北普　五七……八五
●小學校教科用圖書採定ノ件……昭八　縣告　七八九等……八五
○小學校祝日大祭日ニ用フル唱歌ノ歌詞及樂譜採用ノ件……明二四　縣訓　八四……八七
○小學校唱歌用歌詞及樂譜ノ採用ニ關スル件……昭四　收學　二九五……八七
○教科書ノ解說書等使用ニ關スル件……大一三　收學　四二三……八七
○掛圖使用ニ關スル件……昭一〇　收學　二一二……八八

第四章　就學

●就學事務取扱ニ關スル規程……大六　縣訓甲　一三……八九
○兒童就學事務取扱ニ關スル件……大七　發學　一四三……九四
○就學事務ニ關スル件……昭四　發學　九〇九……九四
○學齡兒童取扱ニ關スル件……昭二　收學　三〇五……九四
●貧困兒童就學奬勵規程……昭六　縣令　一九……九五
○貧困兒童就學奬勵ニ關スル件……昭六　縣訓甲　六……一〇二
○學齡兒童就學奬勵ニ關スル件……昭三　發普　二〇三……一〇二
○同上ノ件……昭八　收學　一五五七……一〇四
○石川縣兒童就學奬勵資金管理規程……大一三　縣令　一四……一〇四
●學校給食臨時施設方法……昭七　縣訓甲　一八……一〇四

第五章　雜

○職工徒弟ノ學歷ノ證明ニ關スル件……大一五　收學　二四五〇……一〇七
○當宿直並非常警備ニ關スル規程報告方ノ件……昭二　發學　三一四九……一〇七

○小學校兒童團體旅行ノ汽車賃ニ關スル件……明四三　收學　六〇八四……一〇七
○同上ノ件……大一〇　官文　七八……一〇八

第四編　青年學校

●青年學校令施行細則……昭一〇　縣令　一五……一〇九
○青年學校制度實施ニ關スル留意事項……昭一〇　縣訓甲　一〇……一二六
○青年學校制度實施ニ關スル件……昭一〇　發社教　二六九……一二九
○青年學校學則準則……昭一〇　縣告　一六五……一三三
○青年學校教授及訓練科目要旨……昭一〇　縣訓甲　一六……一四二
○青年學校ノ普通學科ニ關スル件……昭一一　收社教　一七七九……一四四
○青年學校體操科教材ニ關スル件……昭一〇　收社教　一一二八……一四四
○青年學校教練科教材配當及進度參考表ニ關スル件……昭一〇　收社教　一〇四三……一四四
○青年學校專修科ニ關スル件……昭一〇　收社教　一一四二……一四七
○青年學校教練指導員選定ニ關スル件……昭一一　發社教　一〇八八……一四七
○公立青年學校旗制竝公立青年學校男子職員及生徒服制……昭一〇　縣告　一六四……一四八
○公立青年學校旗取扱規則……昭一〇　縣訓甲　一一……一五四
○公立青年學校男子職員及生徒服裝規則……昭一〇　縣訓甲　一二……一五四
○公立青年學校徽章類授與竝ニ佩用規程……昭一一　縣訓甲　二四……一五五
○青年學校ニ使用スル軍用銃及火藥類ノ保管出納等ニ關スル件……昭一二　收學　二六八八……一五六
●石川縣立青年學校教員養成所學則……昭一二　縣令　五二……一五七
○石川縣女子青年學校教員養成所學則……昭一二　縣令　四七……一六三
○石川縣立女子青年學校教員養成所設置……昭一二　縣告　六九八……一六七

第五編　縣立諸學校

●石川縣師範學校規則……大一四　縣令　四七……一六九
●石川縣立中學校規則……大九　縣令　九……一七五
○公立中學校及高等女學校授業料入學料ニ關スル規則……明三三　縣令　八七……一七七
●石川縣立高等女學校規則……大一〇　縣令　二二……一七七
●石川縣立工業學校規則……大一一　縣令　八……一八〇
●石川縣立農業學校規則……大一五　縣令　一〇……一八三
●石川縣立商業學校規則……大一一　縣令　九……一八七

●石川縣立盲學校規則……大一三　縣令　二九……一九〇
●石川縣立聾啞學校規則……大一三　縣令　三〇……一九四
●幼稚園令施行細則……大一五　縣令　四二……一九七

第六編　私立學校

●私立學校監督規程……明四四　縣令　九六……二〇一
○私立學校監督規程ヲ私立幼稚園ニ準用ノ件……大一〇　縣令　六六……二〇三
○私立學校ノ建物ニ關スル課稅免除ノ件……大八　收庶　一五三〇……二〇三
○私立學校用地免租ニ關スル件……大九　官普　三〇九……二〇三
○私立學校ノ設備使用ニ關スル件……昭二　愛普　七……二〇四
○私立學校令ニ關スル疑義ノ件……大一三　奈普　五〇……二〇四
○私立學校閉鎖ニ關スル件……昭二　栃普　二二……二〇四

第七編　社會教育

第一章　青少年團

●青年團體ノ設置ニ關スル件……大四　縣訓甲　二九……二〇七
○青年團準則……大五　縣告　七三……二〇七
○青年團團則改正等ニ關スル件……大六　發學　五六……二一四
○青年團施設事項ニ關スル件……大九　發學　一……二一五
○青年團員手牒ノ件……大七　發學　二五一……二一五
○青年團旗制定ニ關スル件……大六　發學　四二……二一六
○郡市青年團旗ニ關スル件……大九　發學　八六……二一七
○地方青年團體指導監督ニ關スル件……大二　收三親　二七一……二一八
○青年團指導ニ關スル件……大一一　發文　一二五……二一八
○青年團體指導方針ニ關スル件……大一三　發文　六一九……二一九
○青年團員出稼者ニ對スル指導ノ件……大七　發學　九……二二〇
○「青年日」設定ニ關スル件……大一〇　發學　二二八……二二一
○青年團風紀振肅ニ關スル件……大一〇　發學　四八……二二一
○冬季青年男女訓練ニ關スル件……大一三　發文　六一八……二二一
○青年團員訓練ニ關スル件……大九　發學　七六……二二二

○體育競技取締ニ關スル件……大九　發學　一五二……二二二
○青年團見學等ニ關スル件……大一〇　收學　二二〇……二二二
○青年團御陵墓掃除奉仕ノ件……大一一　收文　一七七……二二二
○青年團檢閱狀況取調ノ件……大一〇　發學　一八……二二三
○青年團ニ關シ取調方ノ件……大一二　發學　二〇三……二二三
○青年團並處女會一覽表提出ニ關スル件……大一〇　發學　一四……二二四
●女子青年修養ニ關スル件……大一五　縣訓甲　八一……二二七
○女子青年團體ニ關スル件……大一五　收學　二五〇六……二二七
○處女會設置要項……大一〇　縣訓甲　二……二二八
○婦女會處女會等組織ノ場合報告ノ件……大七　發學　二〇……二三〇
○青年團員ニ令旨ヲ賜ヒタルニ付奉體方……大九　縣訓甲　七四……二三〇
○石川縣青年團體事業奬勵資金管理規程……大一五　縣令　五……二三〇
○男女少年團體調査ニ關スル件……大一〇　收文　一三六……二三一

第二章　圖書館

●圖書館令施行細則……昭一一　縣令　四九……二三三
●市町村立圖書館施設要項……大九　縣訓甲　一……二三四
○圖書館設置奬勵ニ關スル件……大一二　通牒　……二三八

第三章　雜

○夜學設置準則……明二九　縣訓甲　四四……二三九
○兒童虐待防止法施行規則……昭八　縣令　三五……二三九
○少年教護法施行細則……昭九　縣令　三五……二四三
○少年教護法施行細則取扱手續……昭一〇　縣訓甲　一五……二四四
○社會教育資料ノ送付方ニ關スル件……昭七　收社教　一八六……二五三
○婦人團體衛生施設ニ關スル件……大一五　發文　七五二……二五三
○男女青年保健ニ關スル件……昭四　發學　七四二……二五四

第八編　學校衛生

●學校清潔方法……昭二　縣訓甲　一〇……二五五
○「トラホーム」豫防法施行細則……昭三　縣令　一九……二五五
○「トラホーム」豫防法施行手續……昭三　縣訓甲　一〇……二六一
○學校生徒ノ紫色鉛筆使用ニ關スル件……明三七　縣訓甲　三九……二六九
●學校醫進退手當及職務等ニ關スル細則……大一五　縣令　三……二六九
○學校齒科醫進退手當職務等ニ關スル細則……昭一〇　縣令　九……二七三
○學校看護婦設置並職務等ニ關スル規程……昭三　縣訓甲　一七……二七五
○學校醫及幼稚園醫令ニ關スル件……昭四　發體　二九……二七六
○學校醫及幼稚園醫ニ關スル件……昭四　發學　一五二……二七七
○學校齒科醫職務規程ノ解釋ニ關スル件……昭一一　收學　二二一六……二七七

第九編　教育費

●教育資金使用規程……大四　縣令　三四……二七九
○教育資金使用規程改正ニ關スル件……昭一一　發學　一八七九……二八六

○市町村義務教育費國庫負擔法制定ノ義ニ關スル件……大七　縣訓甲　八……二八六
●市町村義務教育費國庫負擔法施行手續……大一二　縣訓甲　三二……二八七
○市町村義務教育費國庫負擔法施行規程中疑義ノ件……昭二　青普　四四……二九〇
●短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法施行手續……大一一　縣訓甲　六……二九一
○市町村立小學校教員住宅費補助規程……大六　縣令　二……二九二
●青年學校費補助規程……昭一一　縣令　六四……二九四

第十編　教職員

第一章　檢定及免許

●小學校教員試驗檢定參考書……昭五　縣告　三九六……二九七
○小學校教員檢定ニ關スル件……大一一　發普　二三……三〇五
○小學校教員免許狀授與調査標準及報告方ニ關スル件……大一〇　發普　三二〇……三〇五
○小學校教員免許狀授與ニ關スル件……昭四　岐普　三……三一一

第二章　待遇及任免

●小學校長及教員名稱及待遇改正ニ付注意……明四四　縣訓甲　五九……三一三
○教員履歷書提出方ノ件……昭二　發學　三三六七……三一三
○小學校教員敍勳內申履歷書記載事項ニ關スル件……昭三　發學　八八三……三一四
●小學校長及正教員ノ命免竝補職ニ關スル辭令式……昭七　縣訓甲　一二……三一五
○市町村立小學校教員履歷書記入ノ件……明三四　縣訓甲　一六……三一六
○教員進退申請ニ關スル件……大一三　發學　一三〇一……三一六
○小學校教員進退申請ニ關スル件……大八　發學　一九五……三一七
○小學校教員ニ兼務方內申ニ關スル件……昭九　發學　二〇六……三一七
○教員任用ニ關スル件……大二　發學　六九……三一八
○尋常小學校ニ高等小學校ノ教科併置ノ際ニ於ケル教員進退方……昭八　縣訓甲　二八……三一八
○神職ト小學校教員トヲ交互兼務スルノ件……大三　發社　二……三一八
○教員兼務ニ關スル件……大一〇　石普　七八……三一九
○小學校教員休職取扱方ニ關スル件……大一三　東師普　八二……三一九
○師範學校卒業者身上異動ニ關スル件……昭四　發學　四七五……三一九
○教員休職期間ニ關スル疑義ノ件……大一一　石普　二二……三一九
○公立學校職員任用方內申ニ關スル件……明三八　縣訓甲　一一……三二〇

第十編　學校衞生

○學校醫及幼稚園醫令……昭四　勅令　九……二七九
●學校醫職務規程……昭七　文令　三……二七九
○學校齒科醫及幼稚園齒科醫令……昭六　勅令　一四四……二八〇
○學校齒科醫職務規程……昭七　文令　二……二八一
○學校看護婦ニ關スル件……昭四　文訓　二一……二八一
●學校身體檢査規程……昭一二　文令　二……二八二
●學校清潔方法……大一五　文訓　二六……二八九
●學校傳染病豫防規程……大一三　文令　一八……二九一
○傳染病豫防法……明三〇　法律　三六……二九九
○傳染病豫防法施行規則……大一一　內令　二四……三〇四
○種痘法……明四二　法律　三五……三一五
○種痘法施行規則……明四二　內令　二六……三一六
○結核豫防法……大八　法律　二六……三二一
○結核豫防法施行令……大八　勅令　四五〇……三二三
○結核豫防法施行規則……大八　內令　二〇……三二四

○「トラホーム」豫防法……大八　法律　二七……三二六
○「トラホーム」豫防法施行規則……大八　內令　一三……三二七
○兒童生徒及學生ノ近視眼豫防ニ關スル件……大八　文訓　九……三二八
○學生生徒紫色鉛筆使用禁止ノ件……明三七　文訓　八……三二九
○未成年者喫煙禁止法……明三三　法律　三三……三三〇
○未成年者飲酒禁止法……大一一　法律　二〇……三三〇

第十一編　學校ノ認定及指定

●公立私立學校認定ニ關スル規則……明三二　文令　三四……三三一
○文官任用令上學校認定ニ關スル件……大四　文令　二……三三二
○在外指定學校ノ指定ニ關スル規程……大一二　外務省文部省令……三三三

第十二編　教育費

●市町村立小學校教育費國庫補助法……明三三　法律　六三……三三七
○市町村立小學校教育費國庫補助法ニ依ル本科正教員數算定方……明四二　文令　九……三三七
○市町村立小學校教育費ヲ補助セシムル爲府縣費支出ノ件……明四〇　勅令　二一七……三三七
○市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程……明四〇　文令　三〇……三三八
●市町村義務教育費國庫負擔法……大一二　法律　二〇……三三八
○市町村義務教育費國庫負擔法ノ施行ニ關スル件……大一二　勅令　三一五……三三九
○市町村義務教育費國庫負擔法施行ニ關スル職權委任ノ件……大一二　文令　二七……三四〇
○市町村義務教育費國庫負擔法施行規程……大一二　文訓　一六……三四〇
○市町村義務教育費國庫負擔法第三條ノ特例ニ關スル件……昭七　法律　二……三四九
○市町村義務教育費國庫負擔法第三條ノ特例ノ施行ニ關スル件……昭七　勅令　一四四……三四九
●市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法……昭七　法律　二三……三五〇
○市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法施行規程……昭七　文訓　一九……三五〇
○學齡兒童就學奬勵規程……昭三　文訓　一八……三五一
○學校給食臨時施設方法……昭七　文訓　一八……三五二
○短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法……大一〇　法律　一七……三五二
○短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法施行ニ關スル規程……大一〇　文訓　一〇……三五三
●實業教育費國庫補助法……大三　法律　九……三五五
○實業教育費國庫補助法施行規則……大三　文令　一三……三五六
○公立學校職員年功加俸國庫補助法……大九　法律　三二……三五七

●教育基金特別會計法……明三二　法律　八〇……三五七
○教育基金令……大三　勅令　二五九……三五七

第十三編　教職員

第一章　檢定免許及資格

●教員免許令……明三三　勅令　一三四……三五九
○中學校倫理科教員免許狀ノ效力……明三四　文告　七一……三六〇
○教員免許狀記載學科目交互效力ニ關スル件……明四一　文令　七……三六〇
○師範學校中學校高等女學校法制及經濟理科農業工業手工教員免許狀ノ效力ニ關スル件……昭七　文令　一六……三六〇
●師範學校中學校高等女學校教員檢定規程……明四一　文令　三二……三六〇
○教員檢定受檢資格認定學校ニ關スル規則……明四二　文令　四……三六七
○師範學校中學校高等女學校教員無試驗檢定許可規程……昭二　文令　一……三六八
●實業學校教員檢定ニ關スル規程……大一一　文令　四……三七〇
○實業學校教員檢定ニ關スル規程ニ依リ無試驗檢定ヲ爲スヘキ學科目指定……大一一　文告　五一二……三七四

○實業學校教員檢定ニ關スル規程第六條第五號ニ依ル許可ニ關スル規則……大一一　文令　二九……三七六
●公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程……明四〇　文令　二八……三七七
○實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定……大八　文告　一九二……三七八
●青年學校教員資格規程……昭一〇　文令　五……三八〇
○青年學校教員タルコトヲ得ル者指定……大一四　文告　一七八……三八一
○青年學校教員資格ニ關スル指定……大一〇　文告　三九六等……三八二

第二章　名稱待遇及任免

●市町村立小學校長及教員名稱及待遇……明二四　勅令　二一八……三八三
○市町村立小學校職員待遇ニ付心得方……明二四　文訓　六……三八三
○市町村立小學校長及正教員ノ命免竝補職ニ關スル辭令式……昭七　文訓　一四……三八三
○市町村立小學校教員ノ勤續ニ關スル規定……明二七　文令　三……三八四
○公立幼稚園ノ園長及保姆ノ待遇ニ關スル件……大一五　勅令　七五……三八四
●公立學校職員制……大六　勅令　五……三八四
○公立學校職員待遇官等等級令……大六　勅令　七……三八八

○公立學校職員ノ席次……大六　文訓　六……三九一
○公立學校職員ト教官其他教育事務ニ從事スル文官トノ間ノ轉任ニ關スル件……明三二　勅令　四五六……三九一
○教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用方……明三三　文令　一五……三九一
○學校職員タラシメントスル者ノ經歷取調方……明一六　文達　號外……三九二

第三章　服務及分限

●小學校教員心得……明一四　文達　一九……三九三
○女教員ノ產前產後ニ於ケル休養ニ關スル件……大一一　文訓　一八……三九三
○女教員ノ產前產後ニ於ケル休養賞施ニ關スル件……大一一　文部次官通牒……三九五
●小學校教育效績狀規程……明三八　文令　一一……三九五
○實業教育ニ關シ小學校教育效績狀規程準用……明四三　文令　一〇……三九六
○學校職員表彰規程……昭九　文令　一〇……三九六
●公立學校職員分限令……大四　勅令　三……三九七

第四章　俸給旅費及諸給與

○市町村立小學校教員俸給ニ關スル件……明三〇　勅令　二……三九九
○市町村立小學校教員加俸令……明三三　勅令　一三三……四〇〇
●市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他ノ諸給與ニ關スル件……大八　勅令　三四〇……四〇一
●公立學校職員俸給令……明三六　勅令　六六……四〇二
●公立學校職員年功加俸令……大九　勅令　五一九……四〇九
○公立學校職員年功加俸ニ關スル規程……大九　文訓　一二……四一一
○公立學校職員年功加俸令ノ適用ヲ受クル職員……大一四　文告　三五八……四一六
○師範學校長ノ俸給ニ關スル件……大一二　勅令　四三〇……四一六
○師範學校長勤續加俸令……大九　勅令　五二〇……四一六
●公立小學校教員疾病療治料給與ニ關スル準則……大四　文令　八……四一七

第五章　恩給

●恩給法……大一二　法律　四八……四一九
○恩給法施行令……大一二　勅令　三六七……四四三

○恩給給與規則……大一二　勅令　三六九……四六九
○恩給給與細則……大一二　閣令　七……四七四
○恩給ノ減額補給及停止ニ關スル件……昭七　法律　一三……五〇五
○昭和七年法律第十三號施行令……昭七　勅令　二〇四……五〇五
○昭和七年法律第十三號恩給更正手續……昭七　閣令　一……五〇八
○昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則……昭七　遞令　二六……五一一
○昭和八年法律第五十號附則ニ依ル恩給更正及請求手續……昭八　閣令　三……五一一
○一時恩給受給者再就職ノ場合一時恩給返還等ニ關スル取扱規程……昭八　大令　二五……五一四
●年金恩給支給規則……大一二　遞令　九二……五一五
○恩給審査會官制……大一二　勅令　三六八……五一七
○小學校教員恩給基金管理規則……大一二　勅令　五二一……五一八
○恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則……大一二　勅令　四三九……五一八
○恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則……大一二　大令　三〇……五二〇
○恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ニ依ル裁定要項通知書書式……大一二　閣訓　一……五二三

第十四編　雜

○休日ニ關スル件……昭二　勅令　二五……五二五
○休暇ヲ定ムルノ件……明六　太布告　二……五二五
○服忌令……明七　太布告　一〇八……五二五
○年齢計算ニ關スル件……明三五　法律　五〇……五二九
○國旗ニ關スル件……昭五　內閣書記官長……五三〇

目次（終）

第一編　御影、勅語及敬禮

○教育ニ關スル勅語及大臣訓示交付

（明治二十三年十月三十一日
文部省訓令第八號）

北海道廳　府　縣

今般教育ニ關シ
勅語ヲ下シタマヒタルニ付其謄本ヲ頒チ本大臣ノ訓示ヲ發ス管内公私立
學校ヘ各一通ヲ交付シ能ク聖意ノ在ル所ヲシテ貫徹セシムヘシ

（別紙）　訓　示

謹テ惟フニ我カ
天皇陛下深ク臣民ノ教育ニ軫念シタマヒ茲ニ忝ク
勅語ヲ下タシタマフ　聖旨職ヲ文部ニ奉シ朝電任ヲ荷ヒ日夕省思シテ需フ
所ヲ知ランコトヲ恐ル今
勅語ヲ奉承シテ感奮措ク能ハス謹テ
勅語ノ謄本ヲ作リ普ク之ヲ全國ノ學校ニ頒ツ凡ソ教育ノ職ニ在ル者須ク
常ニ聖意ヲ奉體シテ研磨薫陶ノ務ヲ怠ラサルヘク殊ニ學校ノ式日及其他
便宜日時ヲ定メ生徒ヲ會集シテ
勅語ヲ奉讀シ且意ヲ加ヘテ諄々誨告シ生徒ヲシテ夙夜ニ佩服スル所アラ
シムヘシ

明治二十三年十月三十一日　　文部大臣　芳川顯正

○御影竝教育ニ關スル勅語謄本奉置方

（明治二十四年十一月十七日
文部省訓令第四號）

北海道廳　府　縣

管内學校ヘ下賜セラレタル
天皇陛下
皇后陛下ノ　御影竝教育ニ關シ下シタマヒタル　勅語ノ謄本ハ校内一定
ノ場所ヲ撰ヒ最モ尊重ニ奉置セシムヘシ

○戊申詔書ノ御趣旨奉體方

（明治四十一年十月二十三日
文部大臣訓令）

本月十三日ヲ以テ一般臣民ニ對シ優渥ナル詔書ヲ下シ給フ
叡旨ノ教育ニ關係スル所重且大ナリ職ニ教育ニ在ルモノヲシテ
聖意ヲ奉體シ躬行實踐以テ子弟ヲ訓育シ克ク詔書ノ
御趣旨ニ副ヘ奉ランコトヲ努メシメラルヘシ

○國民精神作興ニ關スル詔書ノ御趣旨貫徹方

（大正十二年十一月十七日
文部省訓令號外）

北海道廳長官　府縣知事

本月十日一般國民ニ對シ　詔書ヲ渙發シ給ヒ以テ國民ノ精神ヲ振作シ國

家興隆ノ基ヲ固クスルノ道ヲ示シ給フ　聖旨優渥洶ニ感激ニ堪ヘス　聖旨ヲ貫徹スルノ途ハ先ツ教育ヲ振興シテ國本ヲ培養スルニ在リ當事者夙夜淬礪以テ　聖慮ニ副ヒ奉ラムコトヲ期スヘシ

○國際聯盟脱退ニ關スル詔書ノ聖旨奉體方

（昭和八年三月三十日）
（文部省訓令第三號）

北海道廳長官　府縣知事
直轄學校
公私立大學高等學校及專門學校長

今般帝國カ國際聯盟ヲ離脱シタルニ際シ畏クモ　詔書ヲ渙發セラレテ帝國ノ執ルベキ方針ヲ昭示セラレ且時局ニ處スベキ國民ノ心得ヲ垂教シタマヘリ　聖旨宏遠洶ニ恐懼感激ニ禁ヘズ

惟フニ方今内外ノ情勢ハ極メテ重大ニシテ若シ一歩ヲ誤ラバ不測ノ禍ヲ生ゼムトスル虞ナキ能ハズ此ノ際ニ處シテ皇威ヲ宣揚シ帝國ノ隆昌ヲ期セムトスルニハ國民一同志ヲ厲シテ　聖旨ヲ遵奉シ實踐躬行寸時モ怠ルベカラザルハ論ヲ俟タズト雖モ教育教化ノ關係者ハ特ニ率先躬ヲ以テ範ヲ示シ或ハ學生生徒ヲ誘掖シ或ハ一般民衆ヲ鼓舞シ國民精神ヲ振作シテ時艱ノ匡救ニ邁進スルノ覺悟ヲ喚起スルト共ニ堅忍持久克己自制艱難ヲ厭ハズ勞苦ニ耐ヘ勤儉力行以テ各其ノ業務ニ勉勵セシムベシ殊ニ思想ノ趨向ニ就キテハ最モ深ク意ヲ致シ固陋ヲ排シ矯激ヲ斥ケ「需フ所正ヲ履ミ行フ所中ヲ執リ」ト宜ハセラレタル　聖訓ノ御趣旨ヲ國民ニ徹底セシムルコトニ努ムベシ又帝國ノ世界ニ於ケル位置ニ顧ミ大國民タルノ襟度ヲ持シテ輕率ナル行動ヲ慎マシメムコトヲ要ス

地方長官ハ前述ノ趣旨ヲ體シ管内ノ學校當事者竝社會教育團體、宗教團體等ヲ策勵シテ熱誠事ニ當ラシメ高等教育ノ諸學校長モ亦右ノ趣旨ニ則リテ奮勵努力シ一致協力シテ現下ノ難關ヲ打開シ進ミテ國運ノ進展ニ貢獻シ以テ　詔書ノ御趣旨ニ副ヒ奉ラムコトヲ期セシメラルベシ

○各學校ノ御眞影奉安殿ニ菊御紋章描出ヲ差許ス件

（大正十三年八月二十九日）
（發警第六六號通牒）

内務省警保局長ヨリ廳府縣長官宛

各學校ノ御眞影奉安殿又ハ奉安室ニ菊御紋章描出ノ義ハ從來之ヲ差許ササルノ取扱ニ相成居候處今後學校ヨリ直接申出タルモノニ限リ之カ描出ヲ差許スモ支障無之候條右御含ノ上御處理相成度本件ハ宮内省トモ内議濟ニ有之候

○同上描出ニ關シ申出ヲ爲スヘキ官廳ニ關スル件

（大正十三年九月十三日）
（警發甲第九四號通牒）

内務省警保局長ヨリ廳府縣長官宛

本件ニ關シ客月二十九日付發警第六六號ヲ以テ及通牒置候處右ニ付菊御紋章描出ニ當リ學校ヨリ直接申出ヲ爲スヘキ官廳ニ付往々御問合ノ向モ有之候處右ハ當該取締警察官廳ヲ指示シタルモノト御承知相成度爲念右申進候也

○御眞影奉安殿ニ描出スル菊御紋章ニ關スル件

（大正十三年十月二日）
（警保局警發甲第一〇三號通牒）

内務省警保局長ヨリ廳府縣長官宛

○茨城縣知事照會　大正十三年九月十九日學親第四九六號

標記ノ件本年八月二十九日内務省發警第六六號御通牒ノ處右ハ各學校ノ御眞影奉安殿又ハ奉安室前ニ掲用スヘキ幕ニ菊御紋章ヲ描出スコトモ差許ササル義ニ有之候哉差掛リ疑義ニ亘リ候ニ付至急何分ノ御回報相成度此段及照會候也

追テ本縣ニ於テハ多數出願ノ向有之狀況ニ付乍予申添候

○警保局長回答　大正十三年十月一日警保局警察乙第一四七七號

首題ノ件ニ關シ八月十九日付學親第四九六號ヲ以テ御照會有之候處八月二十九日發警第六六號當局通牒ハ奉安殿又ハ奉安室ニ掲用スヘキ幕ノ如キ轉用ノ容易ナルモノニ迄菊御紋章描出ヲ認ムルノ趣旨ニ無之候間御承知相成度候

○行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

（明治四十三年八月二十六日）
（文部省訓令第十八號）

（改正）明四四年文部省訓令一一號、大五年五號

北海道廳　府縣　直轄學校

一　武裝携銃ノ場合

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ豫メ銃ヲ銃ニ裝セシメ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ中隊ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「捧銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ナナサシメ御車カ中隊ノ左翼約十歩ヲ過キタルトキ元ノ姿勢ニ復セシム

御車カ中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

二　武裝セサル場合（女生徒ヲ含ム）

學校長及職員ハ全列ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ指揮者ノ前ニ達シタルトキ「禮」ノ號令ニテ敬禮セシメ（體ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈シ御車ニ注目セシム）「直レ」ノ號令ニテ元ノ姿勢ニ復セシム

御車カ組ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

○行幸啓ノ節學生生徒敬禮方ニ關スル注意

（明治四十三年八月二十六日　文部次官通牒）

今般文部省訓令第十八號ヲ以テ行幸啓ノ節學生生徒ノ敬禮方ニ關シ訓令相成候處右ニ就テハ去ル三十八年中內訓ノ次第モ有之候ヘトモ奉迎ノ實際ニ當リテハ敬禮方往々區々ニ渉リ整一ナラサルノ憾無之ニアラス且敬禮方ニ付改正ヲ要スヘキ廉モ有之今回更ニ訓令相成候次第ニ有之候就テハ自今右訓令ニ據リ平常生徒ヲシテ練習セシムルノミナラス尙機ニ臨ミテ豫メ周到ナル注意ヲ與ヘ區々ナル動作ニ出テス整一セル禮容ヲ保タシムル樣特ニ御配慮相成度猶又訓令末段ニ示サレタル如ク「禮」ノ號令ニテ體ノ上部ヲ前方ニ屈シタル後ハ徐ニ元ノ姿勢ニ復シ「氣ヲ付ケ」ノ姿勢ノ儘通御ヶ拜シ奉リ之カ爲ニ姿勢ヲ亂スカ如キコト無之樣篤ト御注意相成度依命此段及通牒候也

追テ大雨雪ノ際ハ雨具ヲ用フルモ苦カラス又幼稚園竝尋常小學校第二學年以下ノ兒童ハ參列セシメサルヲ可トシ尙第三學年以上ノ兒童ト雖場合ニ依リ參列セシメサルモ差支無之候條御承知相成度此段申添候也

第二編　通則

○地方學事通則

（大正三年三月二十八日　法律第十三號）

（改正）大一〇年法律七〇號

第一條　市町村ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ教育事務ノ爲之ヲ學區ニ分畫スルコトヲ得

市ノ學區ニ關シテハ市制第百四十五條乃至第百四十七條及市ノ財產營造物ニ關スル規定ヲ町村ノ學區ニ關シテハ町村制第百二十五條乃至第百二十七條及町村ノ財產營造物ニ關スル規定ヲ準用ス但シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二條　學區カ市制第六條ノ市ノ區市制第百四十四條ノ市ノ一部又ハ町村制第百二十四條ノ町村ノ一部ト區域ヲ同シクスル場合ニ於テ其ノ區又ハ一部ニ區會又ハ區總會ノ設アルトキハ學區ニ關スル事件ハ其ノ區會又ハ區總會之ヲ議決ス

第三條　學區ニ於テ專ラ使用スル學校幼稚園ニ關スル費用ハ其ノ學區內ニ於テ市稅町村稅ヲ納ムル義務アル者之ヲ負擔ス財產ヨリ生スル收入又ハ學校幼稚園ニ屬スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス監督官廳ノ許可ヲ受ケ市町村ニ於テ其ノ費用ノ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第四條　學區ヲ廢止セムトスル場合ニ於テ學區ノ財產ノ處分ニ付テハ關係アル市町村會及學區ノ區會又ハ區總會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

前項ノ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村又ハ學區ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五條　市町村又ハ其ノ學區ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ他ノ市町村又ハ學區ノ兒童教育事務ノ委託ニ應スヘシ

前項ノ委託ニ對スル報償其ノ他必要ノ事項ニ付關係市町村又ハ學區ノ協議整ハサルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

前條第二項ノ規定ハ前項ノ處分ニ付之ヲ準用ス

第六條　市町村ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

學區ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條　教育事務ノ爲ニ設クル市町村組合町村組合ハ之ヲ市町村學校組合町村學校組合ト稱ス

市町村學校組合町村學校組合ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八條　本法中市及其ノ學區ニ關スル規定ハ市町村組合及其ノ學區ニ町村及其ノ學區ニ關スル規定ハ町村組合及其ノ學區ニ之ヲ準用ス

第九條　府縣郡ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校圖書館ノ爲基本財產又ハ積立金ヲ設クルコトヲ得

基本財產及積立金ノ管理及處分ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　府縣制、郡制、市制町村制ニ規定シタル內務大臣ノ職務ハ教育ニ關スル事項ニ付テハ內務大臣及文部大臣ニ屬ス

附　則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニハ之ヲ施行セス

從前ノ規定ニ依リ教育事務ノ爲分畫セラレタル市町村及町村學校組合ノ區ハ本法ニ依ル

學區、從前ノ規定ニ依リ設ケタル町村學校組合ハ本法ニ依ル町村學校組合ト看做ス

從前ノ規定ニ依リ設ケタル市町村ノ基本財産及積立金ハ市制町村制ニ依リ設ケタルモノト看做ス

〔參照〕

○市制

第百四十四條　市ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中市ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル市ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ市ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ

第百四十五條　前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ區會ヲ設ケテ市會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得

第百四十六條　區會議員ハ市ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選擧權及被選擧權ニ關スル事項ハ前條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

區會議員ノ選擧ニ付テハ町村制中町村會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選擧若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選擧權ノ有無ノ決定ハ市會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

第百四十七條　第百四十四條ノ場合ニ於テ市ノ一部府縣知事ノ處分ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

○町村制

第百二十四條　町村ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中町村ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル町村ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ町村ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ

第百二十五條　前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ町村會ノ意見ヲ徵シテ町村條例ヲ設定シ區會又ハ區總會ヲ設ケテ町村會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得

第百二十六條　區會議員ハ町村ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選擧權及被選擧權ニ關スル事項ハ前條ノ町村條例中ニ之ヲ規定スヘシ區總會ノ組織ニ關スル事項ニ付亦同シ

區會議員ノ選擧ニ付テハ町村會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選擧若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選擧權ノ有無ノ決定ハ町村會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

第百二十七條　第百二十四條ノ場合ニ於テ町村ノ一部府縣知事ノ處分ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

○府縣郡ニ於テ學校圖書館ノ爲ニ設ク ル基本財産又ハ積立金ニ關スル件

（大正三年三月二十八日　勅令第四十二號）

地方學事通則第九條ノ規定ニ依ル府縣郡ノ基本財産又ハ積立金ハ特定ノ一若ハ二以上ノ學校圖書館ノ爲ニ之ヲ設ケ又ハ府縣郡若ハ其ノ一部ニ於ケル學校圖書館ヲ通シテ之ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○寄附財産ヲ以テ設置維持スル官立公立學校ニ關スル件

（明治三十三年三月三十一日　勅令第百三十六號）

第一條　學校ヲ設置維持スル爲財産ヲ國府縣郡又ハ市町村ニ寄附シ學校ノ設置維持ヲ願出テタル者アルトキハ國府縣郡又ハ市町村ハ其ノ寄附財産ヲ受ケ寄附者ノ指定シタル學校ヲ設置維持スルコトヲ得

第二條　本令ニ依リ設置スル公立學校ノ會計ハ特別會計ト爲スヘシ

第三條　本令ニ依リ設置スル學校ハ寄附者ノ志望ニ依リ名稱ヲ付スルコトヲ得

第四條　本令ニ依リ設置シタル學校ノ每年度經費豫算ニ關シテハ調製前寄附者又ハ其ノ相續人ノ意見ヲ聞クヘシ

第五條　本令ニ依リ設置シタル學校ニ於テハ寄附者又ハ其ノ相續人ニ特別ノ關係アル生徒ニ對シ試驗料入學料又ハ授業料ヲ減額シ又ハ免除スルコトヲ得但シ第六條ニ依リ一般會計ヨリ補足ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　國府縣郡又ハ市町村ハ本令ニ依リ設置シタル學校ノ每年度經費中職員ノ俸給ニ要スル費用ニ充ツル爲一般會計ヨリ補足ヲ爲スコトヲ得

前項ノ補足金ハ每年度經費中寄附財産ヲ以テ支拂スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條　本令ニ依リ設置シタル學校ヲ廢止シタル場合ニ於テ寄附者又ハ其ノ相續人アルトキハ殘餘財産ヲ之ニ還付スヘシ

第八條　前數條ノ規定ハ幼稚園圖書館及博物館ニ準用ス

附　則

第九條　本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條　諸學校通則ハ之ヲ廢止ス但シ同令第一條ニ依リ設置シタル學校及書籍館ハ仍一箇年以內存續スルコトヲ得

第十一條　前條但書ニ依リ存續シタル學校及書籍館ハ其ノ寄附者ニ於テ前條但書ノ期間內ニ本令ノ規定ニ依リ更ニ出願シタルトキハ繼續ト看做スコトヲ得

○中學校高等女學校實業學校設置ノ爲メ町村學校組合設置ノ件

（明治二十六年五月十八日　勅令第三十三號）

第一條　町村ハ（尋常）中學校高等女學校又ハ實業學校ヲ設置センカ爲メ町村制（第百十六條第一項）ニ依リ町村學校組合ヲ設クルコトヲ得

前項ノ町村學校組合ヲ解カントスルトキハ町村制（第百十八條）ニ依ル

第二條　前條ノ場合ニ於テ（郡長）ハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

（參照）　舊町村制第一一六條及第一一八條ハ改正町村制第一二九條及第一三三條ニ該當ス

町村制

第百二十九條　町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テ組合內各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ關スル事項ナキニ至リタルトキハ其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

町村ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合內各町村ノ町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ前二項ノ町村組合ヲ設クルコトヲ得

町村組合ハ法人トス

第百三十三條　町村組合ヲ解カムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ町村組合ヲ解クコトヲ得

○有租地ヲ公立及私立學校用地ト爲シタルトキ通知方

（大正九年三月十九日　文部省訓令第二號）

北海道廳　府　縣

有租地ヲ公立學校及大正八年法律第三十八號第一條第一號ニ揭クル學校ノ用地ト爲シタルトキハ其ノ都度該郡市區町村字地番地目段別竝ニ認可年月日等ヲ記シ所轄稅務署ニ通知スヘシ

前項學校ノ用地ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

○小學及師範教育ニ關シ男女區別教育方

（明治三十年十二月十七日　文部省訓令第十二號）

北海道廳　府　縣

方今小學教育ノ普及ト師範教育ノ擴張トヲ計圖スルノ際小學校ニ於テ男兒ト女兒トハ務メテ學級ヲ別チ教室ヲ異ニシ尙便宜學校ヲ別ニシ各其性質慣習ト生活ノ必要トニ應シ最モ適切ナル方法ヲ以テ之ヲ教育センコトヲ要ス此ノ如キハ曾ニ男兒教育ノ實相ヲ發揮スルニ必要ナルノミナラス又女兒教育ヲ發女兒ニ適切ナラシムルニ依リ自ラ女兒就學ノ數ヲ增スコトヲ得ン師範教育ニ在リテモ亦管理訓育ノ方法等發女兒ニ適切ナラシムルヲ要ス故ニ公立小學校及（尋常）師範學校ノ施設ニ關シテ左ノ要項ニ依リ計畫スル所アルヘシ

一　市町村町村學校組合又ハ其區ニ於テ二箇以上ノ尋常小學校若クハ高等小學校又ハ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置スル小學校ヲ設置スル場合ニ於テ通學ニ妨ケナク且女兒ノ員數一學校ヲ構成スルニ足ルヘシト認ムルトキハ女兒ノ爲ニ學校ヲ別ニスル事

一　二箇以上ノ（尋常）師範學校ヲ設置スル場合ニ於テ女生徒ノ員數一學校ヲ構成スルニ足ルヘシト認ムルトキハ男女ニ依リテ學校ヲ別ニスル事

女兒ニ須要ナル高等普通教育ヲ施ス爲ニ高等女學校設置ノ計畫ヲ怠ラサルヘキハ是亦緊要トスル所ナリ而シテ女子（尋常）師範學校ヲ設置スル場合ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ便宜高等女學校ヲ之ニ併置スルモ妨ケナシ

○官立公立學校ニ於テ宗教上ノ教育又ハ其ノ儀式擧行禁止

（明治三十二年八月三日　文部省訓令第十二號）

北海道廳　府　縣

一般ノ教育ヲシテ宗教ノ外ニ特立セシムルハ學政上最必要トス依テ官立公立學校及學科課程ニ關シ法令ノ規定アル學校ニ於テハ課程外タリトモ宗教上ノ教育ヲ施シ又ハ宗教上ノ儀式ヲ行フコトヲ許ササルヘシ

文部省直轄學校

○商業實習上紙幣類似ノ紙片使用禁止

（明治二十七年五月二十六日　文部省訓令第五號）

道廳　府　縣

公私商業學校（尋常）中學校專修科其他ノ學校ニ於テ生徒ノ商業實習ノ爲ニ紙幣ニ見紛ハシキ裝飾ヲ加ヘタル紙片ヲ用フヘカラス

○女子師範學校及高等女學校生徒ノ試驗及體操科ヲ缺クノ件

（明治三十三年三月二十六日　文部省訓令第六號）

北海道廳　府　縣

女子ノ師範學校及高等女學校ニ在學スル年紀ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル時期ナリ故ニ右等ノ學校ニ在リテハ女生徒學業ノ成績ハ平素ニ於テ便宜之ヲ調査セシムルコトトシ時期ヲ定メテ一時ニ全學科目ノ試驗ヲ行フコトヲ勿カラシムヘシ又月經ノ間ハ其ノ生徒ニ限リ體操科ヲ課セシメサルヲ要ス

○學校樹栽奬勵ノ件

（明治三十七年八月六日　文部省訓令第七號）

北海道廳　府　縣

學校樹栽ノコトタル教育上幾多ノ裨益アルノミナラス學校基本財産造成ノ一法タリ故ニ文部省ハ從來之ヲ奬勵シ地方當局者亦之ニ熱心ナル者アリシヲ以テ近年之レカ實施ヲナスモノ漸多キヲ加フルノ傾向アリ又時局ニ際シ二三ノ地方ニ於テ紀念學林ヲ設クルノ計畫ヲ立テタルカ如キ甚タ喜フヘキモノアリ然リト雖モ顧ミテ統計ニ徵スルニ現ニ之ヲ實施セル市町村立小學校ハ尚二千餘校ニ過キス其ノ發達ノ遲々タルハ遺憾トスル所ナリ地方長官ハ宜シク管内學校ノ狀況ヲ調査シ既ニ樹栽ニ著手セルモノハ益々之ヲ奬勵シ其ノ未タ著手セサルモノニハ樹栽地ノ廣狹ニ拘ハラス樹數ノ多少ヲ問ハス實施ヲ督勵シ以テ其ノ效果ヲ收メンコトヲ努ムヘシ

○校舍建築ニ關シ注意方

（明治四十二年九月四日　文部省訓令第十一號）

道廳長官　府縣知事

學校教育ノ要ハ其ノ内容ニ在リテ外觀ニ存セス故ニ校舍ハ質朴堅牢ヲ旨トシ必スシモ體裁ノ完美ナルコトヲ要セス特ニ戊申詔書ノ煥發セラレシ以來教育ノ局ニ當ル者ハ善ク　聖旨ヲ奉戴シテ力ヲ之カ實行ニ盡シツツアルハ本大臣ノ信シテ疑ハサル所ナリト雖モ義務教育年限ノ延長ト學齢兒童數ノ增加トニ伴ヒ各地ニ於テ校舍ノ建築ヲ要スルコト多キ今日ニ方リテハ特ニ意ヲ用ヒ學校ノ施設ヲシテ土地ノ情況ト民力ノ程度トニ適應セシメンコトヲ要ス顧フニ曾テ學校設備準則ノ規定セラレシ以來往々一律一樣ノ校舍ヲ造ルノ弊ヲ生シ其ノ後該規程ハ改正セラレタルモ其ノ餘風ハ延イテ今日ニ及ヒ校舍建築ノ際或ハ土地ノ情況ト實力ノ如何トヲ顧ミス一樣ノ設計ニ依リテ之ヲ經營セントスルモノ之ナキニ非サルカ如シ斯ノ如キハ華ヲ去リ實ニ就ク所以ノ道ニアラサルカ故ニ宜シク土地ノ情況ヲ參酌シテ常ニ實用ヲ主トシ努メテ地方ノ民力ニ伴ハシメンコトヲ期セラルヘシ

特ニ實業學校ニ在リテハ一層實用ヲ旨トシ實地練習ニ要スル工場養蠶室其ノ他各種ノ設備ノ如キモ之ヲ施設スルニ當リテ豫メ善ク當該地方ニ於ケル實業ノ狀態ヲ斟酌シテ實際ニ適切ナラシメ生徒カ卒業ノ後ニ於テ之ヲ實施スルコトヲ得ヘキ範圍内ニ於テ成ルヘク其ノ施設ヲ簡易ニシ應用ヲ適實ニシ徒ニ理想上ノ完全ヲ求メテ却テ實用ニ迂遠ナルカ如キ弊害ニ陷ルコト勿ラシムル樣一層注意セラルヘシ實業補習學校等ニ至リテハ出來得ル限リ新ニ經費ヲ要スル施設ヲ避ケ專ラ現存セル各學校ノ設備ヲ利用スル等最モ簡易ナル方法ニ依リテ教育ノ普及ヲ圖ラシムル樣指導監督其ノ宜シキヲ得ンコトヲ努メラルヘシ

○學校建築物ノ營繕竝ニ保全ニ關スル注意要綱

（昭和九年十二月十八日　文部省訓令第十六號）

北海道廳　府　縣
公私立大學　高等學校
專門學校

過般ノ暴風被害ノ實情ニ鑑ミ學校建築物ノ營繕竝ニ保全ニ關スル注意要綱左ノ通指定ス

事ニ局ニ在ル者宜シク本令ノ趣旨ヲ體シ其ノ實效ヲ擧ゲルニ遺憾無キヲ期セラルベシ

第一　一般ニ關スル注意

一、學校建築ハ教育、衛生、風紀上ノ諸點ニ關シ周密ナル注意ヲ拂フベキハ勿論實用ヲ旨トシ虛飾ヲ避ケ特ニ堅牢强固ナルモノタラシムルコト

二、建築費ハ愼重ナル見積ニ依リテ之ヲ定ムルコト

三、工事請負者ヲ選定スルニハ其ノ技倆竝ニ資産信用ヲ本位トシテ特ニ嚴正ナルベキコト

四、工事ノ施行ニ當リテハ技術ニ堪能ナル者ヲシテ其ノ監督ヲ勵行セシムルコト

五、學校建築物ノ營繕竝ニ保全ニ關シテハ學校長モ常ニ注意ヲ怠ラザルコト

六、既設ノ建築物ニ對シテハ時々檢査ヲ行ヒ必要アル場合ニハ速ニ補强スルコト

七、講堂、雨天體操場又ハ學生、生徒、兒童、幼兒ノ控所等ハ特ニ堅牢ナルモノト爲シ之ヲ萬一ノ場合ニ於ケル避難所ニ充ツルコト

第二　新築ノ場合ノ注意

一、敷地

1. 敷地ハ成ルベク周圍ノ平坦ナル所ヲ選ビ崖地域ハ川岸ノ如キハ之ヲ避クルコト
2. 土地ハ岩、砂利交リ粘土層、硬キ粘土層、砂利層等ヲ最善トシ水分無キ砂地及粘土層ヲ次善トス
3. 止ムヲ得ズシテ水分多キ砂地及泥地又ハ埋立地等ヲ敷地トシテ選ビタルトキハ校舍ノ構造ヲ一層强固ナラシムルコト

二、校舍

1. 校舍ノ階數ハ幼稚園ハ一階トシ小學校ハ木造ニ在リテハ二階ヲ、鐵筋コンクリート造ニ在リテハ三階ヲ超ユルヲ得ザルコト但シ地階ハ之ヲ階數ニ算入セズ
2. 教室其ノ他學生、生徒、兒童、幼兒ヲ收容スル室ニハ廊下、廣間ノ類又ハ戶外ニ面スル出入口ヲ成ルベク二以上設クルコト
3. 校舍ノ第一階ニハ階段ニ近接シテ運動場其ノ他適當ナル空地ニ通ズル出入口ヲ成ルベク設クルコト
4. 階段ハ成ルベク左ノ制限ニ依ルコト但シ學生、生徒、兒童、幼兒ノ常用セザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

イ、階段ノ數ハ各階ニ付教室一ノトキハ一以上、教室八以下ノト

キハ二以上トシ教室四又ハ其ノ増員ヲ増ス毎ニ一ヲ加フルコト
但シ教室三以下ニシテ階段二以上アルトキハ其ノ一ハ非常階段ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
室ノ面積大ナルトキハ前項ニ準シ考慮スルコト
ロ、階段ハ直線又ハ全折階段ト爲スコト
ハ、階段ハ高サ三米ヲ超ユルモノニ在リテハ高サ三米以内毎ニ踊場ヲ設クルコト
ニ、階段及踊場ノ幅ハ一、四米以上ト爲スコト
ホ、階段ノ蹴込ハ二十六糎以上、蹴上ハ十八糎（小學校ニ在リテハ十六糎）以下ト爲スコト
5. 廊下ノ幅ハ成ルベク片廊下ニ在リテハ一、八米以上、中廊下ニ在リテハ二、三米以上ト爲スコト

三、構造

構造ニ關シテハ市街地建築物法及同關係法令ニ定ムルトコロニ依ルベキモノノ外木造ニ在リテハ左ノ注意ヲ爲スコト

1. 基礎ハ可及的ニ其ノ沈下ヲ小ナラシムルコト地盤優良ナラザル場合ハ成ルベク深ク掘下ゲ割栗石、砂利等ヲ打込ミ搗固メタル上成ルベク鐵筋挿入ノコンクリートニテ築造スルコト但シ地盤ニ水氣アルトキハ杭打ヲ爲シ其ノ杭ハ常ニ水面下ニアラシムルコト
2. 建物ハ之ヲ硬軟不同ナル土地ニ跨リテ築造スルコトヲ避ケ止ムヲ得ザル場合ニハ不同沈下ノ起ラザル樣軟地ヲ充分ニ堅固ト爲スカ然ラザレバ別棟ト爲スコト
3. 土臺ハボールトニテ基礎ニ緊結シ家屋全體ニ亘リ柱脚部ノ連結固定ヲ圖ルコト
4. 土臺、胴差、桁、梁等ノ構架材ノ隅々ニハ燕材ヲ設ケテ三角形ヲ構成スルコト（第一圖、第二圖、第三圖參照）
3. 柱ト土臺又ハ桁トノ接合ニハ方杖、帶鐵物、筋違ボールト、鎹又ハ其ノ他ノ鐵物ヲ用フルコト（第一圖、第二圖、第三圖、第四圖參照）
6. 柱ハ從來ノ慣例ニ依レバ小ニ失スルヲ以テ可及的大ナルモノヲ用ヒ且縱横架構材ノ接合ニハ仕口ニヨリテ柱ノ强サヲ減セザル樣添木、添鐵物、ボールト等ヲ用ヒテ之ヲ補强スルコト
7. 柱ハ二階建ノ場合ハ平家建ノ場合ニ比シテ大ナルモノヲラシメ且可及的多ク通柱トスルコト（第三圖參照）管柱ヲ用フル個所ニハ添鐵物又ハ添木ヲ當テ上下ヲ充分ニ連結スルカ又ハ控柱ヲ設クルコト（第五圖參照）
8. 柱、梁、小屋梁ハ互ニ連結シテ成ルベク架構體ヲ構成スルコト
9. 小屋組相互ノ間ニハ筋違、梁挾ノ類ヲ用ヒテ之ヲ連結シ家屋ノ頂ヲ結束シテ一體ト爲スコト（第六圖參照）
10. 家根ノ重量ハ震力ニ對シテハ木造家屋破壞力ノ主要ナル素因ナルガ故ニ其ノ材料ニハ石綿盤、石盤ノ如ク輕瓦且耐火的ナルモノヲ用ヒ堅固ニ葺上グルヲ可トスルコト
11. 瓦ヲ用フル場合ニハ引掛棧瓦ト爲スカ又ハ針金等ヲ以テ下地ト緊結スルコト
12. 壁體ハ家屋ノ外部ノミナラズ内部ニモ縱横ニ成ルベク多ク之ヲ構成スルコト

13. 壁體ニハ必ズ筋違ヲ用ヒテ三角形ヲ構成スルコト（第七圖、第八圖、第九圖、第十圖參照）
14. 筋違ニハ角材又ハ厚材ヲ用ヒ柱トノ接合ハボールトヲ以テ堅固ニ締付クルコト（第七圖、第八圖參照）止ムヲ得ズシテ貫ノ如キ薄材ヲ用フルトキハ兩面ヨリ襷ニ配置シ柱ノ表面ニ鉄キ込ミ大釘打ト爲スコト（第九圖參照）
15 柱ト一階梁、二階梁及小屋梁トノ接合ハ耐震耐風構造上最モ重要ナルヲ以テ枘差等ノ仕口ノミニ依賴セズ其ノ接合部ハ次ノ手法ニ依リテ兩者ヲ緊結シ地震及風力ニ因ル歪ヲ防グコト（第三圖、第五圖、第十一圖、第十二圖參照）
イ、柱ト梁トノ間ニ方杖ヲ用ヒテ三角形ヲ構成スルコト
ロ、接合部ハ必ズ帶鐵物、羽子板鐵物、ボールト等ニ依リテ之ヲ補强スルコト（教室ノ如キ大ナル張間ヲ有スルモノニ在リテハ方杖、筋違ノ如キ斜材ヲ用フルハ緊要ナリ）（第十三圖參照）
16. 講堂ト教室トヲ階上階下ニ分チ建築スルノ必要アル場合ハ成ルベク階下ヲ教室、階上ヲ講堂トスルコト

第三　木造校舍既設ノモノニ對スル注意

校舍ヲ檢査スルニ方リテハ新築ノ場合ノ注意ニ依リテ之ヲ行ヒ又其ノ補强ニ方リテハ特ニ次ノ事項ニ注意スルコト

一、土臺ト柱トノ接合
鐵物ヲ以テ緊結スルコト
二、小屋梁及二階梁ト柱トノ接合
方杖、鐵物等ヲ用ヒテ之ヲ補强スルコト
三、柱
通柱、管柱共ニ階ノ上下ニ跨リテ適當ノ長サノ添木、添鐵物ヲ當テボールト締ト爲スカ又ハ控柱ヲ設ケテ補强スルコト
四、斜材
壁體ハ勿論縱横材間ニ於テモ成ルベク筋違、方杖ノ如キ斜材ヲ新ニ加ヘ可及的多クノ三角形ヲ構成スルコト
五、講堂、雨天體操場、控所
講堂、雨天體操場、控所又ハ連續セル教室ヲ講堂ニ兼用スルモノ等大ナル室ニ在リテハ外壁ノ適當ナル個所ニ添柱或ハ控柱ヲ新ニ設ケ室ノ歪ニ備フルコト、梁ト柱トノ接合又ハ柱ノ大サ充分ナラザル場合ニハ特ニ必要ナリ
六、用材ノ防腐其ノ他
建物ノ下部ハ腐朽・蟲害等ヲ被リ易キ所ナルガ故ニ成ルベク濕氣ヲ防グト共ニ空氣ノ流通ヲ計リ土臺等腐蝕シ易キ個所ニハ防腐劑ヲ塗布スル等防腐方法ヲ講ジ其ノ腐朽セルモノハ之ヲ新材ト取換フルコト

通柱ノ場合

第三圖

管柱ノ場合

第五圖

第四圖

第一圖

第二圖

第六圖

第七圖

第八圖

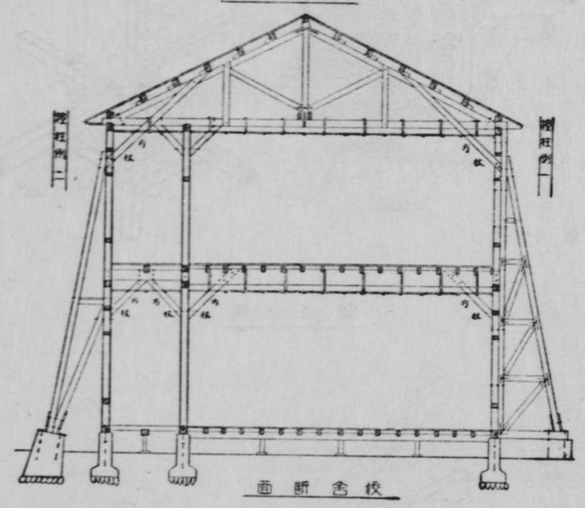
第十圖

第九圖

第十一圖

第十二圖

第十三圖



校舍斷面

○學校用机、腰掛ノ標準ニ關スル件

（大正十年八月二十二日　發普三七九號通牒）

文部次官ヨリ各地方長官宛

學校用机、腰掛ノ適否ハ生徒兒童ノ身心發達ニ至大ノ關係有之學習上ノ效果ニモ影響スル所不尠仍テ今般別記ノ通之カ標準ヲ定メラレタルニ付テハ貴管下教育關係者ニ普ク參考セシメラレ度尤モ右標準中寸法ハ單ニ原則ヲ示シタルモノニ付具體的方案ニ關シテハ夫々御考慮相成度

學校用机、腰掛ノ標準

（一）學校用机、腰掛ノ標準ヲ定メルニ就イテハ、先ツ姿勢ヲ明ニスル必要カアル。故ニ姿勢ヲ左ノ通リニ定メル。

一、立ツテ居ル姿勢　身體ヲ眞直ニシ、口ヲ閉チ、兩足ヲ自然ニ揃ヘ、手ハ自然ニ垂レ、眼ハ前方ヲ正視スル。

二、腰ヲ掛ケタ姿勢　上體ハ自然ノ直立ヲ保チ、其重心點カ兩坐骨結節ノ中間ニ落チル位置ヲトリ、兩脚ハ自然ニ開キ、兩下腿ヲ垂直ニシ、兩足ハ平ニ床面ヲ踏ミ、兩手ハ股ノ上ニ置キ、眼ハ前方ヲ正視スル。

（二）腰掛

一、腰掛ノ座面ノ高サハ、下腿ノ長サ（脛骨小頭カラ踵ノ下面ニ至ル長サ）カラ五分ヲ減シタモノヲ標準トスル。但シ履物アル場合ハ、其ノ厚サヲ下腿ノ長サニ加ヘタモノカラ五分ヲ減スルコト

二、腰掛ノ座面ノ左右徑ハ、二人掛ニアツテハ二尺六寸乃至二尺九寸五分、一人掛ニアツテハ一尺四寸五分トスル。

三、腰掛ノ座面ノ前後徑（倚靠ノ厚サハ含マナイ）ハ、上腿ノ長サ（大腿骨大轉子カラ同骨下端外上腿ニ至ル長サ）ヲ以テ標準トスル。

四、腰掛ノ座面ヲ刳リ、又ハ傾斜ヲ附ケルノハ任意トスル。

五、倚靠ハ附ケル方カヨイ。

（三）机

一、机面ノ高サハ、先キニ定メタ腰掛ニ正座シテ、前臂ヲ直角ニ曲ケタ肘ノ下面カラ、腰掛ノ座面ニ至ル距離ニ七分乃至一寸三分ヲ加ヘタモノト、腰掛ノ座面ノ高サヲ合ハセタモノトスル。

二、机面ノ左右徑ハ、二人用ニアツテハ三尺四寸五分乃至三尺九寸五分、一人用ニアツテハ一尺九寸五分トスル。

三、机面ノ前後徑ハ、一尺二寸以上トスル。

四、机面ハ約六分ノ一ノ傾斜ノアルカヨイ、但シ止ムヲ得ナイ場合ハ水平面トシテ差支ナイ。

（四）机・腰掛ハ一人用カヨイ。止ムヲ得ナイ場合ハ二人用トシテモ差支ナイ。但シ特別用ノモノハ此ノ限デナイ。

（五）机・腰掛ハ在學兒童身體ノ發達ヲ顧慮シ尋常小學校ニアツテハ少クモ六種、尋常高等小學校ニアツテハ少クモ八種ノ大サヲ異ニシタモノヲ作製シテ置クカヨイ。

（六）机・腰掛ヲ使用スルニハ、學科ノ種類ニ依リ適當ナ離尺ヲ保タセル樣ニ注意シナケレハナラナイ。

（七）机・腰掛ハ兒童ノ身體ノ發達ニ應シテ、毎年一回以上組換ヘナ

ケレハナラナイ。

（八）以上ノ標準ハ主トシテ小學校兒童ニ對スルモノデアル。故ニ其ノ他ノモノニアツテハ、使用者ノ身體發育ノ程度ニ應シテ適當ニ斟酌スヘキデアル。

○學生生徒ノ風紀取締ニ關スル件

（明治三十九年六月九日　文部省訓令第一號）

學生生徒ノ本分ハ常ニ健全ナル思想ヲ有シ確實ナル目的ヲ持シ刻苦精勵他日ノ大成ヲ期スルニ在ルハ固ヨリ言ヲ俟タス殊ニ戰後ノ國家ハ將來ノ國民ニ期待スル所益々多ク今日ノ學生生徒タル者ハ其ノ責任一層ノ重キヲ加ヘタルヲ以テ各々學業ヲ勵ミ一意專心其ノ目的ヲ完ウスルノ覺悟ナカルヘカラス

然ルニ近來青年子女ノ間ニ往々意氣銷沈シ風紀頹廢スル傾向アルヲ見ルハ本大臣ノ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ現ニ修學中ノ者ニシテ或ハ小成ニ安シ奢侈ニ流レ或ハ空想ニ煩悶シテ處世ノ本務ヲ閑却スルモノアリ甚シキハ放縱浮薄ニシテ操行ヲ紊リ恬トシテ恥チサル者ナキニアラス斯ノ如キハ家庭ノ監督其ノ方ヲ誤リ學校ノ規律漸ク弛緩セルノ致ス所ニシテ今ニ於テ嚴ニ戒慎ヲ加フルニアラスンハ禍害ノ及フ所實ニ測リ知ルヘカラス

社會一部ノ風潮漸ク輕薄ニ流レムトスルノ兆アルニ際シ青年子女ニ對スル誘惑ハ日ニ益々多キヲ加ヘムトス就中近時發刊ノ文書圖畫ヲ見ルニ或ハ危激ノ言論ヲ掲ケ或ハ厭世ノ思想ヲ說キ或ハ陋劣ノ情態ヲ描キ教育上有害ニシテ斷シテ取ルヘカラザルモノ尠シトセス故ニ學生生徒ノ閱讀スル圖書ハ其ノ內容ヲ精査シ有益ト認ムルモノハ之ヲ勸奬スルト共ニ苟モ不良ノ結果ヲ生スヘキ虞アルモノハ學校ノ內外ヲ問ハス嚴ニ之ヲ禁遏スルノ方法ヲ取ラサルヘカラス

又頃者極端ナル社會主義ヲ鼓吹スルモノ往々各所ニ出沒シ種々ノ手段ニ依リ教員生徒等ヲ誘惑セムトスル者アリト聞ク若シ夫レ斯ノ如クシテ建國ノ大本ヲ藐視シ社會ノ秩序ヲ紊亂スルカ如キ危險ノ思想教育界ニ傳播シ我教育ノ根柢ヲ動カスニ至ルコトアラハ國家將來ノ爲メ最モ寒心スヘキナリ事ニ教育ニ當ル者宜シク留意戒心シテ矯激ノ僻見ヲ斥ケ流毒ヲ未然ニ防クノ用意ナカルヘカラス

本大臣ハ國運ニ照シ時弊ニ鑑ミ特ニ茲ニ訓示ス教育ノ當局者及ヒ學校長教員等ハ克ク本大臣ノ旨ヲ體シ父兄保護者ト協心戮力シテ風紀ヲ振肅シ元氣ヲ作興スルニ努メ學生生徒ハ自ラ修メ己ニ克チ學業ヲ成就スルニ專ニシテ上下胥ヒ率并以テ教育ノ效果ヲ完ウセムコトヲ期スヘシ

○學校ノ紛擾ニ關係シタル職員及生徒處分ニ關スル件

（明治三十五年七月九日　文部省訓令第五號）

北海道廳　府　縣

近來學校ニ於テ往々紛擾ヲ見ルハ教育上憂慮スヘキ所ナリ

地方長官ハ此際一層學校職員ヲ奮勵シ苟モ職員ニシテ生徒ヲ使嗾煽動スルカ如キ行爲アル者ニ對シテハ其ノ機ヲ失セス相當措置スヘク又生徒ニシテ其ノ本分ヲ忘レ職長ニ對シテ反抗ヲ試ミ或ハ同盟休校ヲ爲スカ如キ者アラハ嚴重處分セシメ以テ校紀ノ振作ヲ務ムヘシ

○學校生徒喫煙禁止ノ件

（明治三十三年三月二十六日　文部省訓令第五號）

北海道廳　府　縣

文部省直轄學校

學校生徒ノ喫煙ニ關シテハ小學校ニ在リテハ明治二十七年文部省訓令第六號ヲ以テ生徒ノ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨訓令シ中學校等ニ在リテモ實際喫煙ヲ禁止セルモノ多シ蓋シ學校生徒ノ喫煙ハ衞生上有害ナルノミナラス風紀ニ關スルコト少ナカラス殊ニ此際未成年者喫煙禁止法ノ發布アリタルニ就キテハ小學校中學校師範學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ取締上其ノ生徒ノ成年以下ナルト以上ナルト學校ノ內外トヲ問ハス喫煙シ及煙草煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其ノ他ノ學校ニ在リテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシメムコトヲ期スヘシ

參照（未成年者喫煙禁止法ハ上卷二九五頁ニ登載）

○學校生徒飲酒取締ニ關スル件

（明治四十二年九月九日　文部省訓令第十二號）

北海道廳　府　縣

學校生徒ノ飲酒ハ教育上取締ヲ要スヘキハ言ヲ俟タス從來各學校ニ於テモ常ニ適當ノ方法ヲ講シテ訓戒監督ヲ怠ラサルハ本大臣ノ認ムル所ナリ然レトモ訓育ノ目的ヲ貫徹セント欲セハ學校ト家庭ト常ニ聯絡ヲ保タンコトヲ要ス因テ各學校ニ於テハ自今飲酒ノ取締ニ就キ一層家庭ト聯絡ヲ保ツコトニ注意シ以テ教育ノ效果ヲ完ウセンコトヲ努ムヘシ

參照（未成年者飲酒禁止法ハ上卷二九六頁ニ登載）

○兒童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ關スル件

（昭和二年十一月二十五日　文部省訓令第二十號）

北海道廳　府　縣

學校ニ於テ兒童生徒ノ心身ノ傾向等ニ稽ヘテ適切ナル教育ヲ行ヒ更ニ學校卒業後ノ進路ニ關シ青少年ヲシテ其ノ性能ノ適スル所ニ向ハシムルハ時勢ノ進歩ト社會ノ推移トニ照シ洵ニ喫緊ノ要務ニ屬ス隨テ學校ニ在リテハ平素ヨリ兒童生徒ノ個性ノ調査ヲ行ヒ其ノ環境ヲモ顧慮シテ實際ニ適切ナル教育ヲ施シ各人ノ長所ヲ發揮セシメ職業ノ選擇等ニ關シ懇切周到ニ指導スルコトヲ要ス是ノ如クシテ國民精神ヲ啓培スルト共ニ職業ニ關スル理解ヲ得シメ勤勞ヲ重ンスル習性ヲ養ヒ始メテ教育ノ本旨ヲ達成スルニ至ルモノナルヲ以テ自今各學校ニ於テハ左ニ掲クル事項ニ就キ特ニ深ク留ヲ用フヘシ

一兒童生徒ノ性行、知能、趣味、特長、學習情況、身體ノ情況、家庭其ノ他ノ環境等ヲ精密ニ調査シ教養指導上ノ重要ナル資料トナスコト

一個性ニ基キテ其ノ長所ヲ進メ卒業後ニ於ケル職業ノ選擇又ハ上級學校

ノ選擇等ニ關シテ適當ナル指導ヲナスコト

一學校ハ前掲ノ教養指導等ニ關シ父兄及保護者トノ連絡提携ヲ密接ニスルコト

地方長官ハ克ク以上ノ旨趣ヲ體シ其ノ目的ノ達成ニ力メムコトヲ望ム

○兒童生徒ニ對スル校外生活指導ニ關スル件

（昭和七年十二月十七日　文部省訓令第二十二號）

北海道廳　府　縣

輓近社會教育ノ進展ニ伴ヒ之ニ關スル施設ハ比年著シク普及シ其ノ成績亦觀ルベキモノアリト雖小學校並中等學校ノ兒童生徒ニ對シ其ノ餘暇ヲ利用シ社會生活ニ關スル訓練ヲ行ヒ以テ學校教育ノ補足ヲ圖ルベキ施設ニ至リテハ今猶遺憾ナル情態ニ在リ仍テ此ノ方面ニ就キ其ノ改善普及ヲ期スルハ家庭及學校ノ教育ヲシテ十全ノ效果ヲ收メシムル所以ナリト認ム

之ヲ事實ニ徵スルニ時代ノ急激ナル推移ニ伴ヒ社會的環境日ニ月ニ複雜多樣ヲ加ヘ其ノ間兒童生徒ノ心身ノ健全ナル發達ヲ妨グルガ如キ事象尠シトセズ隨ツテ之ガ爲ニ生ズル不良ナル影響ヲ防止シ且其ノ教育教化ニ資スベキ適切ナル方策ヲ講ズルハ現下ニ於ケル緊切ノ要務ト謂フベシ素ヨリ斯ノ種施設トシテ既設少年團運動等ノ實績相當觀ルベキモノアリト雖其ノ內容尙改善ノ餘地ヲ存シ之ガ大成ハ寧ロ今後ノ努力ニ俟タザルベカラズ

惟フニ斯ノ種施設ノ本旨ハ兒童生徒ニ對シ校外生活ヲ指導シ進ンデ社會生活ニ關スル訓練ヲ施スニ在リ而シテ敬神崇祖、社會奉仕、協同互助、規律節制、勤勞愛好等ノ精神ヲ培ヒ併セテ體位ノ向上ヲ圖リ以テ健全ナル國民善良ナル公民タルノ素地ヲ養フハ之ガ指導ノ眼目ニシテ學校教育ノ補足タル所以亦實ニ茲ニ在リサレバ斯ノ種施設ニ於テハ學校教育トノ聯繫ヲ密ナラシメ適當ナル指導者ヲ得テ訓育ノ成果ヲ全カラシムルコトニ努ムベキモノニシテ之ガ爲ニハ學校當事者教育教化ノ關係者等相俱ニ力ヲ協セ兒童生徒ノ校外生活ニ關シ適切ナル指導及訓練ノ方途ヲ講ゼンコトヲ要ス地方長官ハ右ノ趣旨ヲ體シ關係各方面ノ注意ヲ喚起シ地方ノ實情ニ應ジテ夫々有效ナル施設ヲ講セシメ以テ國民教育ノ徹底ヲ期セラルベシ

○堅實ナル思想涵養ニ關スル件

（昭和三年四月十七日　文部省訓令第五號）

北海道廳
府　縣
文部省直轄學校
公私立大學
專門學校
高等學校

恭テ按スルニ知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スルハ明治維新ノ宏謨トセラレシ所ニ係リ　天皇陛下踐祚後朝見ノ儀ニ於テモ進ムヤ其ノ序ニ

循ヒ新ニスルヤ其ノ中ヲ執リ模擬ヲ戒メ創造ヲ勗ムヘキ旨ヲ宣示アラセラレタリ故ニ能ク他ノ長ヲ採テ我レノ短ヲ補ヒ選擇咀嚼シテ之ヲ日本化セシメ由テ以テ國體ヲ扶翼シ國情ニ合致セシメ益々國民本來ノ懿德良能ヲ發揮セシメ康福ノ增進ニ資スル所アラシムルハ即チ學術研究ノ要義ニシテ又實ニ國民教養ノ眼目タリ

然ルニ蓋時世界ノ大戰亂アリシ以來歐洲諸國カ政治經濟其ノ他ノ社會狀態ニ變革動搖ヲ生シタルニ伴ヒ國家社會ニ對シ奇矯過激ナル新說ヲ唱道スルノ徒ナキニアラス近年我カ邦ニ於テモ之カ餘波ヲ受ケ著シク世相ノ變移ヲ觀ルト共ニ往往國體ニ背キ國情ニ悖ルノ思想ヲ懷抱スル者アルノ傾向ヲ生シ學生生徒ノ中ニモ亦之ニ感惑セラレ浮華放縱ニ流レ輕佻詭激ニ趨キテ其ノ本分ニ戾リ甚シキハ蠢ニ所謂京大事件ニ連座セルアリ今回更ニ共產黨事件ニ關與シタルアリ爲ニ有爲ナルヘキ前途ヲ誤マル者アルニ至テハ國家ノ爲一大恨事ト謂ハサルヘカラス

惟フニ學生生徒ハ概ネ年少ニシテ經驗ニ乏シク思慮モ亦未タ縝密ナラス隨テ新奇ナル所說矯激ナル言論ニ傾聽心醉シ易キノ趨向アルヲ免レス外間詭激ノ徒之ニ乘ジテ百方誘惑スル所アリ延キテハ國體ト相容レサルノ思想ヲ鼓吹注入シテ遂ニ其ノ方向ヲ誤マラシムルニ至ル既往ノ事象既ニ戒愼ニ値ヒス況ンヤ其ノ滔滔トシテ風ヲ成シ概止スル所ヲ知ラサルニ至ラハ啻ニ學生生徒ノ不幸タルノミナラス國家存立ノ基礎爲ニ破ルルニ至ラムコトヲ怕ル是レ極端ナル偏倚ノ思想ヲ根絕シ懷疑不安ノ流弊ヲ一掃スルニ於テ遺憾ナキノ方途ヲ講シ殊ニ學生生徒ヲシテ之ニ感染スルコトナカラシメムカ爲特ニ心力ヲ傾注シテ我カ建國ノ本義ヲ體得セシメ國體觀念ヲ明徵ナラシメ以テ堅實ナル思想ヲ涵養スルニ勉ムルノ眞ニ現下喫緊ノ急務タル所以ナリ

抑々光輝アル我カ國體ニ由來セル國民道德ヲ涵養シ國民精神ヲ作興スルハ我カ國家文教ノ根幹タリ是ヲ以テ學校ノ種類如何ト其ノ程度ノ高低如何トニ論ナク又固ヨリ學校ノ內外ヲ問ハス我カ國民ノ教養及學術ノ研究ハ一ニ我カ國體ノ精華ヲ發揚シ國運ノ隆昌ニ貢獻スルヲ以テ其ノ基本トナサザルヘカラス且夫レ教育教化ノ中樞ハ常ニ教育者指導者其ノ人如何ニ存ス是ノ故ニ獨リ學生生徒ノミナラス廣ク青年子弟ノ思想ヲ善導シ國體觀念ヲ鞏固ナラシムルカ爲ニハ先ツ教育者指導者ニ於テ深ク思ヲ潛メ我カ國體ノ本義建國ノ精神ニ關シテ確乎不拔ノ根柢アル信念ヲ有シ身ヲ以テ範ヲ示シ行住坐臥ノ間ニ矜式スル所アラシムヘク又常ニ學生生徒ノ意向ヲ察シ指導宜シキヲ制シ外間ノ誘惑ヲシテ苟モ之ニ乘スルノ間隙ナカラシメ以テ健全ニシテ有爲ナル國民ヲ養成シ教育教化ノ效果ヲ全ウセムコトヲ望ム

地方長官及當該學校長ハ能ク部內及部下ノ教職員並社會教育從事者ヲ奮勵シ前記ノ趣旨ヲ十分徹底セシメムコトヲ期セラルヘシ

○國體ノ本義明徵ニ關スル件

（昭和十年四月十日　文部省訓令第四號）

北海道廳長官　府縣知事
帝國大學總長　官立大學長
高等師範學校長　直轄諸學校長
公私立大學專門學校及高等學校長

方今内外ノ情勢ヲ稽フルニ刻下ノ急務ハ實ニ建國ノ大義ニ基キ日本精神ヲ作興シ國民的教養ノ完成ヲ期シ由テ以テ國本ヲ不拔ニ培フニ在リ我カ尊嚴ナル國體ノ本義ヲ明徴ニシ之ニ基キテ教育ノ刷新ト振作トヲ圖リ以テ民心ノ靡フ所ヲ明ニスルハ文教ニ於テ喫緊ノ要務トスル所ナリ此ノ非常ノ時局ニ際シ教育及學術ニ關與スル者ハ眞ニ其ノ責任ノ重且大ナルヲ自覺シ叡上ノ趣旨ヲ體シ苟モ國體ノ本義ニ疑惑ヲ生セシムルガ如キ言説ハ嚴ニ之ヲ戒メ常ニ其ノ精華ノ發揚ヲ念トシ之ニ由テ自己ノ研鑽ニ努メ子弟ノ教養ニ勵ミ以テ其ノ任務ヲ達成セムコトヲ期スベシ

○家庭教育振興ニ關スル件

（昭和五年十二月二十三日
文部省訓令第十八號）

北海道廳　府　縣

國運ノ隆替風教ノ振否ハ固ヨリ學校教育並社會教育ニ負フ所大ナリト雖之カ根蔕ヲナスモノハ實ニ家庭教育タリ蓋シ家庭ハ心身育成人格涵養ノ苗圃ニシテ其ノ風尚ハ直チニ子女ノ性行ヲ支配ス維新以來教育益々興リ文運彌々隆ナルヲ致セリト雖今日勵モスレハ放縱ニ流レ詭激ニ傾カントスル風アルハ家庭教育ノ不振之カ重要原因ヲナスモノニシテ國民ノ深ク省慮スヘキ所ナリ顧ルニ往時我カ國民ハ概ネ家風ノ顯揚ヲ旨トシテ庭訓ヲ敷キ家庭ハ實ニ修養ノ道場タルノ觀ヲ呈セリ然ルニ學校教育ノ勃興ト共ニ世上一般教育ヲ以テ學校ニ一任シ家庭ハ其ノ責ニ與ラサルカ如キ情勢ヲ醸致セリ現時ニ於テ屢々忌ムヘキ事相ヲ見ル洵ニ故ナキニアラサルナリ此ノ時ニ方リ我カ邦固有ノ美風ヲ振起シテ家庭教育ノ本義ヲ發揚シ更ニ文化ノ進運ニ適應シテ家庭生活ノ改善ヲ圖ルハ啻ニ教化ヲ醇厚ニスル所以ナルノミナラス又實ニ國運ヲ伸張スルノ要訣タルヲ疑ハス

家庭教育ハ固ヨリ父母共ニ其ノ責ニ任スヘキモノナリト雖特ニ婦人ノ責任重且大ナルモノアリ從ツテ斯教育ノ振興ハ先ツ婦人團體ノ奮勵ヲ促シ之ヲ通シテ一般婦人ノ自覺ヲ喚起スルヲ主眼トス之カ實際的施設ニ關シテハ別ニ示ス所アルヘキモ地方長官ハ右ノ趣旨ヲ體シ今後一層斯教育ノ振興ヲ圖リ各種教育施設ト相俟テ我カ國民教育ヲ大成スルニ於テ萬遺憾ナキヲ期スヘシ

○非常災害ニ對スル教養ニ關スル件

（昭和九年十月三十一日
文部省訓令第十四號）

北海道廳　府　縣

學校ニ於テ非常災害ニ關シ精神ヲ修養シ之カ知識ヲ普及セシメ萬一ノ變災ニ備フルハ極メテ肝要ノコトナリトス然ルニ之ヲ目下ノ實況ニ照ストキハ未タ遺憾ナキ能ハズ將來一層設備其ノ他ノ改善ヲ圖リ學校職員始メ生徒兒童ノ教養ニ努メ以テ學校及生徒兒童ノ被ル災禍ヲ免レシムルニ遺漏ナキヲ期スベキナリ

玆ニ非常災害ニ關スル教養ニ付テ規準ヲ定メタリ局ニ當ル者ハ左記事項ニ準據シ之カ活用ニ就テハ諸種ノ情況ヲ考慮シ實地ニ即シテ誤ルコト無ク善ク其ノ目的ヲ達成スル樣適宜ノ措置ヲ講セラルベシ

第一　平素ノ指導ニ關スル事項

一　職員ハ非常災害ニ處シ克ク統制ヲ保チ沈著ニシテ迅速機宜ノ處置ヲ誤ルコト無ク以テ其ノ任ヲ竭シ生徒、兒童ハ冷靜ニシテ從順克ク教師ノ命ヲ奉シ秩序ヲ守リ敏速ニ行動スル樣常ニ修養ニ努メシムルコト

二　災害ニ關スル知識ヲ養フコト

(イ)火災、地震、暴風、洪水、津浪、其ノ他各種ノ災害ニ關シ各關係教科目ノ教授並ニ學校生活ニ於テ常ニ留意シテ指導ヲ行ヒ且講話、印刷物其ノ他ノ方法ニ依リ是等各種災害ノ特徴並ニ之ニ處スル方法等ニ關スル知識ヲ養フコト

(ロ)氣象臺、測候所、放送局若ハ新聞紙上ノ警報、警報、信號等ニ關スル知識ヲ與ヘ且之ニ常ニ留意セシムル樣指導スルコト

(ハ)各種災害ノ機會ヲ捉ヘテ其ノ原因、實況、避難狀況等ニ就キ成ルベク具體的ニ之ヲ知ラシメ之ニ關スル注意ヲ喚起シ精神ノ修養ニ資スルコト

第二　學校設備ニ關スル事項

一　晴雨計、雨量計、濕度計、風力計、天氣圖、消火器及其ノ他各種災害ニ關スル器具、機械等ハ成ルベク之ヲ備フルコト

二　昇降口、階段、非常口等ニ付テハ建築上特ニ留意スルコト

三　非常口ハ常ニ明瞭ニ識別シ得ル樣標示シ寄宿舍又ハ夜間ノ學校ニ在リテハ別ニ標示燈ヲ備ヘ盲學校ニ在リテハ平素其ノ箇所ニ就キ習熟セシムルコト

四　消防具、避難用具（縄梯子、避難袋等）及救出用具（鶴嘴子、鋸、斧等）等ハ其ノ學校及所在地等ノ事情ニ鑑ミ適宜之ヲ備フルコト

五　貴火性藥品等ハ保管上特ニ留意シ校舍倒壞等ノ場合ニ出火ノ虞無キ樣注意スルコト

六　硫酸、火鉢等ニ對シテハ平素鐵蓋、水盤等ヲ備ヘ校舍倒壞等ノ場合ニ出火ノ虞無キ樣注意スルコト

七　關係官廳、警察署、消防署、病院等ノ所在地及電話番號等ハ特ニ明示シ座右ノ便ニ供スルコト

八　救急手當ノ藥品及材料ハ適宜之ヲ備フルコト

第三　平素學校トシテ留意スベキ事項

一　御眞影並ニ勅語謄本奉遷所ハ第一、第二ノ順ヲ定メテ數箇所ヲ豫定シ置クコト

二　重要書類ハ豫メ一定ノ目印ヲ附シタル容器ニ收メ且持出シヲ容易ナラシムルコト

三　教室ノ配當ハ非常災害ノ場合ヲ豫想シ年齢、男女ノ別等ニ依リ適宜之ヲ考慮スルコト

四　避難所ハ各種災害ノ場合ヲ考慮シテ二箇所以上ヲ豫定シ置クコト

五　非常警報ノ方法ハ豫メ一定シ置クコト

六　警鐘、避雷針、消防具等ノ非常用設備及非常口ノ錠鍵等ハ定時又ハ臨時ニ之ヲ檢査シ又煙突掃除、火元見廻リ等ハ之ヲ勵行スルコト

七　非常災害ニ關スル施設及其ノ他心得フベキ事項ハ適宜ノ方法ニ依リ職員、生徒、兒童ニ夫々通曉セシムルコト

第四　平素職員トシテ心得フベキ事項

一　職員ハ御眞影並ニ勅語謄本ノ奉遷ヲ始メ生徒、兒童ノ保護ニ當ルヲ以テ第一トスルコト

二　職員ハ其ノ學校又ハ附近ニ災害若ハ其ノ虞有ルヲ知リタル時ハ退出樣注意スルコト

後ト雖モ直ニ登校シ急報、防禦、救護等ノ任ニ當ルコト

三職員ハ校舍及校庭ノ狀況竝ニ附近ノ地理等ニ就テハ詳細ニ心得置クコト

第五　實地練習ニ關スル事項

一災害防止及避難ニ關スル演習ハ時ヲ定メテ之ヲ行フコト

二演習ハ災害ノ種類、時季及其ノ他ノ事情ヲ想定シテ各種ノ樣式ニ依リ全校竝ニ學級毎ニ之ヲ行フコト

三演習ニ際シ特ニ留意スベキ事項

(イ)御眞影竝ニ勅語謄本ノ奉護

(ロ)災害ノ種類ニ應ズル避難方法

(ハ)教師、生徒、兒童ノ態度、行動等

(ニ)落伍者ノ檢索(教室、物置、便所等ノ檢索)

(ホ)火氣及其ノ他ノ始末

(ヘ)命令傳達竝ニ外部トノ連絡

(ト)指揮者又ハ幹部ニ故障ヲ生ジタル場合ノ處置

(チ)負傷者ノ處置

○選擧肅正ヲ目的トスル教化指導ニ關スル件

（昭和十年七月二十五日　文部省訓令第十七號）

北海道廳長官　府縣知事

帝國大學總長　官立大學長
高等師範學校長　直轄諸學校長
公私立大學專門學校及高等學校長
神佛各教宗派管長

嚴肅公正ナル選擧ハ政治經濟社會各般ニ亙リ國家ノ隆昌ヲ齎スベキ根本要件ノ一タリ然ルニ積年其ノ弊漸ク著シキヲ加ヘ今ニシテ革メズンバ悔ヲ後世ニ遺スノ虞ナキヲ保シ難シ恰モ邦家內外多事多難ニシテ擧國一致大ニ國運ノ進展ヲ圖ルベキ秋ニ際シ府縣會議員及衆議院議員ノ選擧將ニ相次イデ行ハレントス此ノ時ニ當タリ國民ガ克ク其ノ本分ニ顧ミテ嚴肅公正ナル選擧ヲ行ヒ以テ奉公ノ誠ヲ竭スハ卽チ君國ニ報ズル所以ニシテ洵ニ積弊ヲ一掃シ選擧肅正ノ實ヲ擧グル好機ト言フベシ而シテ之ガ目的ヲ達スル根本ハ一ニ教育ノ力ニ俟ツノ外ナカルベク就中公民教育ノ徹底ヲ以テ最善ノ方策トナス固ヨリ教育ノ效果ハ必ズシモ一朝ニシテ望ムベキモノニアラズト雖モ苟モ教育教化ニ從フモノ須ラク茲ニ深ク鑑ミ選擧ニ關シ人心ノ自覺ヲ促シ進ンデ自ラ範ヲ示シ相率ヰテ健全ナル立憲政治ノ發達ニ寄與センコトヲ期スベシ

○體育運動ノ振興ニ關スル件

（大正十五年三月八日　文部省訓令第三號）

北海道廳府縣
直轄學校

近時學校ノ內外ヲ問ハス體育運動著シク勃興シ國民ノ間ニ漸ク其ノ普及ヲ見ルニ至レルハ學校教育竝社會教育上洵ニ慶フヘキコトトス然ルニ之ヲ各國ノ事例ニ徵シ我カ國ノ實況ニ照ストキハ將來尙一層其ノ改善ト進歩トヲ促シ普ク國民ヲシテ斷エス體育運動ヲ合理的ニ實施セシメ以テ國民ノ精神的竝身體的訓練ヲ完カシ其ノ品性竝體位ヲ向上セシムルハ極メテ緊要ノコトタリ世上動モスレハ體育運動ヲ一部愛好者ノ專有ニ任セ或ハ運動競技ニ於テ徒ニ勝敗ニ捉ハレ尙フヘキ運動精神ヲ閑却スルカ如キ弊ナキニアラサルモ斯ノ如キハ體育運動ノ目的ニ副ハサルモノニシテ健全ナル國民體育ノ普及發達上甚タ遺憾ナルコトト言ハサルヘカラス

地方長官竝直轄學校長ハ以上ノ趣旨ニ則リ左記事項ニ準據シ體育關係者ヲシテ我カ國情ニ應シ地方ノ實情ニ適セル體育運動ノ普及發達ニ力メシムルヤカ適宜ノ措置ヲ講セラルヘシ

一　體育運動ノ指導ニ關スル事項

體育運動指導ノ任ニ當ル者ハ左記各項ニ留意シ適切ナル指導ヲ爲スコト

(一)常ニ體育運動ノ目的、技術、衞生的注意等ニ付正シキ知識ヲ授ケ且廣ク體育運動思想ノ普及ヲ圖ルコト

(二)體育運動ヲ行フニ當リテハ運動精神ノ發揚ヲ圖リテ德性ノ涵養ニ力メ且身體ノ修練ヲ重ンスルコト

(三)體育運動ハ一部少數者ニ限ルコトナク普ク國民ヲシテ之ニ與カラシメ且一時的ニ過度ニ陷ルコトナク斷エス正シク之ヲ行フ習慣ノ養成ニ力ムルコト

(四)體育運動ノ種目(體操、遊戲、競技、劍道、柔道、弓道、水泳、乘馬、相撲、スキー、スケート、登山、遠足等)竝其ノ實施程長ハ運動ヲ行フ者ノ年齡、環境、土地ノ事情、季節等ヲ顧慮シ適當ニ之ヲ定ムルコト

(五)女子ノ體育運動ニ關シテハ特ニ其ノ精神的竝身體的特徵ニ適合セル運動ノ種目及實施方法ヲ選定シ且運動時ノ態度、服裝等ニ注意スルコト

(六)身體虛弱者ノ體育運動ニ關シテハ體質、體力、氣力其ノ他ノ心身狀態ヲ顧慮シテ適當ナル運動ノ種目及實施方法ヲ選定シ且運動量ノ限定、休養其ノ他ノ衞生的養護ニ注意スルコト

(七)運動ヲ行フ場所、運動用具、救急設備等ニ注意シ運動ニ因ル傷害ノ豫防ヲ怠ラサルコト

二　運動選手及運動競技會ニ關スル事項

運動選手ノ選定、對抗競技會、選手權競技會及之ニ類スル競技會ノ開催、管理等ニ關シテハ學校長、團體又ハ競技會ノ管理者等ハ左記各項ニ留意シ適當ナル措置ヲ爲スコト

(一)運動選手ハ身體强壯ニシテ操行正シク學業又ハ業務ニ忠實ナルヘキコト

(二)運動選手ハ强要スルカ如キ方法ヲ以テ之ヲ選定セサルコト

(三)學校又ハ團體ノ選手ノ選定及競技會參加ニ關シテハ其ノ學校長又ハ管理者ノ承認ヲ經ヘキコト

(四)運動選手ハ運動精神ヲ重ンシ其ノ行動ハ公明正大ニシテ競技ノ勝敗ノミニ捉ハレサルコト

(五)學校ノ競技會開催ニ付テハ當該學校長ノ承認ヲ經ヘキコト

(六)體育運動團體其ノ他各種團體ノ競技會開催ニ付テハ出來得ル限リ

教育關係者ト聯絡ヲ採リ競技會ノ計畫、實施等總テ教育的ナラシムルコト

(七)學校、團體等ノ競技會開催ニ付テハ互ニ聯絡ヲ採リ同一選手ノ參加スヘキ競技會ヲ數次重複セシメサルコト

(八)競技會ノ開催ニ關シテハ開催ノ時期、日數、參加地域等ヲ顧慮シ選手應援者等ヲシテ學業又ハ業務ニ支障ヲ來サシメス且多額ノ參加費用ヲ要セサラシムルコト

(九)競技會ノ實施ニ當リテハ其ノ管理者、役員、選手、應援者、參觀者等ハ各々職分ヲ守リ其ノ責ニ任シテ競技ノ遂行上遺憾ナキヲ期スルコト

三　體育運動團體ニ關スル事項

學校及團體ノ關係者ハ體育運動團體ノ組織竝管理ニ關シ左記各項ニ留意シ其ノ健全ナル發達ヲ圖ルコト

(一)學校ニ於ケル體育運動ニ關スル團體ヲ組織スル場合ハ學校長タル者之カ管理ニ當ルコト

(二)學校ニ於ケル體育運動團體ハ成ルヘク學校間ニ於テ聯絡ヲ保ツコト

(三)學校以外ノ體育運動團體ハ其ノ管理ニ關シ成ルヘク教育關係者ト聯絡ヲ採リ事業ノ達成ニ力ムルコト

○野球ノ統制竝施行ニ關スル件

（昭和七年三月二十八日　文部省訓令第四號）

直轄學校
公私立大學高等學校及專門學校
北海道廳府縣

我カ國ニ於ケル運動競技カ近時著シク普及發達シタルハ啻ニ體育ノ爲ニ之ヲ賀スヘキノミナラズ國民ノ資質向上ノ見地ヨリ大ニ之ヲ慶ハザルベカラズ

運動競技カ國民ノ健康ヲ增進シ體位ヲ向上セシムルノ效果ハ固ヨリ言ヲ俟タズ更ニ人人ノ元氣ヲ振作シ氣宇ヲ明朗快濶ニシ其ノ態度ヲ公明實擧ナラシムル等所謂運動精神ヲ體得セシメテ不知不識ノ間ニ人格ノ敎養ニ資スルノ大ナルハ深ク考慮スベキ所ニシテ體育運動カ近世ノ敎育ニ最モ重ンセラルルノ理由亦此ニ存ス顧フニ我カ國ニ於ケル運動競技中野球ハ比較的舊クヨリ行ハレ普及ノ範圍最モ廣ク其ノ一般民衆ニ及ボス影響亦甚大ナルヲ以テ體育運動ノ振興ヲ期セントスルニハ先ヅ野球ノ健全ナル發達ヲ圖ルノ要アリ而シテ學生ニ依リテ行ハルル野球カ一般野球界ノ中心ヲナセルノ實情ニ鑑ミルトキハ之カ第一著手トシテ其ノ適正健全ナル發達ヲ圖ルヲ喫緊ノ急務トナサザルベカラズ是レ今回特ニ學生野球ノ施行ニ關シ其ノ據ルベキ基準ヲ示サントスル所以ナリ

凡ソ學生野球ノ要ハ敎育ノ本義ニ則リテ運動競技ノ精華ヲ發揮セシムルニ在リ卽チ之ヲ行フ者常ニ克ク學生ノ本分ヲ體シ純正ナル心情ヲ持スルヲ以テ念トナサザルベカラズ然レドモ往々ニシテ之ニ伴フ弊ナキ能ハズカノ野球ヲ行フ者又ハ野球ヲ觀ル者ノ熱狂ノ餘常規ヲ逸シ正道ヲ離ルルコトヲ是ナリ此ノ如キハ互ニ相警メ又自ラ抑制シテ正シキニ就カシムベキハ論ヲ俟タズ尙且本邦ニ於ケル野球ハ其ノ發達ノ過程複雜ニシテ之カ施行ノ體樣亦區々ニ流レ爲ニ適正ナル發達ヲ損ヒタルコト少カラズ是ヲ以テ其ノ施行ニ關スル組織益々整備シ其ノ統制愈々確立スルニ至ラバ更ニ一層之カ成果ヲ善美ナラシムルコトヲ得ベシ蓋シ本邦野球界ノ現狀ハ此ノ種ノ企劃ヲ實施スルニ方リ特殊ノ困難ノ之ニ伴フコト鮮カラザルベシト雖モ官民協力シテ堅忍事ニ當ラバ成功ノ日ハ必ズ到來スベシト信ズ

玆ニ學生野球ノ施行ニ關シ叢多ノ規矩ヲ揭ゲ其ノ實施ヲ勸奬シ以テ之カ適正健全ナル發達ヲ期セントス局ニ當ル者克ク本令ノ趣旨ヲ體シ其ノ達成ニ努ムル所アルベシ

一　小學校ノ野球ニ關スル事項

一　小學校ニ於ケル野球ハ之ヲ校內兒童ノ間ニ行ハシムルヲ旨トシ對外試合ニ熱中スルカ如キ弊ニ陷ラシメザルコト

二　兒童ヲ對外試合ニ參加セシムル必要アル場合ハ左記ニ準據スベキコト

(一)　對外試合ノ開催ハ左記ニ依ルコト

イ　同一府縣內ニ存スル二校間ノ試合ハ關係學校長ノ協定ノ下ニ開催セラルルモノタルコト

ロ　同一府縣內ニ存スル三校以上ノ學校ガ參加スル試合ハ參加學校長ノ承認アル場合ニ限リ左記ヨリ開催セラルルモノタルコト

1　參加學校ガ同一郡、市、區、町、村內ニ存スル場合ハ夫々當該郡、市、區、町、村ノ體育團體ニ於テ主催スルコト

2　參加學校ガ前記ノ範圍ヲ超エ且ツ同一府縣內ニ存スル場合ハ府縣體育團體ニ於テ主催スルカ又ハ關係郡市ノ體育團體ノ共同主催ノ下ニ當該府縣體育團體ノ公認ヲ受ケテ開催スルコト

ハ　參加學校ガ府縣ヲ異ニスル試合ハ參加學校長ノ承認アル場合ニ限リ關係府縣體育團體ノ協定ニヨリ開催地ノ府縣體育團體主催ノ下ニ開催セラルルモノタルコト

(二)　試合參加ノ爲兒童ヲシテ宿泊セシメザルコト

(三)　試合ハ總テ之ヲ學業ニ支障ナキトキニ行フベク特ニ對外試合ハ土曜日ノ午後又ハ休業日ニ限リ行ハルルコト

(四)　對外試合ニ出場スル兒童ハ尋常小學校第五學年以上ノ兒童ニシテ父兄ノ承認竝學校醫ノ健康證明アル者ニ就キ學校長之ヲ選定スルコト

(五)　兒童ヲシテ「クラブチーム」ノ試合ニ參加セシメザルコト

(六)　對外試合ニ於テ同一兒童ガ一日ニ行フ試合回數ハ一回ヲ原則トシ止ムヲ得ザル場合ハ二回行フモ妨ゲザルコト

(七)　試合ニ要スル經費ハ當該試合ノ主催者ニ於テ負擔スルコト

(八)　試合ノ主催者ハ入場料又ハ參加料ヲ徵收シ若ハ營利宣傳等ニ利用セラルル虞アル寄贈品、寄附金等ヲ收受セザルコト

(九)　對外試合ニ於テハ應援團ヲ組織セザルコト

(十)　試合ノ主催者ハ一切使用球ヲ指定セザルコト

三　野球ノ指導ハ當該學校職員主トシテ之ニ當リ特ニ指導者ヲ招聘セザルコト

四　野球ニ關シ特ニ後援會等ヲ組織シ又ハ其ノ支援ヲ受ケザルコト

二　中等學校ノ野球ニ關スル事項

一　中等學校ノ野球ニ關シテハ府縣ノ體育團體ニ於テ適當ニ統制スルコト但シ當該團體ノ設置ナキモ府縣學事當局者竝中等學校長ト密接ナル聯絡ヲ有スル中等學校體育聯盟若ハ中等學校野球聯盟ノ設置アリテ府縣內中等學校ノ野球ヲ統制セル場合ハ右團體ヲシテ統制ニ當ラシムルモ妨ゲザルコト

二　中等學校生徒ノ參加シ得ル野球試合ハ左記ニ依リ開催セラルルモノタルコト

イ　全國的優勝大會及全國的選拔大會ハ文部省公認ノ下ニ夫々年一回ヲ限リ開催セラルルモノタルコト但シ明治神宮體育大會ニ關スル野球ハ此ノ限ニ在ラザルコト

ロ　地方的大會（參加學校ガ近接セル二府縣若ハ數府縣ニ亘ル試合ヲ謂フ）ハ關係府縣體育團體（第一項記載ノ事項參照）ノ共同主催若ハ文部省公認ノ下ニ開催セラルルモノタルコト但シ同一府縣ノ參加回數ハ年一回（全國的優勝大會ノ地方豫選ヲ別ニ行フ場合ハ此ノ回數ニ含マズ）ニ限ルコト

ハ　府縣大會ハ府縣ノ體育團體（第一項記載ノ事項參照）ノ主催若ハ其ノ公認ノ下ニ年一回（全國的優勝大會竝地方的大會ノ府縣豫選ハ之ヲ含マズ）開催セラルルモノタルコト

ニ　同一府縣內ニ存シ近接セル三校以上ノ學校間ニテ行フ試合ハ府縣體育團體ノ主催若ハ關係學校共同主催ノ下ニ府縣體育團體（第一項記載ノ事項參照）ノ公認ヲ得テ開催セラルルモノタルコト

ホ　同一府縣內ニ存スル二校間ノ試合ハ兩校共同主催ノ下ニ開催セラルルモノタルコト

ヘ　府縣ヲ異ニスル二校間ノ試合ハ夫々當該學校主催ノ下ニ其ノ屬スル府縣體育團體（第一項記載ノ事項參照）ノ公認ヲ得テ開催セラルルモノタルコト

三　試合ハ總テ學業ニ支障ナキ時ニ行フベク特ニ對外試合ハ土曜日ノ午後又ハ休業日ニ限リ行フコト但シ荒天等ノ爲之ニ據リ難キ場合ハ特ニ府縣體育團體（第一項記載ノ事項參照）ノ承認ヲ得ルコト又運動場配當等ノ關係ニヨリ之ニ據リ難キ特別ノ事情アル府縣ニ於テハ當該府縣體育團體ニ於テ其ノ事情ヲ具シ文部省ノ承認ヲ得ルコト

四　入場料ヲ徵收シ得ル試合ハ府縣體育團體（第一項記載ノ事項參照）ニ於テ主催スルカ若ハ文部省ニ於テ公認シタルモノニ限ルコト

五　前項ニ依リ入場料ヲ徵收セントスルトキハ之ニ關シ主催者ハ豫メ文部省ノ承認ヲ得其ノ收支ハ本令中入場料ニ關スル事項ニ基キ右團體ニ於テ處理シ試合終了後收支決算ヲ遲滯ナク報告スルコト但シ其ノ使途ニ關シ入場料ニ關スル事項中二ノ㈢、㈣ニ充當セントスル場合ハ其ノ事情ヲ具シ文部省ノ承認ヲ得ベキコト

六　試合參加ニ關シ旅費滯在費等ヲ受クル場合ハ必ズ當該學校ノ屬スル府縣ノ體育團體（第一項記載ノ事項參照）ヲ經テ收受シ當該學校ハ直接之ニ與ラザルコト

七　試合ニ出場スル選手ハ當該學年ニ於テ原級ニ止リタルモノニアラザルコト　轉入學若ハ中途入學ノ者ハ入學後一ケ年以上ヲ經過セルモノニ限ルコト

八　選手ハ父兄ノ承認竝學校醫ノ健康證明アルモノニ就キ學校長之ヲ選定スルコト

九　生徒ハ個人ノ資格ニ於テ入場料ヲ徵收スル試合ニ出場スルヲ得ザルコト

十　選手ハ「クラブチーム」ニ加ハリ試合ニ出場スルヲ得ザルコト但シ學校長ノ許可アル場合收入ヲ伴ハザル試合ニシテ府縣體育團體（第一項記載ノ事項參照）ノ承認ヲ得テ學校ヲ背景トスル「クラブチーム」ニ加ハリ試合ニ出場スルハ此ノ限ニ在ラザルコト

三　大學及高等專門學校ノ野球ニ關スル事項

一　全國的大會、地方的大會若ハ聯盟試合ヲ開催スル常置ノ團體ハ其ノ役員中ニ關係學校又ハ其ノ體育會（又ハ運動會）ノ責任者若ハ野球部長ヲ加ヘ豫メ團體ノ代表者ニ於テ左記事項ヲ具シ文部省ニ報告シ其ノ公認ヲ受クベキコト但シ關係學校多數ノ爲全部ノ學校ヨリ役員ヲ加ヘ難キ場合ハ適當ノ員數ニ制限スルモ妨ゲナキコト

㈠　團體ノ名稱

㈡　事務所ノ所在地

㈢　團體代表者ノ氏名

㈣　團體組織ニ關スル規定

㈤　事業施行ニ關スル規定

㈥　經理ニ關スル詳細ナル規定

前記各號ノ事項ニ變更ヲ生ジタル場合ハ其ノ都度文部省ニ報告シ其ノ承認ヲ得ベキコト

二　前項ノ常置團體ハ每年度ノ始メニ於テ其ノ年度ノ事業豫定竝收支豫算及前年度ノ事業概要竝收支決算ヲ文部省ニ報告スベキコト

三　第一項ノ常置團體以外ノ團體ニ於テ全國的大會、地方的大會、聯盟試合若ハ是等ニ準ズル試合ヲ開催セントスルトキハ參加學校長承認ノ下ニ試合ノ施行竝經理方法ヲ具シ試合開催前豫メ文部省ノ公認ヲ受クベキコト

四　兩校對抗試合ハ當該學校長承認ノ下ニ行ハレ得ルコト但シ入場料ヲ徵收スル場合及當該學校ガ何レモ其ノ所在スル府縣ヲ離レ試合ヲ行フ場合ハ其ノ件ニ關シ豫メ當該學校ニ於テ文部省ノ承認ヲ受クベキコト

入場料ヲ徵收シタル場合ハ試合終了後其ノ收支ヲ遲滯ナク文部省ニ報告スベキコト

五　入場料ヲ徵收スル試合ヲ行ヒ其ノ使途ニ於テ入場料ニ關スル事項中二ノ㈣ニ充當スル場合ハ其ノ事情ヲ具シ文部省ノ承認ヲ得ベキコト

六　選手ハ學校醫ノ健康證明ヲ受ケ學校長ニ於テ適當ト認メタルモノニ限ルコト

七　學生生徒ハ文部省ノ認メタル場合ノ外入場料ヲ徵收スル試合ニ參加スルヲ得ザルコト

八　選手ハ在籍又ハ出身學校ヲ背景トスル「クラブチーム」以外ノ「チーム」ニ加ハリ優勝大會若ハ之ニ準ズベキ試合ニ出場スルヲ得ザルコト但シ文部省ノ公認セル常置團體ニ於テ之ニ就キ文部省ノ承認ヲ得テ構成スル全國的又ハ地方的ノ選拔「チーム」ニ參加スル場合ハ此ノ限ニ在ラザルコト

九　試合ハ土曜日ノ午後又ハ休業日ニ限リ行フコト但シ以上ノ期日外ニ行フ場合ハ關係學校當局ニ於テ支障ナキモノト認メタル場合ニ限ルコ

ト

四　入場料ニ關スル事項

一　入場料ハ入場者ノ整理ヲナシ「二」ニ掲グル經費ニ充ツル場合ニ限リ之ヲ徵收シ得ルコト

二　入場料其ノ他ノ收入ハ之ニ就キ文部省ノ承認ヲ得タル團體ニ於テ收受シ左ノ順序ニヨリ支出シ體育運動以外ノ經費ニ充當セザルコト但シ體育運動團體（大學及高等專門學校ニ關シテハ學校ヲ含ム）以外ノ主催者ガ收受スル場合ハ豫メ文部省ト協議ヲ遂ゲ其ノ支途ヲ定ムルコト

(一)　當該試合ヲ開催スルニ必要ナル經費

イ　會場費

ロ　試合施行ニ要スル經費

ハ　試合ノ參加竝準備ニ要スル經費

ニ　其ノ他ノ雜費

(二)　主催體育運動團體ノ管理ニ必要ナル經費

(三)　參加學校ニ於ケル體育運動競技ノ施行ニ資スル經費

(四)　各種體育運動ノ普及發達ニ必要ナル經費

五　試合、褒賞等ニ關スル特殊事項

一　學校ノ「チーム」ハ當該學校長及文部省ノ承認アル場合ノ外、國外ニ遠征シ若ハ來朝「チーム」ト試合ヲ行フヲ得ザルコト

二　試合參加ニ關シ選手又ハ學校ノ優勝旗、優勝牌其ノ他之ニ準ズルモノノ外褒賞トシテ之ヲ受ケルヲ得ザルコト

三　選手ハ廣告、商品若ハ營利、宣傳ニ利用セラルル虞アル記事等ニ自己ノ名義、肖像等ヲ利用セシメザルコト

四　學校選手ハ職業選手ト試合ヲ行フヲ得ザルコト但シ學校長及文部省ノ承認アル場合ハ此ノ限ニ在ラザルコト

五　選手ハ「コーチ」審判等ヲ行フニ當リ旅費、宿泊費其ノ他當然必要ナル經費以外ノ金品ヲ受ケザルコト

六　選手ハ選手タルノ故ヲ以テ學校又ハ學校ヲ背景トスル團體等ヨリ學費其ノ他ノ生活費ヲ受クルヲ得ザルコト

七　野球ニ優秀ナルノ故ヲ以テ入學ノ便ヲ與ヘ又ハ學費其ノ他ノ生活費ヲ授クルガ如キコトヲ條件トシテ入學ヲ勸誘セザルコト

六　應援ニ關スル事項

一　應援ハ當該試合主催者及學校當局者ノ承認セル場合ニ限リ之ヲ行ヒ得ルコト

二　學生生徒ガ應援團ヲ組織スル場合ハ左ノ條項ヲ遵守スルコト

(一)　應援團ハ當該學校ノ職員、學生、生徒ノミヲ以テ組織スルコト

(二)　應援團ハ豫メ其ノ責任者ヲ定メ當該試合ノ主催者ニ屆出ヅルコト

(三)　應援團ハ當該學校ノ當局者竝運動部ト十分ナル聯絡ヲ保ツベキコト

三　應援ノ方法ニ關シテハ學校當局者、試合ノ主催者、關係學校應援團ノ間ニ十分ナル協議ヲ遂ゲ特ニ左記事項ニ關シテハ之ヲ嚴守スベキコト

(一)　應援ハ學生生徒ノ本分ヲ體シ運動競技ノ精神ニ從ヒテ之ヲ行ヒ苟モ試合ノ妨害トナルガ如キ事ハ一切之ヲ行ハザルコト

(二)　應援者ノ服裝ハ當該學校ノ制服制帽ニ限ルコト

(三)　廣告、宣傳等ニ利用セラルル虞アル物品ヲ一切使用セザルコト

(四)　應援ノ爲蒐リニ多額ノ經費ヲ費サザルコト

附　則

本令ハ昭和七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令中府縣ノ體育團體トアルハ府縣學事當局者竝學校長ト密接ナル關係ヲ有シ他ノ運動種目ト共ニ小學校竝中等學校ノ野球ヲ統制シ得ル團體タルベキ郡、市、區、町、村ノ體育團體トアルハ夫々其ノ地域ノ學校管理者及學校長ト密接ナル關係ヲ有シ府縣ノ體育團體ノ公認ヲ得タルモノナルベキコト但シ郡、市、區、町、村ノ體育團體ニ關シテハ學校管理者竝小學校長ト密接ナル關係ヲ有スル教育會等ヲシテ之ニ代ラシムルハ妨ゲザルコト

府縣體育團體、府縣中等學校體育聯盟若ハ府縣中等學校野球聯盟ノ設置ナキ場合ハ府縣ニ於テ適當ナル方法ニヨリ小學校竝中等學校ノ野球ノ統制ニ關スル事務ヲ取扱フベキコト

○學校體操教授要目

（昭和十一年六月三日
文部省訓令第十八號）

北海道廳　府　縣

學校體操教授要目左ノ通改正ス地方長官ハ宜シク各學校長ヲ督勵シ本改正教授要目ニ基キ且學校教練教授要目トノ聯繫ヲ保チ克ク地方ノ情況ニ適切ナル教授細目ヲ定メテ之ヲ實施セシメ以テ生徒兒童ノ身體ノ健全ナル發達ヲ期シ人格ヲ陶冶スルニ於テ遺憾ナキヲ期セラルベシ

學校體操教授要目（略ス）

○師範學校中學校物理及化學實驗要目

（大正七年二月五日
文部省訓令第一號）

北海道廳　府　縣

理化學ノ研究ヲ奬勵シ其ノ知識ノ普及ヲ圖リ以テ殖産興業其ノ他有モ國力ノ充實ニ資スヘキ事業ノ健全ナル發達ヲ期スルハ實ニ今日ノ急務タリ各學校ニ於テハ固ヨリ夙ニ此ノ趣旨ニ基キ理化學教授ニ努ムル所アリト雖國家ノ將來ニ稽フレハ一層其ノ教授方法ヲ改善シ特ニ重キヲ實驗ニ置キ努メテ形式ニ流レ注入ニ陷ルノ弊ヲ防キ以テ國民生活ノ實際ニ適切ナル知識技能ヲ確實ニ會得セシメ兼テ獨創自發ノ精神ヲ涵養センコトヲ要ス

此ノ目的ヲ貫徹セシメンカ爲メ師範學校中學校ニ於ケル物理及化學ノ生徒實驗ニ關スル設備ニ對シ國費ヲ支出シテ其ノ完成ヲ助クルト共ニ茲ニ該科生徒實驗要目ヲ制定セリ地方長官ハ宜シク各學校長ヲ督勵シ本要目ニ準據シテ生徒ニ實驗ヲ課シ以テ理化學教授ノ效果ヲ完リスルニ於テ遺憾ナキヲ期セシメラルヘシ

生徒實驗要目（略ス）

○陸軍現役將校學校配屬令

（大正十四年四月十三日
勅令第百三十五號）

（改正）　昭四年勅令一三四號、一〇年二四八號

第一條　官立又ハ公立ノ師範學校、中學校、實業學校、高等學校、大學

豫科、專門學校、高等師範學校、臨時教員養成所、實業學校教員養成所又ハ青年學校教員養成所ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬ス但シ戰時事變ノ際其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル將校ノ配屬ハ陸軍大臣文部大臣ト協議シテ之ヲ行フ

配屬將校ハ教練ニ關シテハ當該學校長ノ指揮監督ヲ承ク

第二條　私立ノ中學校、實業學校、高等學校、大學豫科若ハ專門學校又ハ兵役法施行令第百條第三號ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケタル私立學校ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲當該學校ノ申請ニ因リ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ將校ヲ配屬スル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

大學學部ノ申出アルトキハ前二項ノ規定ニ準シテ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコトヲ得

第三條　陸軍大臣及文部大臣ハ特別ノ事由アルトキハ本令ニ依ル將校ノ配屬ヲ止ムルコトヲ得

第四條　陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ本令ニ依リテ將校ヲ配屬シタル學校ニ於ケル教練實施ノ狀況ヲ査閲セシムルコトヲ得

第五條　官立又ハ公立ノ商船專門學校及商船學校ニハ第一條ノ規定ニ拘ラス將校ヲ配屬セサルコトヲ得

尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校又ハ之ト同等以上ノ實業學校以外ノ實業學校、修業年限二年未滿ノ青年學校教員養成所及夜間ニ於テ教練ヲ課スル學校ニ付テハ第一條及第二條ノ規定ヲ適用セス

第六條　配屬將校傷痍疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ服務シ難キトキハ陸軍大臣ハ文部大臣ト協議シテ他ノ現役將校ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條又ハ第二條ニ規定スル學校ニシテ大正十四年二月一日以後ニ於テ設立シタルモノニハ當分ノ内將校ヲ配屬セサルコトヲ得

○陸軍現役將校學校配屬令施行規程

（大正十四年四月十三日）
（文部陸軍省令）

（改正）昭一〇年文部陸軍省令一號

第一條　陸軍現役將校學校配屬令第二條ノ規定ニ依リ陸軍現役將校ノ配屬ヲ受ケムトスルトキハ大學ニ在リテハ總長又ハ學長其ノ他ノ學校ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ陸軍大臣及文部大臣ニ宛テタル申請書ヲ文部省ニ提出スヘシ

一　名稱
二　位置
三　入學資格、修業年限
四　學生生徒定員、現在學生生徒學年別及學級別員數
五　屋外體操場ノ區域及面積
六　武器及其ノ附屬物ノ種類竝員數
七　現在體操科教員ノ氏名略歴

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ現役將校ノ配屬ヲ止ムルコトアルヘシ

一　兵役法施行令第百條第三號ノ規定ニ依リ認定セラレタル學校ニシテ其ノ認定ヲ取消サレタルトキ
二　教練ノ成果ヲ擧クル見込ナキトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年ニ現役將校ノ配屬ヲ受ケムトスルモノハ第一條ノ申請書ヲ四月三十日迄ニ提出スヘシ

○教練教授要目

（大正十四年四月十三日）
（文部省訓令第六號）

直轄諸學校
公立私立ノ大學、高等學校、專門學校
北海道廳　府　縣

學校ニ於ケル教練ノ實施ニ關シ左ノ通教練教授要目ヲ定ム陸軍現役將校ノ配屬ヲ受ケタ教練ヲ行フ學校ニ在リテハ本教授要目ニ依リ教練ヲ行フヘシ之カ監督ノ衝ニ當ル者ハ宜シク本教授要目ノ示ス所ニ依リ土地ノ狀況ト學生生徒ノ心身ノ發達トニ鑑ミ各適切ナル教程ヲ定メ以テ教練實施ノ本旨ヲ貫徹セシメムコトヲ期スヘシ

教練教授要目（略ス）

○陸軍現役將校配屬學校教練査閲規程

（大正十五年九月二十七日）
（陸軍省令第十九號）

（改正）昭二年陸軍省令三一號、昭九年一七號

第一條　陸軍現役將校學校配屬令第四條ノ規定及大正十四年勅令第二百四十六號ニ依リ學校ノ教練ヲ査閲セシムル將校ヲ教練査閲官ト稱ス

第二條　教練査閲官ハ陸軍大臣之ヲ命ス

第三條　教練ノ査閲ハ專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ在リテハ師管毎ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ聯隊區毎ニ其ノ區域ニ從ヒ一名ノ教練査閲官ヲシテ之ヲ行ハシム但シ當該區域内ニ在ル學校多數ナルトキハ二名以上ノ教練査閲官ヲシテ分擔査閲セシムルコトアルヘシ

第一師管内ニ在ル學校ニシテ近衛師團長ノ隷下ノ將校ヲ配屬シタルモノニ在リテハ前項ノ區域ニ拘ラス近衛師團長ニ於テ、臺灣軍司令官、關東軍司令官又ハ支那駐屯軍司令官ノ隷下ノ將校ヲ配屬シタル學校ニ在リテハ當該軍司令官ニ於テ、第十九又ハ第二十師團ノ管區（陸軍召集規則第百九十六條ノ管區以下同シ）内ニ在ル學校ニ在リテハ第十九又ハ第二十師團長ニ於テ適宜ニ査閲ノ區域ヲ定メ前項ノ規定ニ準シ教練査閲官ニ其ノ擔任ヲ命スヘシ

第四條　陸軍大臣ハ前條ノ規定ニ依ルノ外臨時ニ教練査閲官ヲ命シ査閲スヘキ學校ヲ指定シテ其ノ教練ヲ査閲セシムルコトアルヘシ

第五條　師團長ハ其ノ師管内ノ教練ノ査閲ヲ指揮監督ス

近衛師團長、臺灣軍司令官、關東軍司令官又ハ支那駐屯軍司令官ハ其ノ隸下ノ將校ヲ配屬シタル學校、第十九又ハ第二十師團長ハ其ノ管區內ノ學校ノ教練ノ査閲ヲ指揮監督ス

第六條　教練ノ査閲ハ毎年度（四月一日ヨリ其ノ翌年三月三十一日迄）內ニ於テ各學校ニ付少クモ一回之ヲ行フヲ例トス

第七條　師團長ハ關係ノ地方長官（地方長官ノ管轄セサル學校ニ在リテハ當該學校長）又ハ樺太廳長官、第十九又ハ第二十師團長ハ朝鮮總督、臺灣軍司令官ハ臺灣總督、關東軍司令官ハ關東長官（關東長官ノ管轄ニ屬セサル學校ニ在リテハ當該學校長）、支那駐屯軍司令官ハ當該學校長ト協議シテ教練査閲日割表ヲ作製シ之ヲ査閲ヲ受クヘキ學校長ニ通知シ且陸軍大臣ニ報告スヘシ

前項ノ通知及報告ハ査閲ヲ開始スル日ヨリ三十日前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

師團長又ハ軍司令官ハ教練査閲ニ先チ前項ノ教練査閲日割表及査閲ノ要領其ノ他必要ナル事項ヲ教練査閲官ニ告示スヘシ

第八條　教練査閲官學校ノ教練ヲ査閲シタルトキハ當該學校長立會ノ上配屬將校ニ對シ所見ヲ開示スヘシ

第九條　教練査閲官ハ査閲ヲ終了シタルトキ其ノ結果ニ基キ左ノ事項ヲ記載シタル教練査閲報告書ヲ調製シ其ノ終了後二十日以內ニ師團長又ハ軍司令官ニ提出スベシ

一　學校別査閲方法

二　學校別教練成績ノ概要

三　各配屬將校ニ開示シタル所見

四　將來ニ關スル意見

五　其ノ他必要ト認ムル事項

第十條　師團長又ハ軍司令官ハ前條ノ報告書ニ基キ左ノ事項ヲ記載シタル管內教練査閲報告書ヲ調製シ四月二十五日迄ニ陸軍大臣ニ提出スベシ

一　第七條第三項ノ規定ニ依リ其ノ年度ニ於テ特ニ指示シタル事項

二　管內教練一般ノ成績

三　將來ニ關スル意見

四　其ノ他必要ト認ムル事項

第十一條　教練ノ成果ヲ擧クル見込ナシト認メタル學校ニ關スル報告其ノ他急ヲ要スル報告ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ都度教練査閲官ハ師團長又ハ軍司令官ニ、師團長又ハ軍司令官ハ陸軍大臣ニ之ヲ提出スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年陸軍省令第二十四號及同第二十七號ハ之ヲ廢止ス

○學校教練檢定規程

（昭和十年十一月三十日　陸軍省令第二十二號）

第一條　配屬學校（陸軍現役將校學校配屬令又ハ大正十四年勅令第二百四十六號ニ依リ學校ニ配屬シタル現役將校ヲ謂フ以下之ニ同ジ）ハ當該學校ノ最終學年ニ於テ成ルベク卒業期ニ近ク其ノ年卒業スベキ者（大學學部ニ在リテハ教練ヲ受ケタル者ニ限ル）ニ付教練ノ成績ヲ檢定シ卒業ノ際其ノ合否ヲ決定スベシ但シ卒業期ニ近ク檢定ヲ行ヒ難キ已ムヲ得ザル事情アル學校ニ於テハ其ノ檢定ノ時期ニ付別ニ指定スルコトアルベシ

配屬將校ハ當該學校ヲ中途退學スル者（入營ノ爲休學スル者及之ニ準ズル者ヲ含ム以下之ニ同ジ）及其ノ研究科、選科等ノ別科（正科トシテ教練ヲ課シアルモノニ限ル以下之ニ同ジ）ヲ修了又ハ中途退學スル者ニ對シテハ其ノ際教練ノ成績ヲ檢定シ其ノ合否ヲ決定スベシ但シ中學校及之ト同等程度ノ學校ヲ中途退學スル者及其ノ研究科、選科等ノ別科ヲ修了又ハ中途退學スル者ニ在リテハ當該學校ニ入學スル以前ニ在學セル學校（以下之ヲ前學校ト稱ス）ノ一ニ於テ檢定ヲ受ケタル者ニ限リ檢定ヲ行フ

前項ノ檢定ニ於テハ陸軍補充令第五十三條第一項第三號（ロ）號又ハ（ハ）號ニ揭ゲル學校ノ第一學年ノ課程ヲ修了セザル者及其ノ研究科、選科等ノ別科ヲ修了又ハ中途退學スル者並ニ中學校及之ト同等程度ノ學校ヲ中途退學スル者及其ノ研究科、選科等ノ別科ヲ修了又ハ中途退學スル者ニ付テハ前學校ノ一ニ於ケル檢定ニ合格シタル者ニ限リ合格ト爲スコトヲ得

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ前三項ノ規定ヲ適用セズ

一　戸籍法ノ適用ヲ受ケザル者

二　現役ヲ終リタル者及現役ニ服スル義務アル者ヲ除ク

補充兵トシテ教育召集ニ應召スル義務ナキニ至リタル者但シ第一

三　身體ノ故障ニ因リ當該學校ニ在學中教練ヲ課セラレザル者

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教練ノ檢定ニ於テ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ズ

一　正當ノ事由ナクシテ屢教練ニ闕席シタル者其ノ他教練實施ニ於テ怠慢ナリシ者、思想正順ヲ缺ク者又ハ素行不良ナル者ニシテ屢訓戒ヲ受クルモ改悛セザルモノ

二　前學校ニ於ケル檢定ニ合格シタルト否トニ拘ラズ其ノ成績不良ナル者

三　師範學校在學者ニシテ正當ノ事由ナク當該學校ノ軍事講習ヲ受ケザリシモノ

前條ノ規定ニ依リ合否ヲ決定スルニハ最終學年以前ノ學年及前學校ニ於ケル教練ノ成績ヲ參酌スルコトヲ要ス

第三條　第一條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル教練ノ檢定ヲ受クル者ニシテ當該學校ニ入學スル前配屬將校ニ依リ教練ヲ受クルコトヲ得ザリシモノト雖モ前條第一項第一號乃至第三號ノ規定ニ該當セザル限リ合格ト爲スコトヲ妨ゲズ

第四條　配屬將校ハ毎年當該學校ノ前學年中ニ於テ實施セル檢定ノ結果ヲ集錄シタル教練檢定原簿（附錄第一樣式）正副二通ヲ調製シ正本ハ配屬將校之ヲ保管シ副本ハ五月三十一日迄ニ所管長官ニ提出スベシ

所管長官前項ノ副本ヲ受ケタルトキハ之ヲ保管スベシ

教練檢定原簿ノ正本及副本ハ十二年間保管スルモノトス

第五條　配屬將校ハ第一條ニ規定スル教練ノ檢定ヲ行ヒ其ノ合否ヲ決定シタルトキハ之ヲ本人ニ通告シ且合格シタル者ニシテ教練檢定ノ合格ニ關スル證明書ノ下付ヲ願出ヅルモノアルトキハ前條ノ教練檢定原簿

ニ基キ教練檢定合格證明書（附錄第二樣式）ヲ調製シテ之ヲ下付スベシ

師範學校ノ配屬將校ハ其ノ年當該學校ヲ卒業スベキ者ニシテ教練檢定ニ不合格見込ノモノノ本籍地及氏名ヲ二月末日迄ニ到著スル如ク本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スベシ

師範學校ノ配屬將校ハ短期現役兵トシテ服役スル者ニシテ教練ノ檢定ニ合格セザルモノニ對シテハ其ノ本籍地及氏名ヲ本人本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スベシ但シ前項ノ通知ト相違ナキトキハ其ノ旨通知スルコトヲ以テ足ル

第六條　配屬將校ハ當該學校ニ於テ教練ヲ受クル者ニシテ兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依リ陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得セルモノ（前條ニ規定スル教練檢定合格證明書ヲ下付シタル者ヲ除ク）ニ對シテハ本人ノ申出ニ依リ退學ノ際教練證明書（附錄第三樣式）ヲ下付スベシ

第七條　所管長官ハ第四條ノ規定ニ依ル教練檢定原簿ニ基キ學校教練檢定結果表（附錄第四樣式）ヲ調製シ六月三十日迄ニ到著スル如ク陸軍大臣ニ提出スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

學校教練及青年訓練修了者檢定規程ハ之ヲ廢止ス

學校教練及青年訓練修了者檢定規程第一章ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケ合格シタル者ハ本令ニ依リ檢定ヲ受ケ合格シタル者ト看做ス

附錄第一樣式

學校教練檢定原簿

年　月　日　何學校配屬將校　官　氏　名　自印

合格者之部（何名）

聯隊區	本籍地	成績	幹部タルノ見込	卒業（中途退學、修了）年月日	氏名

（用紙美濃罫紙）

不合格者之部（何名）

聯隊區	本籍地	成績	不合格ノ理由	卒業（中途退學、修了）年月日	氏名

第一條第四項該當者之部（何名）

聯隊區	本籍地	事由	卒業（中途退學、修了）年月日	氏名

註記

一　合格者之部、不合格者之部等ハ各別紙トスルモノトス

二　「成績」「幹部タルノ見込」欄ハ本人ノ考科調書中ニ決定セルトコロニ依リ記入スルモノトス

三　事由欄ハ第何號ニ該當スベキヤヲ記入スレバ足ル

四　「何學校配屬將校」ノ上ノ「年月日」ハ本簿發行ノ年月日ヲ記載スルモノトス

五　大學學部ニ在リテハ卒業學生總數ヲ備考トシテ記載スベシ

附錄第二樣式

教練檢定合格證明書

本籍地　府縣郡市區町村字番地

氏　名

右ハ　年　月　日當校（大學令ニ依ル大學學部）卒業ノ際教練ノ檢定ニ合格シタルコトヲ證ス

年　月　日　何學校（所在地府縣郡市區町村）配屬將校　官　氏　名　自印

（用紙半紙半罫紙）

註記

一　「右ハ」ノ下ノ「年月日」ハ卒業・中途退學又ハ修了ノ日附ヲ記載スルモノニシテ檢定實施ノ日附ヲ記載スルモノニ非ズ

二　「當校」ノ下ノ括弧中ニハ學校ノ種類ヲ記載スルモノニシテ本樣式ハ其ノ一例ヲ示ス

三　中途退學又ハ修了ノ際檢定ヲ行ヒタル者ノ教練檢定合格證明書ハ「卒業ノ際」ヲ「中途退學ノ際」又ハ「修了ノ際」ト記載スルノ外本樣式ニ準ズルモノトス

四　「配屬將校」ノ上ノ「年月日」ハ證明書發行ノ年月日ヲ記載スルモノトス

附錄第三樣式　（用紙半紙半罫紙）

教練證明書

本籍地　府縣郡市區町村字番地
氏　名

右ハ　年　月　日ヨリ　年　月　日ニ至ル間當校第　學年ヨリ第　學年迄ノ教練ヲ受ケ兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依リ陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタルコトヲ證ス

何學校（所在地府縣郡市區町村）

年　月　日　　配屬將校　官　氏　　名　自印

註記

一　本文「當校」ノ次ニ要スレバ本人ノ在學セシ部科ヲ明瞭ナラシムルモノトス

二　「配屬將校」ノ上ノ「年月日」ハ證明書發行ノ年月日ヲ記載スルモノトス

附錄第四樣式　（用紙美濃罫紙）

學校教練檢定結果表

學校名	檢定合格人員	檢定不合格人員	當人員 第一條第四項該		
			第一號	第二號	第三號
					計

註記

一　大學學部ニ在リテハ卒業學生總數ヲ備考中ニ記載スルモノトス

二　本人員中ニハ卒業者及中途退學者ヲ通算スルモノトス

三　檢定ニ於テ不合格ト爲リタル者ニ付テハ其ノ事由別人員ヲ備考中ニ記載スルノモトス

備考						

○支那人ヲ入學セシムル公私立學校ニ關スル規程

（明治三十八年十一月二日　文部省令第十九號）

第一條　公立又ハ私立ノ學校ニ於テ清國人ノ入學ヲ許可セントスルトキハ其ノ入學願書ニ本邦所在ノ清國公館ノ紹介書ヲ添附セシムヘシ

第二條　公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ清國人生徒ニ對シ本人ノ志望ニ依リ其ノ學校所定ノ學科目中一科目若ハ數科目ヲ闕カシムルコトヲ得

第三條　清國人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ其ノ教育ニ關係スル職員ノ名簿、清國人生徒ノ學籍簿、出席簿及往復書類綴ヲ備フヘシ

前項ノ學籍簿ニハ生徒ノ氏名、原籍、年齡、居所、入學前ノ經歷、入學ヲ紹介シタル官廳ノ名稱、官費私費ノ區別、賞罰、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、轉學退學ノ事由等ヲ記載スヘシ

第四條　公立又ハ私立ノ學校ニ於テ清國人生徒ノ轉學又ハ退學ヲ許可セントスルトキハ其ノ願書ニ本邦所在ノ清國公館ノ承認書ヲ添付セシムヘシ

第五條　清國人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ毎年一月及七月ノ二回ニ其ノ前六箇月間ニ入學ヲ許可シタル清國人生徒ノ員數ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

前項ノ規定ハ清國人生徒ノ轉學者、退學者及卒業者ニ關シ之ヲ準用ス

第六條　公立又ハ私立ノ學校ニ於テ清國人生徒卒業シ又ハ之ニ退學ヲ命シタルトキハ一箇月以內ニ其ノ氏名及退學ヲ命シタル事由ヲ本人ノ入學ヲ紹介シタル清國公館ニ報告スヘシ

第七條　清國人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校中文部大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ特ニ之ヲ選定シ清國政府ニ通告ス

第八條　公立又ハ私立ノ學校ニシテ前條ノ選定ヲ受ケントスルトキハ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ既ニ開申シ若ハ認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　清國人教育ニ關スル沿革

二　學則中清國人教育ニ關スル規定

三　學校長若ハ學校代表者ノ履歷

四　教員ノ氏名、資格、學業經歷及分擔學科目

五　清國人生徒定員及學年學級別現在員數

六　清國人生徒校外監督ノ方法

七　清國人卒業者ノ員數及卒業後ノ情況

八　清國人生徒ニ充ツル校地校舍及寄宿舍ノ圖面

九　經費及維持ノ方法

十　教科書、教授用器具、器械及標本ノ目錄

前項第二號及第八號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ清國人生徒ヲシテ寄宿舍又ハ學校ノ監督ニ屬スル下宿等ニ宿泊セシメ校外ノ取締ヲナスヘシ

第十條　選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ハ他ノ學校ニ於テ性行不良ナルカ爲退學ヲ命セラレタル清國人ヲ入學セシムルコトヲ得ス

第十一條　文部大臣ハ必要ト認メタルトキハ吏員ヲシテ選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ノ試驗ニ立會ハシメ又ハ試驗問題及其ノ答案ヲ査閱セシムルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ試驗ノ問題又ハ方法中不適當ト認メタルモノアルトキハ當該吏員ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

試驗問題答案及成績表ハ少クトモ五箇年間之ヲ保存スヘシ

第十二條　選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ每學年終了後一箇月以內ニ其ノ淸國人生徒ノ敎育上ノ經過ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

第十三條　選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニシテ此規定ニ違背シ又ハ其ノ成績不眞ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ其ノ選定ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條　本令ノ規定ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第十五條　本令ノ規定ハ小學校及小學校ニ類スル各種學校ニ關シ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス

第三編　普通敎育

第一章　小學校

○小學校令

（明治三十三年八月二十日）
（勅令第三百四十四號）

（改正）明三六年勅令六三號、七四號、明四〇年五二號、明四四年二一六號、大二年二五八號、大八年一〇號、大一二年三七六號、大一五年七三號、二四二號

第一章　總　則

第一條　小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ眞摯敎育及國民敎育ノ基礎竝其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條　小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

尋常小學校ノ敎科ト高等小學校ノ敎科トヲ一校ニ併設スルモノヲ尋常高等小學校トス

市町村、町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ私人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス

第三條　尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ敎科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ敎科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス但シ文部大臣ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　町村組合ニシテ其ノ町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ之ヲ一町村ト同視ス

第五條　小學校ニ類スル各種學校ノ規程ニ關シテハ本令中別段ノ規定アルモノヲ除ケノ外文部大臣之ヲ定ム

第二章　設　置

第六條　市町村ハ其ノ區域內ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置スヘシ

第七條　府縣知事ハ一町村ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘスト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムヘシ

第八條　府縣知事ハ一町村ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程內ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ

一　其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムルコト

二　其ノ町村ヲシテ就學セシムヘキ兒童ノ全部若ハ一部ノ敎育事務ヲ他町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコト

府縣知事ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ其ノ町村ノ尋常小學校ニ對シ適度ノ通學路程內ニ在ラスト認メタルトキハ亦前項ノ例ニ依ルヘシ

府縣知事ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前項ニ準スヘキ事情アリト認メタルトキハ第一項第二號ノ例ニ準スヘシ

第八條ノ二　府縣知事ハ町村、町村學校組合又ハ其ノ一部ニシテ前條各項ノ一ニ該當スル事情アル場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ其ノ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ市又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得

府縣知事ハ市ノ一部ニシテ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ其ノ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ市町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得

第九條　市町村立尋常小學校ノ校數竝位置ハ府縣知事ニ於テ市町村又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

第十條　第七條又ハ第八條ニ依リ府縣知事ニ於テ町村學校組合ヲ設ケシメムトスルトキハ組合規約ヲ定メ關係町村ノ意見ヲ聞クヘシ組合規約ヲ變更シ組合町村ノ數ヲ增減シ又ハ組合ヲ解カシメムトスルトキ亦同シ

第八條又ハ第八條ノ二ニ依リ府縣知事ニ於テ兒童教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメムトスルトキハ關係市町村、町村學校組合及學區ノ意見ヲ聞クヘシ

第十一條　府縣知事ハ市町村若ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ、兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所數箇所アルトキ又ハ其ノ設置スヘキ尋常小學校ト兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所トアルトキハ市町村若ハ町村學校組合ヲ分畫シ其ノ一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童教育事務委託ノ爲其ノ使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係市町村、町村學校組合及學區ノ意見ヲ聞クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同シ

第十二條　府縣知事ハ第七條及第八條第一項ノ事情アルモ同條及第五十三條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

府縣知事ハ第八條第二項又ハ第三項ノ事情アルモ同項及第五十三條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村若ハ町村學校組合ヲシテ其ノ一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

第十三條　（削除）

第十四條　市町村ハ市町村又ハ其ノ學區ノ負擔ヲ以テ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

市町村又ハ町村ハ其ノ協議ニ依リ市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲ設ケ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

第十五條　市町村立高等小學校ノ設置及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條　私立小學校ノ設置及廢止ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　前三條ノ規定ハ小學校ニ類スル各種學校ニ關シ之ヲ準用ス

小學校ニ類スル各種學校ハ之ヲ小學校ニ附設スルコトヲ得

第三章　教科及編制

第十八條　尋常小學校ノ修業年限ハ六箇年トス

高等小學校ノ修業年限ハ二箇年トス但シ延長シテ三箇年ト爲スコトヲ得

第十九條　尋常小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、國史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

土地ノ情況ニ依リ手工ヲ加フルコトヲ得

第二十條　高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、國史、地理、理科、圖畫、手工、唱歌、體操、實業（農業、工業、商業ノ一科目又ハ數科目）トシ女兒ノ爲ニハ家事、裁縫ヲ加フ

土地ノ情況ニ依リ前項教科目ノ外外國語其ノ他必要ナル教科目ヲ加フルコトヲ得

前項ノ教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得第三學年ニ於ケル圖畫、唱歌ニ付亦同シ

手工ハ實業ニ於テ工業ヲ學習スル兒童ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

實業ノ教科目ヲ置キタル場合ニハ兒童ヲシテ其ノ一科目ヲ選擇セシム

實業ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二十一條　小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

補習科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十二條　小學校ノ教科目中兒童身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ其ノ兒童ニ課セサルコトヲ得

第二十三條　小學校ノ教科目ヲ加除セムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

補習科ヲ設置シ若ハ之ヲ廢止シ又ハ高等小學校ノ修業年限ヲ延長セムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條　小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタルヘシ

前項ノ圖書同一ノ教科目ニ關シ數種アルトキハ其ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ採定ス

文部大臣ハ第一項ノ規定ニ拘ラス修身、國史、地理ノ教科用圖書及國語讀本ヲ除キ其ノ他ノ教科用圖書ニ限リ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ府縣知事ヲシテ之ヲ採定セシムルコトヲ得

補習科ノ教科用圖書ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條、第二十六條　（削除）

第二十七條　小學校ノ休業日ハ日曜日ヲ除クノ外每年九十日ヲ超ユルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ前項ノ日數ヲ增加スルコトヲ得

傳染病豫防ノ爲必要アルトキ其ノ他非常變災アルトキハ府縣知事ニ於テ臨時小學校ノ閉鎖ヲ命スヘシ其ノ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ之ヲ閉鎖スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ府縣知事ニ報告スヘシ

第二十八條　小學校教則及小學校編制ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四章　設備

第二十九條　小學校ニ於テハ校舍、校地、校具及體操場ヲ備フヘシ

第三十條　校舍、校地、校具及體操場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ教育兵事產業衞生慈善等ノ目的ノ爲特別ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　小學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第五章　就學

第三十二條　兒童滿六歲ニ達シタル翌日ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ノ學齡ニ達シタル日以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期トシ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキヲ以テ就學ノ終期トス

學齡兒童保護者ハ就學ノ始期ヨリ其ノ終期ニ至ル迄學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ

學齡兒童保護者ト稱スルハ學齡兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ親權ヲ行フ者ナキトキハ其ノ後見人ヲ謂フ

第三十三條　學齡兒童癲癇白痴又ハ不具廢疾ノ爲就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

學齡兒童病弱又ハ發育不完全ノ爲就學セシムヘキ時期ニ於テ就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ直ニ府縣知事ニ報告スヘシ

市町村長ニ於テ學齡兒童保護者貧窮ノ爲其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認メタルトキ亦前二項ニ準ス

第三十四條　第十二條ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免セラレタル區域內ノ學齡兒童保護者ハ其ノ義務ヲ免除セラレタルモノトス

第三十五條　尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル者ハ其ノ雇傭ニ依リテ兒童ノ就學ヲ妨クルコトヲ得ス

第三十六條　學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘシ但シ市町村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルコトヲ得

官立若ハ府縣立ノ學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分、高等學校若ハ中學校ノ豫科又ハ盲學校若ハ聾唖學校ノ初等部ハ兒童就學ニ關シテハ之ヲ市町村立尋常小學校ト同視ス

第三十七條　兒童ノ年齡就學ノ始期ニ達セサル者ハ之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ス

第三十八條　小學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認メタル兒童ノ小學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

第六章　職員

第三十九條　小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目中修身、國語、算術、國史、地理、理科以外ノ教科目ニシテ文部大臣ノ定ムル一科目又ハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教員トス

本科正教員ヲ補助スル者ヲ准教員トス

第四十條　小學校教員タルヘキ者ハ免許狀ヲ受クヘシ

免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

第四十一條　免許狀ヲ受クルニハ師範學校若ハ文部大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業シ又ハ小學校教員ノ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ檢定ヲ施行スルカ爲府縣ニ小學校教員檢定委員會ヲ置ク

免許狀及小學校教員檢定委員會ノ組織權限其ノ他檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十二條　特別ノ事情アルトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ小學校准教員ニ代用スルコトヲ得

代用教員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十三條　市町村立小學校長ハ其ノ學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼ネシムヘシ

第四十四條　市立小學校長及教員ノ任用ハ市長又ハ市町村學校組合管理者ノ申請ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

町村立小學校長及教員ノ任用竝市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第四十五條　市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與竝其ノ支給方法ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第四十六條　小學校長及教員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十七條　小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第四十八條　市町村立小學校長及教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ內外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ府縣知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ニ準スヘキ所爲アリタルトキハ府縣知事ハ其ノ業務ヲ停止ス

第四十九條　小學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

小學校教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認メタルトキハ文部大臣又ハ府縣知事ニ於テ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第五十條　府縣知事ニ於テ行ヒタル免職若ハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七章　費用負擔及授業料

第五十一條　市町村立小學校ノ設置ニ關スル費用ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外市町村町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ負擔トス其ノ概目左ノ如シ

一　設備及其ノ維持ノ費用

二　職員ノ俸給、旅費、其ノ他諸給與

三　校費

兒童教育事務委託ニ關スル費用ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ノ負擔トス

第五十二條　府縣知事ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校

アルトキ又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所アルトキハ其ノ學校組合内ノ某町村ヲシテ其ノ數校中ノ一校若ハ數校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ止メムトスルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞クヘシ

第五十三條　府縣知事ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ府縣ハ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

一　町村ニシテ第七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得サルトキ

二　町村學校組合ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其ノ學校組合費ノ分擔ニ堪ヘサルトキ

三　町村又ハ町村學校組合ノ資力兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

前項ノ認定ニ付テハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クヘシ

第五十四條　（削除）

第五十五條　區長及其ノ代理者並學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ負擔トス但シ區長及其ノ代理者並學區ノ學務委員ニ關スル費用ハ市町村會又ハ町村學校組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ學區ノ負擔ト爲スコトヲ得

第五十六條　小學校教員檢定及免許狀ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第五十七條　市町村立尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ市町村立尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第五十八條　市町村立小學校ノ授業料ハ市町村、町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ收入トス

第五十九條　授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八章　管理及監督

第六十條　市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス

第六十一條　府縣知事ハ市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ヲシテ市町村長又ハ町村學校組合管理者ノ指揮命令ヲ受ケテ學區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第六十二條　市町村ハ教育事務ノ爲市制第八十三條町村制第六十九條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但シ市會町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

市町村學校組合又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

市町村又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ其ノ學區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加フヘシ

委員中教員ヨリ出ツル者ハ市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者之ヲ任免ス

第六十三條　學務委員ノ職務其ノ他學務委員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十四條　（削除）

第六十五條　市町村立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ府縣知事之ヲ監督ス

第六十六條　私立小學校ハ府縣知事之ヲ監督ス

第九章　附　則

第六十七條　本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ小學校ノ教科目並教則及授業料ノ徵收ニ關シテハ明治三十四年三月三十一日ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

第六十八條　本令ハ市制町村制ヲ施行シタル地ニ之ヲ施行ス

第六十九條　明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條ニ依リ設ケタル町村學校組合ハ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄之ヲ存續スルコトヲ得

第七十條　明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條及第四條ニ依リ小學校ニ於テ加設シタル教科目中本令ノ規定ニ抵觸スルモノ又ハ同令第六條ニ依リ高等小學校ニ於テ專修科ヲ置キタルモノハ明治三十三年九月一日ニ於テ現ニ學習スル兒童ノ卒業スルニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條ニ依リ體操科ヲ闕クル尋常小學校ニ於テハ明治三十六年三月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第七十一條　既設ノ尋常小學校ニシテ體操場ノ設備ナキモノハ明治三十八年三月三十一日迄其ノ設備ヲ猶豫ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ猶豫ノ期間内體操科ヲ闕クコトヲ得

第七十二條　本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス但シ小學校專科准教員ノ免許狀ハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條　明治二十六年勅令第百四號及明治三十年勅令第三百十六號ハ之ヲ廢止ス

明治二十六年勅令第三十四號及明治三十年勅令第四百七號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス

○明治四十年勅令第五十二號附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條及第三十六條第一項ノ改正ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

市町村立尋常小學校ニ代用シタル私立小學校ニ關シテハ其ノ代用期間ノ滿了スルニ至ル迄仍其ノ代用ヲ存續スルコトヲ得

特別ノ事情ニ依リ第十八條第一項ニ依リ難キ場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ期間ヲ定メテ府縣知事ノ認可ヲ受ケ當分ノ内尋常小學校ニ關シテモ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ高等小學校ニ關シテモ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

前項ニ依ル尋常小學校ノ教科目ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

本令施行ノ際現ニ在學スル高等小學校ノ兒童ニ關シテハ其ノ卒業スルニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

○明治四十四年勅令第二百十六號附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ在學スル兒童ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

○大正二年勅令第二百五十八號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前府縣知事ニ於テ授與シタル免許狀ハ本令ノ免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス明治二十五年勅令第四十號ニ依リ北海道廳長官ニ於テ授與シタル免許狀ニ付亦同シ

○大正八年勅令第十號附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ於テ授クル圖畫ハ第二十三條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

○大正十二年勅令第三百七十六號附則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存シ小學校令ニ依リ設置セラレタル私立ノ盲啞學校ニシテ盲學校及聾啞學校令ニ依ラサルモノハ私立學校令ニ依リ設立セラレタルモノト看做ス

○大正十五年勅令第七十三號附則

明治四十年勅令第五十二號附則第五項ヲ削ル

本令施行ノ際現ニ在學スル高等小學校ノ兒童ニ課スヘキ教科目ニ付テハ其ノ卒業ニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

○大正十五年勅令第二百四十二號附則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル處分其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リ府縣知事ノ爲シタル處分其ノ他ノ行爲ト看做ス

○小學校令施行規則

（明治三十三年八月二十一日文部省令第十四號）

（改正）明三四年文部省令二號、明三五年三號、一五號、明三六年一一號、二二號、三四號、明三七年一號、一九號、明三八年七號、明四〇年六號、二〇號、二四號、明四一年八號、一五號、一八號、二六號、明四二年一二號、明四三年四號、二一號、明四四年一五號、二四號、明四五年三號、大二年二〇號、二一號、大三年一號、三〇號、大七年四號、大八年六號、大九年一九號、二三號、大一〇年三六號、大一二年三五號、大一三年一六號、大一四年一三號、大一五年一八號、二七號、昭二年二〇號、三二號、昭三年一〇號、昭六年一七號、二一號、昭七年一號、昭八年四號、一二號、一七號、昭一一年五號

第一章　教科及編制

第一節　教則

第一條　小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育シ

道德教育及國民教育ニ關聯セル事項ハ何レノ教科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

知識技能ハ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナラシメンコトヲ務ムヘシ

兒童ノ身體ヲ健全ニ發達セシメンコトヲ期シ何レノ教科目ニ於テモ其ノ教授ハ兒童ノ心身發達ノ程度ニ副ハシメンコトヲ要ス

男女ノ特性及其ノ將來ノ生活ニ注意シテ各〻適當ノ教育ヲ施サンコトヲ務ムヘシ

各教科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第二條　修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キテ兒童ノ德性ヲ涵養シ道德ノ實踐ヲ指導スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ孝悌、親愛、勤儉、恭敬、信實、義勇等ニ就キ實踐ニ適切ナル近易ノ事項ヲ授ケ漸ク進ミテハ國家及社會ニ對スル責務ノ一斑ニ及ホシ以テ品位ヲ高メ志操ヲ固クシ且進取ノ氣象ヲ長シ公德ヲ尙ハシメ忠君愛國ノ志氣ヲ養ハンコトヲ務ムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ一層陶冶ノ功ヲ堅實ナラシメンコトヲ務ムヘシ

女兒ニ在リテハ特ニ眞淑ノ德ヲ養ハンコトニ注意スヘシ

修身ヲ授クルニハ嘉言善行及諺辭等ニ基キテ勸戒シ常ニ之ヲ服膺セシメンコトヲ務ムヘシ

第三條　國語ハ普通ノ言語、日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼テ智德ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ノ發音ヲ正シ假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ漸ク進ミテハ日常須知ノ文字及普通文ニ及ホシ又言語ヲ練習セシムヘシ

高等小學校ニ於テハ稍〻進ミタル程度ニ於テ日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ授ケ又言語ヲ練習セシムヘシ

讀ミ方、書キ方、綴リ方ハ各〻其ノ主トスル所ニ依リ教授時間ヲ區別スルコトヲ得ルモ特ニ注意シテ相聯絡セシメンコトヲ要ス

讀本ノ文章ハ平易ニシテ國語ノ模範ト爲リ且兒童ノ心情ヲ快活純正ナラシムルモノナルヲ要シ其ノ材料ハ修身、歷史、地理、理科其ノ他生活ニ必須ナル事項ニ取リ趣味ニ富ムモノタルヘシ

女兒ノ學級ニ用フル讀本ニハ特ニ家事上ノ事項ヲ交フヘシ

文章ノ綴リ方ハ讀ミ方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項兒童ノ日常見聞セル事項及處世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ其ノ行文ハ平易ニシテ旨趣明瞭ナランコトヲ要ス

書キ方ニ用フル漢字ノ書體ハ尋常小學校ニ於テハ楷書行書ノ二種トシ高等小學校ニ於テハ尙草書ヲ加フ

國語ヲ授クル際ニハ語句文章ノ意義ヲ明瞭ニシ且其ノ用法ニ習熟セシメンコトヲ務ムヘシ

他ノ教科目ヲ授クル際ニ於テモ常ニ言語ノ練習及文字ノ書キ方ニ注意セシメンコトヲ要ス

第四條　算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ小ナル整數ノ範圍内ニテ其ノ唱ヘ方、書キ方及簡易ナル計算ヲ授ケ次第ニ其ノ範圍ヲ擴メテ小數、分數ニ及ホシ更ニ其ノ程度ヲ進メ且簡易ナル比例、步合算ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ尋常小學校ニ於テ授クタル事項ノ程度ヲ進メ且數ノ代數的計算及幾何圖形ニ關スル知識ノ初步ヲ授ケ又土地ノ情況ニ依リテハ日用簿記ノ大要ヲ課スヘシ

算術ハ筆算ヲ用フヘシ尋常小學校ニ在リテハ土地ノ情況ニ依リ珠算ヲ併セ用フルコトヲ得高等小學校ニ在リテハ珠算ヲ併セ課スヘシ

算術ヲ授クルニハ實驗實測ヲ用ヒ運算ノ方法及理由ヲ正確ニ說明セシ

メテ理會ヲ精確ニシ運算ニ習熟シテ應用自在ナラシメムコトヲ務メ又圖表復利表等ノ取扱ニ慣レシメ且暗算ニ熟達セシメムコトヲ要ス

算術ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項及土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切ナルモノヲ選フヘシ

第五條　國史ハ國體ノ大要ヲ知ラシメ兼テ國民タルノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ建國ノ體制、皇統ノ無窮、歷代天皇ノ盛業、忠良賢哲ノ事蹟、國民ノ武勇、文化ノ由來、外國トノ關係等ノ大要ヲ授ケ以テ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ事歷ヲ知ラシムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メ特ニ近世史ニ重キヲ置キテ之ヲ授ケ我國發達ノ蹟ヲ知ラシムヘシ

國史ヲ授クルニハ成ルヘク圖畫、地圖、標本等ヲ示シ兒童ヲシテ當時ノ實狀ヲ想像シ易カラシメ特ニ修身ノ教授事項ト聯絡セシメンコトヲ要ス

第六條　地理ハ地球ノ表面及人類生活ノ狀態ニ關スル智識ノ一斑ヲ得シメ又本邦國勢ノ大要ヲ理會セシメ兼テ愛國心ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ本邦ノ地勢、氣候、區劃、都會、產物、交通等竝ニ地球ノ形狀、運動等ノ大要ヲ理會セシメ且滿洲地理ノ大要ヲ授ケ兼テ本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ニ關スル簡單ナル知識ヲ得シムヘシ

高等小學校ニ於テハ各大洲ノ地勢、氣候、區劃、交通等ノ概略ヨリ進ミテ本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ノ大要及本邦ノ政治經濟上ノ狀態竝ニ外國ニ對スル地位等ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一斑ヲ授クヘシ

地理ヲ授クルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ又地球儀、地圖、標本、寫眞等ヲ示シテ確實ナル知識ヲ得シメ特ニ歷史及理科ノ教授事項ト聯絡セシメンコトヲ要ス

第七條　理科ハ通常ノ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ其ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テ觀察ヲ精密ニシ自然ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ植物、動物、鑛物及自然ノ現象ニ就キ主トシテ兒童ノ目擊シ得ル事項ヲ授ケ特ニ重要ナル植物、動物、鑛物ノ名稱、形狀、效用及發育ノ大要ヲ知ラシメ又通常ノ物理化學上ノ現象及人身生理ノ初步ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ特ニ重要ナル元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身ノ生理衞生ノ大要ヲ授ケ兼テ植物、動物、鑛物ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシムヘシ

理科ニ於テハ務メテ農事、水產、工業、家事等ニ適切ナル事項ヲ授ケ特ニ植物、動物等ニ就キ教授スル際ニハ之ヲ以テ製スル重要ナル加工品ノ製法、效用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ

理科ヲ授クルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ若ハ標本、模型、圖畫等ヲ示シ又簡單ナル實驗ヲ施シ明瞭ニ理會セシメンコトヲ要ス

第八條　圖畫ハ通常ノ形體ヲ看取シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ得シメ兼テ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ單形ヨリ始メ漸ク簡單ナル形體ニ及ホシ實物若ハ手本ニ就キ又時時自己ノ工夫ヲ以テ畫カシムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メテ諸般ノ形體ヲ畫カシムヘシ土地ノ情況ニ依リテハ簡易ナル幾何畫ヲ授クルコトヲ得

圖畫ヲ授クルニハ成ルヘク他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目擊セル物體中ニ就キテ之ヲ畫カシメ兼テ清潔ヲ好ミ總密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハンコトニ注意スヘシ

第九條　唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テ美感ヲ養ヒ德性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ平易ナル單音唱歌ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メテ授クヘシ又便宜簡易ナル複音唱歌ヲ授クルコトヲ得

歌詞及樂譜ハ平易雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノタルヘシ

第十條　體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ以テ全身ノ健康ヲ保護增進シ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ體操、教練、遊戲及競技ニ就キ簡易ナル動作ヨリ始メ漸ク其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ又男兒及女兒ノ別ニ依リ其ノ授クヘキ事項ヲ斟酌スヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ一層其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ土地ノ情況ニ依リ體操ノ教授時間ノ一部若ハ教授時間ノ外ニ於テ適宜ノ戶外運動ヲ爲サシメ又水泳、スキー、スケートヲ授クルコトアルベシ

體操ノ教授ニ依リテ習成シタル姿勢ハ常ニ之ヲ保タシメンコトヲ務ムヘシ

第十一條　裁縫ハ通常ノ衣類ノ縫ヒ方及裁ヲ方等ニ習熟セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ運針法ヨリ始メ漸ク通常ノ衣類ノ縫ヒ方ヲ授ケ又便宜裁ヲ方、繕ヒ方等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁ヲ方、繕ヒ方ヲ授クヘシ

裁縫ハ其ノ材料ヲ日常所用ノモノニ取リ之ヲ授クル際用具ノ使用方、材料ノ品類、性質及衣類ノ保存方、洗濯方等ヲ教示スヘシ

第十二條　手工ハ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ工業ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

手工ハ紙、絲、粘土、麥稈、木、竹、金屬等其ノ土地ニ適切ナル材料ヲ用ヒテ簡易ナル製作ヲ爲サシメ高等小學校ニ於テハ製圖及女兒ニ在リテハ手藝ヲ簡易ナル程度ニ於テ併セ授クヘシ

手工ヲ授クル際ニハ用具ノ使用方、材料ノ品類性質等ヲ教示スヘシ

第十三條　農業ハ農業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ農業ノ趣味ヲ長シ勤勉利用ノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

農業ハ土地ノ狀況ニ依リ農事若ハ水產ヲ授ケ又ハ農事、水產ヲ併セ授クヘシ

農事ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、養蠶、養畜等ニ就キ土地ノ情況ニ適切ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ授クヘシ

水産ハ漁撈、養殖、製造等ニ就キ其ノ土地ノ業務ニ適切ナルモノヲ授クヘシ

農業ヲ授クルニハ特ニ地理、理科等ノ教授事項ト關聯シ時々其ノ土地實際ノ業務ニ就キテ示教シ其ノ知識ヲ確實ナラシメンコトヲ務ムヘシ

第十三條ノ二　工業ハ工業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ勤勉縝密ニシテ且創作工夫ヲ重スルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

工業ハ木工、竹木、金工、塗工、染織等ニ就キ土地ノ情況ニ適切ニシテ兒童ニ趣味アル事項ヲ授ケ且材料ノ性質及用法竝工具ノ使用法及保存法ヲ知ラシムヘシ

工業ヲ授クルニハ地理、理科、圖畫、手工等ノ教授事項ト關聯シ又時々其ノ土地ニ於ケル工場等ヲ見學セシメ實際ノ業務ト密接ナル關係アラシメムコトヲ務ムヘシ

第十四條　商業ハ商業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ勤勉敏捷ニシテ且信用ヲ重スルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

商業ハ學校所在ノ地方ニ於ケル賣買、金融、運輸、保險其ノ他商業ニ關スル重要ナル事項ニシテ兒童ノ理會シ易キモノヲ選ヒ國語、算術、地理、理科等ノ教授事項ト關聯シテ之ヲ授ケ且簡易ナル商用簿記ヲ授クヘシ

第十五條　家事ハ家事ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ家事ノ趣味ヲ長シ兼テ節約、利用、秩序、清潔ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、看病、育兒其ノ他一家ノ經濟等ニ關スル事項ノ大要ヲ授クヘシ家事ヲ授クルニハ特ニ理科トノ聯絡ニ注意シ又實習ニ重キヲ置キ土地ノ情況ニ適切ナラシメンコトヲ務ムヘシ

第十六條　外國語ハ日常簡易ノ英語ヲ習得セシムルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀ミ方、話シ方、綴リ方、書キ方ヲ授クヘシ

外國語ヲ授クルニハ成ルヘク日常ノ生活ニ關聯セシメテ其ノ理會ヲ容易ニシ練習ニ重キヲ置クヘシ

第十七條　尋常小學校各學年ノ教授ノ程度及毎週教授時數ハ第四號表ニ依ルヘシ

手工ヲ加フルトキ又ハ第一學年、第二學年ニ於テ圖畫ヲ課スルトキハ其ノ毎週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ノ毎週教授時數ヲ減シ之ニ充ツヘシ

第十七條ノ二　第三十四條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ教科目ノ毎週教授時數ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條　高等小學校各學年ノ教授ノ程度及毎週教授時數ハ第五號表又ハ第六號表ニ依ルヘシ

第十八條ノ二ノ規定ニ依リ實業ヲ隨意科目ト爲シタル場合ニ於テ之ヲ學習セサル兒童ニ對シテハ其ノ毎週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スヘシ

實業ニ於テ工業ヲ學習スル爲手工ヲ課セサル兒童ニ對シテハ其ノ毎週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スルコトヲ得

第三學年ニ於ケル圖畫、唱歌ヲ隨意科目ト爲シタル場合ニ於テ之ヲ學習セサル兒童ニ對シテハ其ノ毎週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スルコトヲ得

第十八條ノ二　實業ハ特別ノ事情アル場合ニ限リ管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第十九條　土地ノ情況ニ依リ管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ左ノ制限内ニ於テ第十七條及第十八條ノ規定ニ依ル時數ヲ增減スルコトヲ得

一　尋常小學校ノ毎週教授時數ハ三十時ヲ超エ又十八時ヲ下ルコトヲ得ス

二　高等小學校ノ毎週教授時數ハ三十二時ヲ超エ又二十七時ヲ下ルコトヲ得ス

第三十四條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ毎週教授時數ハ各部十八時以上トス但シ年少ノ部ニ在リテハ之ヲ十二時マテニ減スルコトヲ得

第二十條　學校長ハ夏季冬季休業日ノ前後各〻二十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各教科目ノ毎週教授時數ヲ斟酌スヘシ

第二十一條　尋常小學校若ハ高等小學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得

第二十二條　學校長ハ其ノ小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十三條　小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ試驗ヲ用フルコトナク兒童平素ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

第二十四條　學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ尋常小學校若ハ高等小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書、第二十一條ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニハ學習證書ヲ與フルコトヲ得

第二節　學年、休業日及式日

第二十五條　小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

前項ニ依ル學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ得

小學校ノ學期ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十六條　毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第二十七條　小學校ノ休業日ハ左ノ如シ但シ第三號乃至第六號ノ休業日ハ學年ニ依リ之ヲ異ニスルコトヲ得

一　一月一日及昭和二年勅令第二十五號ニ依リ休日タル祭日祝日

二　日曜日

三　夏季休業日

四　冬季休業日

五　學年末休業日

六　其ノ他府縣知事ノ定ムル休業日

前項第三號乃至第五號ノ休業日數ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十八條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニ於テハ職員及兒童、

學校ニ參集シテ左ノ式ヲ行フヘシ

一　職員及兒童「君カ代」ヲ合唱ス

二　職員及兒童ハ

天皇陛下

皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

三　學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス

四　學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス

五　職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス

御影ヲ拜戴セサル學校及特ニ府縣知事ノ許可ヲ受ケ複寫シタル御影若ハ府縣知事ニ於テ適當ト認メタル御影ヲ奉藏セサル學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク

第三節　編制

第二十九條　小學校ノ學級數ハ二十四學級以下トス

特別ノ事情アルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

特別ノ事情ニ依リ小學校ニ於テ分教場ヲ設クルトキハ一分教場ノ學級數ハ六學級以下トシ第一項ノ制限外ト爲スコトヲ得

第三十條　一學級ノ兒童數ハ尋常小學校ニ在リテハ七十人以下、高等小學校ニ在リテハ六十人以下トス

特別ノ事情アルトキハ前項ノ制限ヲ超過シテ各〻十人マテヲ增スコトヲ得

第三十一條　尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ同一學年ノ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ該學年ノ學級ヲ別ツヘシ

第一學年及第二學年ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

高等小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全校女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ學級ヲ別ツヘシ

特別ノ事情アルトキハ第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十二條　（削除）

第三十三條　修身、體操、唱歌、裁縫、手工、實業及小學校令第二十條第二項ニ依リ加ヘタル教科目ハ數學級ノ全部又ハ一部ノ兒童ヲ合セテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得但シ裁縫、手工、實業ニ就キテハ兒童ノ數七十人ヲ超エサル場合ニ限ル

第三十四條　土地ノ情況ニ依リ尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全部若ハ一部ノ兒童ヲ前後二部ニ分チテ教授スルコトヲ得

第三十五條　尋常小學校ニ於テハ各學級ニ本科正教員一人ヲ置クヘシ

高等小學校ニ於テハ其ノ學級數ニ等シキ員數ノ本科正教員ヲ置クノ外教科目、教授時數、兒童數等ニ應シ必要ナル員數ノ本科正教員又ハ專科正教員ヲ置クヘシ

土地ノ情況ニ依リ尋常小學校ニ在リテハ二學級毎ニ本科正教員一人及准教員一人又ハ三學級毎ニ本科正教員二人ヲ置クコトヲ得

必要アル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ルノ外尙准教員ヲ置キ兒童ノ教授ヲ補助セシムルコトヲ得

前條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ前後二學級毎ニ本科正教員一人ヲ置クヲ常例トス

第三十六條　六學級以上ノ小學校ニ於テハ學校長ノ擔任スル教授ヲ補助スル爲正教員一人若ハ准教員一人ヲ置クコトヲ得

第三十七條　尋常小學校ニ於テハ適宜專科正教員ヲ置クコトヲ得

第三十七條ノ二　第三十五條第二項後段及前條ノ規定ニ依リテ置キタル教員ハ一校ヲ限リ他ノ小學校ノ教員ヲ兼ヌルコトヲ得

第三十八條　補習科ノ學級數ハ第二十九條ニ規定シタル學級數ノ制限外トス但シ其ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間內ニ定メタルトキハ此ノ限ニアラス

第三十九條　全校兒童ヲ一學級ニ編制スル學校ヲ單級小學校トシ二學級以上ニ編制スル學校ヲ多級小學校トス

第四十條　（削除）

第四十一條　小學校ノ學級ヲ編制シ又ハ變更シタルトキハ遲滯ナク管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ニ屆出ツヘシ

第四節　補習科

第四十二條　補習科ハ分テ尋常小學校補習科及高等小學校補習科トス

尋常小學校補習科ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ尋常小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

高等小學校補習科ハ高等小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ高等小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

第四十三條　補習科ノ教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ニ依リ定メタル教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第四十四條　補習科ノ教科用圖書ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十五條　補習科ノ教科ヲ授クルニハ其ノ土地ノ業務ニ適切ナル事項ヲ交フヘシ

第四十六條　補習科ノ修業年限ハ二箇年以下トシ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十七條　補習科ノ教授ハ一定ノ季節ヲ選ヒテ之ヲ爲スコトヲ得

第四十八條　補習科ノ教授日教授時間及每週教授時數ハ兒童ノ便宜ヲ顧リ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十九條　高等小學校補習科ノ學級ハ男女ヲ合シテ之ヲ編制スルコトヲ得ス但シ其ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間內ニ定メタルトキハ此ノ限ニアラス

第五十條　補習科ノ教場ハ正教科ヲ授クル校舍外ニ之ヲ設クルコトヲ得

第五十一條　補習科ノ教授ハ正教科ヲ教授スル教員又ハ代用教員ニ於テ之ヲ擔任スヘシ

補習科ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間內ニ定メタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス

特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條　第四十三條第一項、第四十四條第四十六條及第四十八條ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五節　教科用圖書

第五十三條　小學校教科用圖書中修身、國語、算術、國史、地理、理科、家事、圖畫ヲ除キ其ノ他ノ圖書ニ限リ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ府縣知事之ヲ採定ス但シ體操、裁縫、手工及尋常小學校第四學校以下ノ唱歌ニ關シテハ兒童ニ

使用セシムヘキ圖書ヲ採定スルコトヲ得ス又國語書キ方、算術、理科、家事、圖畫ノ教科用圖書及小學地理附圖ハ學校長ニ於テ之ヲ兒童ニ使用セシメサルコトヲ得

第五十三條ノ二　唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ文部省ノ撰定ニ係ルモノ、前條ニ依リ府縣知事ノ採定シタル小學校教科用圖書中ニ在ルモノ及其ノ採用小學校ニ特ニ關係アルモノニシテ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受クタルモノノ外採用スルコトヲ得ス

第五十四條　小學校令第二十四條第二項又ハ本令第五十三條ニ依リ教科用圖書ヲ採定シタルトキハ之ヲ使用セントスル學年ノ開始ヨリ九十日前ニ其ノ旨ヲ公布スヘシ

特別ノ事情アルトキハ前項ノ公布期限ニ依ラサルコトヲ得

第五十五條　文部大臣ノ檢定ヲ經タル小學校教科用圖書ノ定價ヲ增加シタルトキハ其ノ採定ハ效力ヲ失フ

第五十六條　小學校教科用圖書ヲ變更シタル場合ニ於テハ其ノ圖書ハ最下學年ノ兒童ヨリ用ヒシメ其ノ他ノ兒童ニハ從來ノ圖書ヲ襲用セシムヽシ

第五十七條　小學校教科用圖書ノ採定ニ關シ其ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ノ一ニ該當スル所爲アル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以內ノ罰金ニ處ス

一　直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ官吏、學校職員若ハ運動者ニ供與シ又ハ供與セントスルコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾シタル者

二　直接又ハ間接ニ酒食遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ休泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者竝此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

三　官吏、學校職員又ハ其ノ關係アル學校法人等ニ對スル利害ノ關係ヲ利用シ直接若ハ間接ニ官吏、學校職員ヲ誘導シ又ハ威逼シタル者及其ノ誘導威逼ニ應シタル者

四　官吏又ハ學校職員ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者

五　採定ヲ妨クル目的ヲ以テ新聞紙雜誌張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス官吏又ハ學校職員ニ對シ虛僞ノ事項ヲ流布シタル者

第五十八條乃至第六十三條　（削除）

第二章　設備準則

第六十四條　校地、校舍、體操場及校具ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス

校地ハ道德上竝ニ衞生上害ナク且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ

校舍ハ教授上、管理上竝ニ衞生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

第六十五條乃至第七十四條　（削除）

第七十五條　土地ノ情況ニ依リ成ルヘク教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第七十六條　校舍ヲ新築、增築、改築シ若ハ市町村立高等小學校及私立小學校ノ校地ヲ選定シ又ハ變更セントスルトキハ市町村、市町村學校

組合、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七十七條乃至第七十九條　（削除）

第三章　就學

第八十條　市町村長ハ其ノ市町村內ニ居住シ翌年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ第九號表ノ樣式ニ依リ每年十二月末日マテニ其ノ學齡簿ヲ編製スヘシ但シ第二十五條第二項ニ依ル場合ニ於テハ其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ每年六月末日マテニ學齡簿ヲ編製スヘシ

第八十一條　市町村長ハ學齡簿編製後三月三十一日マテニ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滯ナク之ヲ學齡簿ニ記入スヘシ但シ第二十五條第二項ニ依ル場合ニ於テハ市町村長ハ學齡簿編製後八月三十一日マテニ其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者ヲ遲滯ナク學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ就學期間中ニ在ル兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滯ナク其ノ兒童ノ就學ノ始期ニ達シタル年ノ學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ學齡簿ニ登載ノ兒童ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ遲滯ナク之ヲ抹消スヘシ但シ第二號ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ抹消スルト同時ニ學齡簿ノ謄本ヲ兒童ノ轉住地ノ市町村長ニ送附スヘシ

一　兒童死亡シタルトキ

二　兒童市町村外ニ轉住シタルトキ

三　兒童ノ居所一箇年以上分明ナラサルトキ

前項但書ニ依リ學齡簿ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル市町村長ハ送付シタル市町村長ニ對シ遲滯ナク學齡簿ニ記入ノ手續ヲ完了シタル旨又ハ兒童ノ來住セサル旨ヲ通知スヘシ

第二項及第三項ノ外學齡簿ニ記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第八十二條　市町村長ハ兒童ヲシテ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘキ期日ヲ豫メ其ノ保護者ニ通知スヘシ

市町村、町村學校組合又ハ學區ノ使用ニ係ル尋常小學校二校以上アル場合ニ於テハ市町村長ハ前項ノ通知ヲ爲スニ當リ兒童ノ入學スヘキ尋常小學校ヲ指定スルコトヲ得但シ兒童ノ保護者ハ其ノ兒童ヲ入學セシメントスル尋常小學校ヲ選定シテ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

第八十三條　市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル兒童ノ氏名及入學期日ヲ關係學校長ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲シタル後兒童ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第八十四條　就學スヘキ兒童又ハ其ノ保護者ニシテ小學校令第三十三條ニ揭クル事由アルトキハ其ノ保護者ハ就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ヲ市町村長ニ申立ツヘシ但シ貧窮ニ因ル場合ヲ除ク外醫師ノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

第八十五條　就學猶豫ノ期間ハ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ一箇年トシ既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ一箇年以下トス

第二十五條第二項ノ學年ヲ置キタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ其ノ年

四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ五箇月其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ七箇月トシ既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ各五箇月以下又ハ七箇月以下トス

第八十六條　市町村長ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ノ教育ヲ監督スヘシ必要ト認メタルトキハ其ノ兒童ニ就キ試驗ヲ行フコトヲ得

第八十七條　市町村長ハ前條ノ兒童ノ教育ヲ不適當ナリト認メタルトキハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ與ヘタル認可ヲ取消スヘシ

第八十八條　兒童ノ保護者ニ於テ其ノ兒童ヲ當然入學セシムヘキ學校以外ノ市町村立尋常小學校ニ入學セシメ又ハ官立、府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキ若ハ高等學校及中學校ノ豫科又ハ盲學校及聾唖學校ノ初等部ニ入學セシメントスルトキハ其ノ學校ノ管理者又ハ學校長ノ承認書ヲ添ヘ關係市町村長ニ屆出ツヘシ

第八十九條　市町村立尋常小學校長ハ第十號表ノ樣式ニ依リ學年ノ始ニ於テ入學シタル兒童ノ學籍簿ヲ編製スヘシ

學籍簿ハ入學ノ兒童ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第九十條　市町村立尋常小學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作リ其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ

第九十一條　市町村立尋常小學校長ハ第八十三條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル兒童中入學期日後七日以内ニ其ノ小學校ニ入學セサル者アルトキハ其ノ氏名ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十二條　在學兒童ニシテ正當ノ事由ナク引續キ七日間缺席シタルトキハ關係學校長ハ遲滯ナク其ノ保護者ニ對シ兒童ヲシテ出席セシムヘキ旨ヲ通知シ仍引續キ七日以上出席セシメサルトキハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十三條　市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲ爲スモ仍就學又ハ出席セシメサルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第九十四條　府縣知事ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

第九十五條　市町村立尋常小學校長ハ毎學年ノ終ニ卒業シタル兒童ノ氏名ヲ遲滯ナク關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十六條　第八十八條ノ規定又ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ當然入學スヘキ學校以外ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ニシテ其ノ教科ヲ卒リタルトキ又ハ其ノ教科ヲ卒ラスシテ退學シ若ハ廢學シタルトキハ關係學校長又ハ兒童ノ保護者ハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ屆出ツヘシ

第九十七條　（削除）

第四章　教員檢定及免許狀

第一節　教員ノ檢定

第九十八條　小學校教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　會長

一　常任委員

一　臨時委員

第九十九條　會長ハ府縣學務部長タル書記官ヲ以テ之ニ充ツ

常任委員及臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス

臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス

第百條　會長ハ會務ヲ整理シ檢定ノ成績ヲ府縣知事ニ報告ス

會長事故アルトキハ府縣知事ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第百一條　常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事ヲ掌ル

臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ニ關スル事ヲ掌ル

第百二條　小學校教員檢定委員會ニ書記ヲ置キ府縣判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百三條　會長、常任委員、臨時委員及書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第百四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　（削除）

三　破産者

四　免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ三箇年ヲ經過セサル者

第百五條　教員ノ檢定ハ分テ無試驗檢定及試驗檢定トシ學力、性行及身體ニ就キ之ヲ行フ

第百六條　試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

第百七條　無試驗檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第百八條乃至第百十二條ノ規定ニ對照シテ之ヲ行フ

一　師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀若ハ高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者

二　高等學校高等科又ハ大學豫科ヲ卒ヘタル者

三　文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

四　中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

五　公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ノ卒業者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者及一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

六　其ノ他府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

前項第四號及第五號ニ該當スル者ニ對シ小學校本科正教員ノ檢定ヲ行フ場合ハ卒業後二箇年以上小學校教育ニ從事シタル者又ハ高等女學校ノ高等科、專攻科若ハ修業年限一年以上ノ補習科ニ於テ小學校教員ニ適スル教育ヲ受ケ卒業シタル者ニ限ル

第百八條　小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師範學校男生徒、女子ニ在リテハ師範學校女生徒ニ課スル學科程度ニ準ス但シ手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ闕クコトヲ得

本條ニ小學校本科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ本科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第百九條　小學校准教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ女子ニ在リテハ體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

修身　道德ノ要旨
教育　教授法ノ大要
國語　普通文及小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字
算術　整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例、求積、代數及幾何ノ初歩
歴史　國史ノ大要
地理　日本地理及外國地理ノ大要
理科　博物、物理、化學ノ大要
圖畫　自在畫及簡易ナル幾何畫
音樂　唱歌、樂器使用法
體操　體操、教練、遊戯及競技
裁縫　通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方
手工　手工ノ大要
農業　農業ノ大要
商業　商業ノ大要
前項ノ科目中裁縫ハ女子ニ限ル
圖畫、音樂、手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ闕クコトヲ得
本條ニ小學校准教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ准教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第百十條　小學校專科正教員ノ試驗科目ハ音樂、體操、裁縫、手工、農業、工業、商業、家事、圖畫、外國語ノ一科目若ハ數科目トス府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項試驗科目ノ外必要ナル科目ニ付試驗ヲ行フコトヲ得

試驗科目ノ程度ハ師範學校生徒ニ課スル各科目ノ程度（工業ニ在リテハ師範學校專攻科生徒ニ課スル手工ノ程度）ニ準ス但シ前項ノ試驗科目ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル各科目ノ試驗ハ教育ノ大要及受驗科目ノ教授法ヲ附帶セシメ之ヲ行フ

小學校專科正教員ノ試驗ハ小學校教員檢定委員會ニ於テ修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト認メタル者ニアラサレハ之ヲ行ハス

本條ニ小學校專科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ專科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第百十一條　尋常小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ女子ニ在リテハ體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

修身　道德ノ要旨
教育　教授法及學校管理法ノ大要
國語　普通文及小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字
算術　整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例、求積
歴史　國史ノ大要
地理　日本地理及外國地理ノ大要
理科　博物、物理、化學ノ大要
圖畫　自在畫
音樂　唱歌、樂器使用法
體操　體操、教練、遊戯及競技

裁縫　通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方
前項ノ科目中裁縫ハ女子ニ限ル

第百十二條　尋常小學校准教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ女子ニ在リテハ體操ハ第百十一條第一項但書ニ準シ其程度ヲ斟酌スヘシ

修身　道德ノ要旨
教育　教授法ノ大要
國語　小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字
算術　整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例
歴史　國史ノ大要
地理　日本地理及外國地理ノ大要
理科　博物、物理、化學ノ初歩
圖畫　簡易ナル自在畫
唱歌　單音唱歌
體操　體操、教練、遊戯及競技
圖畫　唱歌ノ一科目若ハ二科目ハ之ヲ闕クコトヲ得

第百十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ試驗檢定ヲ行フトキハ小學校教員檢定委員會ニ於テ第百八條乃至第百十二條ノ規定ニ對照シテ某科目ニ關シ同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對シテハ其ノ科目ノ試驗ヲ闕クコトヲ得

一　師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀若ハ高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者
二　小學校教員免許狀ヲ有スル者
三　文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者
四　小學校教員免許狀又ハ小學師範學科卒業證書ヲ有シ其ノ有效期間滿チタル者
五　小學校教員講習科ヲ卒リタル者
六　中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者
七　公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ヲ卒業シタル者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者及一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

第百十四條　試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試驗ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績佳良ナルトキハ府縣知事ハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルコトヲ得

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試驗檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試驗ヲ闕ク

第百十五條　府縣知事ハ檢定手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第二節　教員ノ免許狀

第百十六條　（削除）

第百十七條　師範學校長ハ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シ小學校教員免許狀ノ授與ヲ府縣知事ニ申請スヘシ

第百十八條　（削除）

第百十九條　府縣知事ハ小學校教員免許狀登錄簿ヲ作リ免許狀ヲ授與シタル者ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記入スヘシ

第百二十條　免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ書換若ハ再渡ヲ府縣知事ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手數料トシテ府縣知事ノ定メタル金額ヲ納ムヘシ

第百二十一條　免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ種類ハ府縣知事之ヲ公告ス

第五章　職員

第一節　學校長及教員ノ進退

第百二十二條　市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得

一　傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルニ因リ職務ヲ行フニ妨アルトキ

二　學校編制ノ變更又ハ訴願ノ裁決ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

三　教員養成ヲ目的トスル官立、府縣立學校ニ入學スルトキ

四　名譽職タル町村長及助役ニ當選シタルトキ

五　私立小學校ノ教員又ハ外國ニ於テ本邦人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員トナルトキ

六　刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

第百二十三條　市町村立小學校正教員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ當然休職者トス但シ兵役法第十條ノ規定ニ依リ短期現役兵トシテ服役スル者ハ此ノ限ニアラス

第百二十四條　休職ノ期間ハ第百二十二條第一號第二號第四號及第五號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第六號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ同條第三號及第百二十三條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尚三箇月、（第百二十二條第七號ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尚一箇月）トス但シ第百二十二條第五號後段ノ場合ニ在リテハ府縣知事ハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第百二十五條　休職者ハ職務ニ從事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第百二十六條　市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

一　不具、癈疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ退職ヲ出願シタルトキ

三　休職滿復職シタル爲其ノ代員ヲ要セサルトキ

第百二十七條　第百二十二條又ハ第百二十六條ノ事由ニ因フシテ休職又ハ退職ヲ命スル必要アリト認メタルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ休職ノ場合ニ於テハ豫メ期間ヲ定メテ具申スルコトヲ要ス

第百二十八條　市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一　當該學校ノ廢セラレタルトキ

二　休職期間滿チタルトキ

第百二十九條　市町村立小學校教員ニシテ免許狀被奪ノ處分ヲ受ケ又ハ其ノ免許狀ニシテ效力ヲ失ヒタルトキハ當然其ノ職ヲ失フ

第百三十條　市町村立小學校雇教員ノ進退ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ

定ム

第百三十一條　（削除）

第百三十二條　私立小學校長及教員ノ採用解職ハ設立者ニ於テ選擇ナク府縣知事ニ屆出ツヘシ

第二節　學校長及教員ノ職務及服務

第百三十三條　學校長及教員ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉體シ法律命令ニ從ヒ誠實ニ其ノ職務ニ服スヘシ

第百三十四條　學校長ハ校務ヲ整理シ所屬職員ヲ統督ス

第百三十五條　正教員ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ掌ル

第百三十六條　准教員ハ本科正教員ノ職務ヲ助ク

第百三十七條　市町村立小學校長及教員ハ當該學校所在ノ市町村、市町村學校組合、町村學校組合ノ地域內ニ居住スヘシ但シ學校長ニ在リテハ府縣知事、其ノ他ノ者ニ在リテハ學校長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ擅ニ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上居住スヘキ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第百三十八條　學校長及教員ハ營利ヲ目的トスル會社ノ業務執行社員、取締役、監査役ト爲リ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス但シ府縣知事ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニアラサレハ營利ヲ目的トスル業務ヲ爲スコトヲ得ス

第三節　懲戒處分、業務停止及免許狀被奪

第百三十九條　市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハントスルトキハ府縣知事ハ期間ヲ定メテ本人ヨリ手續書ヲ徵スルコトヲ要ス但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限ニアラス

第百四十條　懲戒處分ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第百四十一條　市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ府縣知事ハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ

第百四十二條　市町村立小學校長及教員ノ減俸ハ一箇月以上一箇年以下減俸ノ處分ヲ受ケタル當時ノ俸給月額ノ三分ノ一以下ヲ減給ス

第百四十三條　市町村立小學校教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ二箇年ヲ經ルニアラサレハ教員ノ職ニ就クコトヲ得ス

第百四十四條　第百三十九條乃至第百四十一條ノ規定ハ業務停止及免許狀被奪ノ處分ニ關シ之ヲ準用ス

第百四十五條　私立小學校長及教員ノ業務停止ハ一箇月以上二箇年以下トス

第百四十六條　府縣知事ニ於テ學校長又ハ教員ニ對シ免職、業務停止又ハ免許狀被奪ノ處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

第百四十七條　府縣知事ハ免職又ハ業務停止ノ處分ヲ受ケタル學校長及教員ニシテ改悛ノ實顯著ナリト認メタル者ニハ第百四十三條ノ期間內又ハ業務停止ノ期間內ト雖モ文部大臣ノ認可ヲ受ケ教員ノ職ニ就クコトヲ得シメ又ハ業務停止ヲ解クコトヲ得

第四節　俸給、旅費及諸給與準則

第百四十八條　教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
本科正教員	一六五圓	一四五圓	一三五圓	一二五圓	一一五圓	一〇五圓	九五圓	八五圓	七五圓	六五圓	五五圓	五〇圓	四五圓	四〇圓
專科正教員	一一五	一〇五	九五	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇	三五			
准教員	六五	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇							

第百四十九條　一級俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ本科正教員ニ在リテハ二百十五圓マテ專科正教員ニ在リテハ百四十五圓マテ漸次增給スルコトヲ得

第百五十條　教員ノ俸給ハ當分ノ內等級相當ノ額ヲ減シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第百五十一條　第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ他ノ小學校ノ教員ヲ兼ヌル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトヲ得

第百五十二條　教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス

第百五十三條　休職者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス但シ市町村、市町村學校組合町村學校組合又ハ其ノ學區ニ於テ特別ノ事情アル場合若ハ第百二十二條第三號乃至第五號ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ給セサルコトヲ得

第百五十三條ノ二　市町村立小學校正教員ニシテ兵役法第十條ノ規定ニ依ル短期現役ニ服スル者ハ其ノ服役中俸給ノ三分ノ二ヲ減ス

第百五十四條　教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ俸給ノ一部若ハ全部ヲ給ス但シ其ノ額ハ府縣知事ニ於テ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ學區ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

第百五十五條　教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第百五十六條　教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給スヘシ

一　懲戒ニ因リ免職ニ處セラレタルトキ

二　免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失效ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第百五十七條　教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額四箇月分ヲ其ノ遺族ニ給スヘシ

前項ノ遺族及其ノ順位ニ關シテハ判任官俸給令第十三條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第百五十八條　正教員ノ旅費額ハ判任文官ノ例ニ準シ之ヲ定メ准教員ノ旅費額ハ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ但シ正教員ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校長ヲ兼務スル者ノ旅費額ハ奏任文官ノ例ニ準シ之ヲ定ムヘシ

第百五十九條　教員ニシテ一週三十二時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給スヘシ

第百六十條　學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルコトヲ得

第百六十一條　教員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ給スヘシ

第百六十二條　學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ

第百六十三條　教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ

第百六十四條　第百五十九條及第百六十條ニ依リ給スル金額ハ府縣知事ニ於テ管理者ノ意見ヲ聞キテ之ヲ決定シ第百六十一條乃至第百六十三條ニ依リ給スル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ決定スヘシ

第百六十五條　本節ニ規定アルモノヲ除ク外俸給及旅費ノ支給方法ハ判任文官ノ例ニ準シ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第百六十六條　第百四十八條ニ揭クル表ニ依リ難キ事情アルトキハ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百六十七條　本節ニ學校長、教員トアルハ市町村立小學校ノ學校長、教員ヲ謂フ

第五節　代用教員

第百六十八條　市町村立小學校代用教員ノ採用、解職及懲戒處分ハ市町村立小學校准教員ノ例ニ依ル

第百六十九條　（削除）

第百七十條　私立小學校代用教員ノ採用解職ニ關シテハ第百三十二條ノ規定ヲ準用ス

第百七十一條　小學校令第四十七條ノ規定並ニ本令第五章第二節ノ規定中准教員ニ關スルモノハ代用教員ニ準用ス

第百七十二條　府縣知事ニ於テ私立小學校代用教員ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ解職セシムルコトヲ得

第百七十三條　市町村立小學校代用教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第六章　授業料

第百七十四條　尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收セントスルトキハ市ニ在リテハ一箇月二十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第百七十五條　高等小學校ニ於テ徵收スル授業料ハ市又ハ市町村學校組合ニ在リテハ一箇月六十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月三十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第百七十六條　特別ノ事情アルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ期間ヲ定メテ前二條ノ制限ヲ超エタル授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第百七十七條　小學校補習科ノ授業料額ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第百七十八條　小學校ニ於テハ學年ニ依リ授業料額ニ差等ヲ設クルコトヲ得ス

第百七十九條　他ノ小學校設置擔ノ區域ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ第百七十四條及第百七十五條ノ制限以內ニ於テ授業料額ヲ增スコトヲ得但シ兒童教育事務ヲ委託シタル市町村、町村學校組合又ハ學區ヨリ

入學スル兒童ニ就キテハ此ノ限ニアラス

第百八十條　貧窮ノ爲授業料ヲ納ムルコト能ハサル者ニ對シテハ管理者ハ授業料ノ全部又ハ一部ヲ免除スヘシ

一家ノ兒童二人以上同時ニ小學校ニ就學スルトキハ管理者ハ授業料額ヲ減スルコトヲ得

第百八十條ノ二　戰爭又ハ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ公務ニ依リ從軍シタル者ニシテ公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラサル者竝ニ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依ル恩給又ハ雇員扶助令、傭人扶助令ニ依ル扶助金(療治料ヲ除ク以下同シ)ヲ給セラレ又ハ給セラルヘキ者ノ同一戸籍內ニ在ル子及弟妹ニ就キテハ管理者ハ當該事實又ハ恩給若ハ扶助金ヲ給セラルヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ授業料ヲ免除スヘシ下士官以下ノ軍人ニシテ戰時、平時ニ拘ラス公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラサル者竝ニ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依ル恩給ヲ給セラレ又ハ給セラルヘキ者ノ同一戸籍內ニ在ル子及弟妹ニ就キ亦同シ

戰爭又ハ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同一戸籍內ニ在ル子及弟妹ニ就キテハ從軍中管理者ハ授業料ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第百八十一條　本章ノ規定ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用セス

第七章　學務委員

第百八十二條　市町村、市町村學校組合、町村學校組合竝學區ノ學務委員ハ十人以下トス但シ東京市ニ在リテハ二十五人、大阪市ニ在リテハ二十人マテニ增スコトヲ得

第百八十三條　學務委員ハ左ニ揭クル事項ニ就キ市町村長、市町村學校組合管理者、町村學校組合管理者、區長竝ニ其ノ代理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應シテ意見ヲ陳述ス

一　就學督促ニ關スルコト

二　家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ認可ニ關スルコト

三　就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ニ關スルコト

四　設備ニ關スルコト

五　經費豫算ノ調製ニ關スルコト

六　授業料ニ關スルコト

七　學校基本財產ニ關スルコト

八　教科目ノ加除選定ニ關スルコト

九　修業年限ニ關スルコト

十　補習科ノ設置廢止ニ關スルコト

第百八十四條　公民ヨリ出ツル學務委員ノ任期ハ四箇年トス

補闕ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第百八十五條　學務委員ニシテ資格ノ要件ヲ失ヒタル者ハ當然其ノ職ヲ失フ

第八章　(削除)

第百八十六條乃至第百九十四條　(削除)

第九章　小學校ニ類スル各種學校

第百九十五條乃至第二百八條　(削除)

第二百九條　小學校ニ類スル各種學校ニハ學校長ヲ置クコトヲ得

第二百十條　小學校ニ類スル各種學校教員ハ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ府縣知事ノ免許ヲ得タル者タルヘシ

第二百十一條　小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ採用、解職、懲戒處分、業務停止ハ小學校教員ノ例ニ依ル

市町村立ノ小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第十章　附　則

第二百十二條　本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス但シ第一章中第一節乃至第四節、第五章中第四節及第五節、第六章、(第八章)ノ規定ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第二百十三條　小學校ニ於テ第三十五條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十四年四月一日ヨリ五箇年間ハ三學級每ニ本科正教員一人及准教員二人ヲ置クコトヲ得

既設小學校ノ編制ニシテ第三十五條ヲ除ク外第一章第三節ノ規定ニ抵觸スル場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ期間ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受ケ同節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二百十四條　既設ノ補習科ニ於テ第一章第四節ノ規定施行ノ際現ニ其ノ教科ヲ學習スル兒童ニ就キテハ其ノ兒童ノ終了スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第二百十五條　本令施行前府縣知事ニ於テ採定シタル小學校教科用圖書ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス

第六十條ノ規定ニ依リ學年開始前公布ヲ爲スヘキ期間ハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテハ六十日トス

第二百十六條　本令施行前府縣知事ニ於テ定メタル規程ニ依リ編製シタル學齡簿及學籍簿ハ第三章ノ規程ニ依リ編製シタルモノト看做ス

第二百十七條　本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀及之ト同一ノ效力ヲ有スル小學師範學科卒業證書ハ本令ノ規定ニ依ル小學校教員免許狀中之ニ相當スルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第二百十八條　本令施行前從前ノ規程ニ依リ休職ヲ命セラレタル教員ノ休職期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

第二百十九條　市町村立小學校教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテハ府縣知事ニ於テ定メタル從前ノ規程ニ依ル

第二百二十條　本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ニシテ公民中ヨリ選擧セラレ任期アル者ハ任期ノ滿了マテ其ノ職ヲ失フコトナシ其ノ任期ナキ者ハ本令施行ノ日ヨリ第百八十四條第一項ノ任期ヲ起算ス

本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ノ數第百八十二條ニ規定シタル制限ニ超過スルトキハ抽籤ニ依リテ退職者ヲ定ムヘシ

第二百二十一條　(第八章)ノ規定施行ノ際現ニ代用中ノ私立小學校ノ代用ニ關シテハ協議ニ依リ定メタル期間ノ滿了マテ仍從前ノ例ニ依ル

第二百二十二條　(削除)

第二百二十三條　明治二十四年文部省令第九號、同第十四號、同第十六號、同第十八號乃至同第二十三號、明治二十六年文部省令第二號、同第三號、明治二十七年文部省令第一號、同第九號、明治二十九年文部省令第十號、同第十一號、明治三十二年文部省令第三十號、同第三十

二號、同第三十七號ハ之ヲ廢止ス
明治二十七年文部省令第二十六號中補習科ニ關スル規定、明治二十四年文部省令第一號、同第四號、同第八號、同第十號乃至同第十三號、明治二十五年文部省令第七號、明治二十六年文部省令第九號、明治三十年文部省令第二號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス

○明治四十年文部省令第六號附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス但シ第二十九條第二項、第三十一條、第四十條、第四十八條、第五十二條、第九十七條、第百十六條、第百七十六條、第百八十三條及第八章ノ改正ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年勅令第五十二號附則第四項ノ教科目ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得
地理ノ教授ノ程度ニ關シテハ從前ノ規定ニ依リ編纂シタル教科用圖書ヲ使用スル間ハ仍從前ノ例ニ依ル
本令施行ノ際存在スル補習科ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得
本令施行前第百十四條第一項ニ依リ授與シタル證明書ノ效力ハ仍從前ノ規定ニ依ル
市町村又ハ町村學校組合ハ當分ノ内府縣知事ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ於テ徵收スル授業料額ノ範圍内ニ於テ尋常小學校第五學年及第六學年ノ授業料額ヲ定メ之ヲ徵收スルコトヲ得
明治四十年勅令第五十二號附則第二項ニ依リ存續スル代用私立小學校ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

明治四十年勅令第五十二號附則第三項ニ依ル尋常小學校ノ兒童ノ學籍簿ハ仍從前ノ樣式ニ依ルコトヲ得

○明治四十年文部省令第二十號附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

○明治四十一年文部省令第二十六號附則

從前ノ規程ニ依リ編纂シタル教科用圖書ハ其ノ改正シタルモノヲ使用スルニ至ルマテ仍之ヲ使用セシム

○明治四十三年文部省令第二十一號附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○明治四十四年文部省令第十五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○明治四十四年文部省令第二十四號附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ在學スル兒童ニ對シテハ其ノ卒業ニ至ル迄教科目各學年ノ教授ノ程度及毎週教授時數ニ關シ仍從前ノ規程ニ依ルコトヲ得

○明治四十五年文部省令第三號附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大正二年文部省令第二十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正三年文部省令第一號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正三年文部省令第三十號附則

本令施行ノ際現ニ休職中ノ者ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

○大正七年文部省令第四號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正八年文部省令第六號附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ在學スル兒童ニ課スヘキ各學年ノ各教科目、毎週教授時數ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

○大正九年文部省令第十九號附則

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

○大正九年文部省令第二十三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十年文部省令第三十六號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第百五十三條ノ二ハ大正十年四月分ヨリ之ヲ施行ス

○大正十二年文部省令第三十五號附則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十三年文部省令第十六號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十四年文部省令第十三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第百五十三條ノ二ハ大正十四年四月分ヨリ之ヲ適用ス

○大正十五年文部省令第十八號附則

本令施行ノ際現ニ在學スル高等小學校ノ兒童ニ課スヘキ各學年ノ教科目、教授ノ程度及毎週教授時數ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得
第三十五條第二項ノ規定ハ大正十六年三月三十一日迄之ニ依ラサルコトヲ得

○大正十五年文部省令第二十七號附則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和二年文部省令第二十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和二年文部省令第三十二號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和三年文部省令第十號附則

本令ハ昭和三年四月分ヨリ之ヲ適用ス

○昭和六年文部省令第十七號附則

本令ハ昭和六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ニ付テハ左ノ各號ニ依リ月俸額ヲ定ムヘシ

一　從前ノ規定ニ依リ左表上欄ノ俸給ヲ受クル者ハ各其ノ相當下欄ノ俸給月額又ハ之ニ相當スル級俸ヲ受ク

從前ノ俸給（月額）	改正俸給（月額）
二百四十圓以下ニシテ百八十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百八十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百六十五圓ヲ加ヘタル額但シ二百十六圓ヲ超ユルコトヲ得ス

百八十圓	百六十五圓	
百八十圓未滿ニシテ百六十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百六十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百四十八圓ヲ加ヘタル額但シ百六十五圓ヲ超ユルコトヲ得ス	
百六十圓	百四十八圓	
百六十圓未滿ニシテ百四十五圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百四十五圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百三十六圓ヲ加ヘタル額但シ百四十八圓ヲ超ユルコトヲ得ス	
百四十五圓	百三十六圓	
百四十五圓未滿ニシテ百三十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百三十圓トノ差額ニ百二十二圓ヲ加ヘタル額但シ百三十六圓ヲ超ユルコトヲ得ス	
百三十圓	百二十二圓	
百三十圓未滿ニシテ百二十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百二十圓トノ差額ニ百十四圓ヲ加ヘタル額但シ百二十二圓ヲ超ユルコトヲ得ス	
百二十圓	百十四圓	
百二十圓未滿ニシテ百十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百十圓トノ差額ニ百五圓ヲ加ヘタル額但シ百十四圓ヲ超ユルコトヲ得ス	
百十圓	百五圓	
百十圓未滿ニシテ百圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百圓トノ差額ニ九十七圓ヲ加ヘタル額但シ百五圓ヲ超ユルコトヲ得ス	
百圓以下ニシテ九十七圓ヲ超ユルモノ	九十七圓	

二　前號ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

三　本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ月額九十圓ノ俸給ヲ受クル專科正教員ハ定額ノ改正ニ拘ラス從前ノ俸給ヲ受ク

○昭和七年文部省令第一號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和八年文部省令第四號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和八年文部省令第十二號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ授業料ヲ免除セラルヘキ當該事實又ハ事由ニシテ本令施行前ニ生シタルモノナルトキハ本令ノ適用ニ關シテハ其ノ事實又ハ事由ハ本令施行ノ月ヲ以テ生シタルモノト看做ス

○昭和八年文部省令第十七號附則

本令ハ昭和八年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ニ付テハ左ノ各號ニ依リ月俸額ヲ定ムヘシ

一　現ニ受クル俸給額カ本令ニ依ル級俸ニ相當スルトキハ其ノ級俸ヲ受ク

二　現ニ受クル俸給額カ本令ニ依ル級俸ニ相當スルモノナルトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受ク

○昭和十一年文部省令第五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表乃至第三號表（削除）

教科目＼學年	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年		第六學年	
修身	毎週教授時數	二	毎週教授時數	二	毎週教授時數	二	毎週教授時數	二	毎週教授時數	二	毎週教授時數	二
	道德ノ要旨		道德ノ要旨		道德ノ要旨		道德ノ要旨		道德ノ要旨		道德ノ要旨	
國語	一〇	發音、假名、日常須知ノ文字及近易ナル文ノ讀ミ方、書キ方、話シ方、綴リ方	一二	假名、日常須知ノ文字及近易ナル文ノ讀ミ方、書キ方、話シ方、綴リ方	一二	日常須知ノ文字及近易ナル文ノ讀ミ方、書キ方、話シ方、綴リ方	一二	日常須知ノ文字及近易ナル文ノ讀ミ方、書キ方、話シ方、綴リ方	九	日常須知ノ文字及近易ナル文ノ讀ミ方、書キ方、話シ方、綴リ方	九	日常須知ノ文字及近易ナル文ノ讀ミ方、書キ方、話シ方、綴リ方
算術	五	百以下ノ數ノ唱ヘ方、書キ方及簡易ナル計算	五	千以下ノ數ノ唱ヘ方、書キ方及簡易ナル計算	六	整數ノ計算	六	整數ノ計算、小數ノ唱ヘ方及簡易ナル計算	四	整數ノ計算、小數ノ計算、分數ノ計算（珠算）	四	比例、歩合算（珠算）
國史									二	國史ノ大要	二	前學年ノ續キ
地理									二	日本地理ノ大要	二	前學年ノ續キ滿洲其ノ他外國地理ノ大要
理科							二	植物、動物、鑛物及自然ノ現象、通常ノ物理化學上ノ現象	二	植物、動物、鑛物及自然ノ現象、通常ノ物理化學上ノ現象	二	植物、動物、鑛物及自然ノ現象、通常ノ物理化學上ノ現象、人身生理ノ初歩
圖畫	單形（簡單ナル形體）		單形（簡單ナル形體）		單形（簡單ナル形體）	一	簡單ナル形體	一	簡單ナル形體	男二 女一	簡單ナル形體	男二 女一

學年	第一學年		第二學年	
教科目	毎週教授時數		毎週教授時數	
修身	二	道德ノ要旨	二	道德ノ要旨
國語	六	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方	六	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方
算術	四	整數、小數、分數、數ノ代數的計算、幾何圖形、珠算	四	比例、歩合算、數ノ代數的計算、幾何圖形、珠算、（日用簿記）
唱歌	一	平易ナル單音唱歌	一	平易ナル單音唱歌
體操	四	體操、教練、遊戯及競技	四	體操、教練、遊戯及競技
裁縫			二	運針法、通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方
手工	簡易ナル細工		簡易ナル細工	
計	二一		男二七 女二九	

學年	第一學年		第二學年	
教科目	毎週教授時數		毎週教授時數	
唱歌	一	平易ナル單音唱歌	二	平易ナル單音唱歌
體操	四	體操、教練、遊戯及競技	三	體操、教練、遊戯及競技
裁縫			三	通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方
手工	簡易ナル細工		簡易ナル細工	
計	二三		男二八 女二五	

學年	第一學年		第二學年	
教科目	毎週教授時數		毎週教授時數	
唱歌	一	平易ナル單音唱歌	二	平易ナル單音唱歌
體操	三	體操、教練、遊戯及競技	三	體操、教練、遊戯及競技
裁縫			三	通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方
手工	簡易ナル細工		簡易ナル細工	
計	二五		男二八 女二五	

圖畫ハ第一學年第二學年ニ於テハ毎週一時之ヲ課スルコトヲ得

手工ハ第一學年第二學年第三學年ニ於テハ毎週一時、第四學年第五學年第六學年ニ於テハ毎週二時之ヲ課スルコトヲ得

第五號表

學年	第一學年		第二學年	
教科目	毎週教授時數		毎週教授時數	
國史	二	國史ノ大要	二	前學年ノ續キ
地理	二	外國地理ノ大要	二	地理ノ補習
理科	二	植物、動物、鑛物及自然ノ現象、通常ノ物理化學上ノ現象、元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身生理衛生ノ大要	二	自然ノ現象、通常ノ物理化學上ノ現象、元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身生理衛生ノ大要
圖畫	一	簡單ナル形體	一	簡單ナル形體（簡易ナル幾何畫）
手工	一	簡易ナル製作、製圖、手藝	一	簡易ナル製作、製圖、手藝
唱歌	一	單音唱歌（簡易ナル複音唱歌）	一	單音唱歌（簡易ナル複音唱歌）
體操	三	體操、教練、遊戯及競技	三	體操、教練、遊戯及競技
實業	男五 女二	（農）農業ノ大要（工）工業ノ大要（商）商業ノ大要	男五 女二	（農）農業ノ大要（工）工業ノ大要（商）商業ノ大要
家事 裁縫	四	衣食住、看病、育兒、一家經濟ノ大要 通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方	四	衣食住、看病、育兒、一家經濟ノ大要 通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方
計			男二九 女三〇	

小學校令第二十條第二項ノ教科目ニ關シテハ本表ノ時數ノ外男兒三時以内、女兒二時以内ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

前項ノ外本表各教科目ノ毎週教授時數ヲ增加スルコトヲ得但シ毎週教授時數ノ合計ハ三時十二時ヲ超ユルコトヲ得ス

實習ニ關シテハ前項ノ教授時數外ニ渉リテ尙之ヲ課スルコトヲ得

第六號表

教科目＼學年	第一學年		第二學年		第三學年	
	毎週教授時數		毎週教授時數		毎週教授時數	
修身	二	道德ノ要旨	二	道德ノ要旨	二	道德ノ要旨
國語	六	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方	六	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方	六	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方
算術	四	整數、小數、分數、數ノ代數的計算、幾何圖形、珠算	四	比例、歩合算、數ノ代數的計算、幾何圖形、珠算	四	第一學年、第二學年ノ課程ノ補習（日用簿記）
國史	二	國史ノ大要	二	前學年ノ續キ	二	國史ノ補習
地理	二	外國地理ノ大要	二	地理ノ補習	二	地理ノ補習
理科	二	植物、動物、鑛物及自然ノ現象、通常ノ物理化學上ノ現象、元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身生理衛生ノ大要	二	自然ノ現象、通常ノ物理化學上ノ現象、元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身生理衛生ノ大要	二	理科ノ補習
圖畫	一	簡單ナル形體	一	簡易ナル形體（簡易ナル幾何畫）	一	簡單ナル形體（簡易ナル幾何畫）
手工	二	簡易ナル製作、製圖、手藝	一	簡易ナル製作、製圖、手藝	一	簡易ナル製作、製圖、手藝
唱歌	一	單音唱歌（簡易ナル複音唱歌）	一	單音唱歌（簡易ナル複音唱歌）	一	單音唱歌（簡易ナル複音唱歌）
體操	三	體操教練遊戲及競技	三	體操教練遊戲及競技	三	體操教練遊戲及競技

實業		家事		裁縫		計	
男	女	男	女	男	女	男	女
五	二	四		四		二九	三〇
（農）農業ノ大要 （工）工業ノ大要 （商）商業ノ大要		衣食住、看病、育兒、一家經濟ノ大要		通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方			
五	二	四		四		二九	三〇
（農）農業ノ大要 （工）工業ノ大要 （商）商業ノ大要		衣食住、看病、育兒、一家經濟ノ大要		通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方			
六	二	五		五		三〇	三一
（農）農業ノ大要 （工）工業ノ大要 （商）商業ノ大要		衣食住、看病、育兒、一家經濟ノ大要		通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方			

小學校令第二十條第二項ノ教科目ニ關シテハ本表ノ時數ノ外男兒三時以内、女兒二時以内ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

前項ノ外本表各教科目ノ毎週教授時數ヲ增加スルコトヲ得但シ毎週教授時數ノ合計ハ三十二時ヲ超ユルコトヲ得ス

實習ニ關シテハ前項ノ教授時數外ニ涉リテ尙之ヲ課スルコトヲ得

第七號表（明治四十年三月文部省令第六號ニ因リ自然消滅）

第八號表（削除）

第九號表

氏名		住所	生年月日	學齡ヲ終ル年月日	保護者 氏名	保護者 住所	保護者 職業	保護者 兒童ト關係

就學シタル學校又ハ教授者氏名

就學シタル年月日

尋常小學校ノ教科ヲ了リタル年月

不就學		免除	
年月日	事由	年月日	事由

就學猶予	
期間	事由

備考

第十號表

氏名		住所	生年月日	入學年月日	入學前ノ經歷	卒業年月日	退學年月日	退學ノ事由	保護者 氏名住所	保護者 職業	保護者 兒童ト關係

學業成績

學年	修身	國語	算術	國史	地理	理科	圖畫	唱歌	體操	裁縫		修了ノ年月日	在學中ノ出席及缺席 出席日數	在學中ノ出席及缺席 缺席日數	在學中ノ出席及缺席 缺席ノ事故
第一學年															
第二學年															
第三學年															
第四學年															
第五學年															
第六學年															

身體ノ狀況

學年	身長	體重	胸圍	脊柱ノ彎曲	榮養	脊柱	脊柱ノ彎曲 左右	視力及眼病	色神	眼疾	聽力	耳疾	齒牙	其ノ他ノ病患	監督ノ要否	本人ニ對スル注意	備考
第一學年																	
第二學年																	
第三學年																	
第四學年																	
第五學年																	
第六學年																	

備考

（備考）學校醫ヲ置カサル學校ニ於テハ身體ノ狀況ハ之ヲ闕クコトヲ得

○小學校生徒ノ體育及衛生ニ關スル件

（明治二十七年九月一日　文部省訓令第六號）

小學校ハ小學校令第一條ノ示ス所ニ依リ兒童ノ體育ニ留意シ教育ノ完成ヲ期セサルヘカラス我國舊來弓馬劍槍ノ武藝盛ニ行ハレ體育ノ道ニ於テ缺クル所ナカリシモ維新後兵制變革ノ爲或種ノ武藝ハ其ノ必要ヲ失ヒタルト同時ニ體育ノ衰頽ヲ致セル事又教員及生徒カ學問智識ノ進歩ニ急ニシテ勤モスレハ智育ノ一方ニ偏需セル事及社會一般ノ衛生ノ必要ヲ感スルコト未タ深切ナラサル事是等數多ノ原因ノ爲ニ各般ノ學校ニ於ケル體育及衛生ノ方法ハ仍不完全ナルヲ免レス殊ニ小學教育ノ時ハ方ニ身體發育ノ期ニ當リ一タヒ傷害ヲ受クルトキハ其ノ患ハ終身ニ及ヒ克ムヘキノ情況ヲ呈セントス今小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關シ訓令スルコト左ノ如シ

一　體育ハ及フタケ活潑ナル運動ヲ課スルヲ要スヘク普通體操ニ於テモ亦兵式體操ト同ク手足及全身筋力ノ運動ヲ活潑ニシ氣血ノ代謝ヲ促スト同時ニ生徒自個ニ於テ意氣快活ヲ覺ユルノ效果アラシムヘシ體操ノ繁ハ或ハ死法ニ流レ能勢ヲ整ヘ竝列ヲ正スカ爲ニ許多ノ時間ヲ費シ却テ生徒ヲシテ厭倦ノ氣ヲ生セシムルニ至ル此ノ如キハ却テ體操ノ精神ヲ失フモノナリ

二　高等小學校男生徒ニハ兵式體操ヲ課スルノ際軍歌ヲ用ヰ體操ノ氣勢ヲ壯ニスルコトアルヘシ又隨意科トシテ簡單ナル器械體操ヲ授クヘシ

三　小學校生徒ハ活潑ナル運動ニ便スル爲ニ不得已場合ノ外學校内ニ於テハ洋服又ハ和服ヲ問ハス都テ筒袖ヲ用ヰシムヘシ

四　放課時間ニ於テ佇立閑語シテ經過スルニ終ラシムヘカラス男女トナク成ルヘク活潑ニ大氣中ニ運動スルノ遊戯ヲ誘フヘシ或ハ大聲急走嬉戯ノ態ヲ以テ生徒ノ不良事ト爲シ沈靜ヲ以テ品行點ニ加フルカ如キハ當ヲ得タルモノニアラス

五　生徒ヲシテ筆記及講論ヲ務メシムルハ過度ニ腦力ヲ勞セシムルモノナレハ特ニ必要ノ場合ノ外之ヲ用ヰサランコトヲ要ス

六　小學校ノ課業ノ中生徒ノ尤困難ヲ感スル者ハ作文トス初級ノ生徒ニハ作文ヲ授クヘカラス若シ簡單ナル作文ヲ授クルモ此ヲ以テ試驗ノ問題トスヘカラス

七　小學校ニ於テ施行スル所ノ試驗法ハ或ハ褒貶ノ意味ニ偏シ點數ニ依リテ毎期席順ヲ上下シ又ハ賞與ヲ與フル等過度ニ生徒ノ神經ヲ刺衝スルノ弊アリ此レ獨リ普通教育ノ主義ヲ誤ルノミナラス亦生徒ノ體育ヲ害スル者ナリ自今各學校ハ試驗ニ依レル席順ノ上下ヲ廢スヘシ但各級ニ優等生若干人ヲ選拔シ以テ奬勵ヲ示スコトヲ妨ケサルヘシ

八　小學校ニ於テ生徒ハ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘシ

九　華者安逸ハ自然ニ軟弱ヲ招クモノナリ都會ノ生徒ノ學校ニ往來スル者或ハ車ニ乘ルカ如キハ學校紀律ノ外ニ係ルト雖校長及教員ハ注意ヲ加ヘテ成ルヘク步行セシムルコトニ誘導スヘシ

○戰地勤務ニ起因スル死傷者等ノ子弟ニ對シ小學校授業料ヲ徵收セサル件

（明治二十九年二月七日　勅令第五號）

第一條　戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ死去シタル者ノ遺族ニシテ左ニ揭クル者ニ對シテハ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ徵收セサルモノトス

一　〔軍人恩給法第二十七條第一〕ニ該當スル者及〔第四十條〕ニ揭クタル者ニシテ〔第二十七條第一〕ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹

二　〔官吏遺族扶助法第四條第二項〕ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹

三　〔明治二十七年勅令第百六十四號第一條第一項〕ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹

前項ノ遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ者ナキモ死者ノ前項ニ該當シタル事實明白ナルトキハ其ノ同籍内ニ在ル弟妹ニ對シ前項ヲ適用ス

第二條　戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ〔軍人恩給法第九條第十四條又ハ官吏恩給法第三條〕ニ該當スル者又ハ戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ〔明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ手當金ヲ受クル者〕又ハ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹ニ對シテハ市町村會ノ議決ニ依リ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ減額シ又ハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

第三條　本令ニ依リ減額シ又ハ徵收セサル授業料ニシテ已ニ納付濟ノモノハ還付セサルモノトス但市町村會ニ於テ還付ノ議決ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニアラス

○尋常小學校毎週教授時數ヲ極度マテ減スル場合ニ關スル件

（大正二年五月二十四日　發普第一四〇號）

普通學務局長通牒

小學校令施行規則第十九條ニ依リ尋常小學校ノ毎週教授時數ヲ極度マテ減スル場合ノ各教科目ノ毎週教授時數ハ自今大體別表ノ標準ニ依ラシメラレ候樣御取計相成度

追テ本文毎週教授時數ヲ極度マテ減少セサル場合ノ各教授目ノ毎週教授時數ハ小學校令施行規則第四號及別表ヲ斟酌シ便宜之ヲ定メシメラレ候樣致度

	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
修身	一	一	一	一	一	一
國語	六	八	一〇	一〇	七	七
算術	三	三	四	四	四	四
日本歷史						
地理					二	二

科	理	圖畫	體操	鼓隨	計
			二		一二
			二		一四
			三		一七
男一八 女二一		一	二	三	男一八 女二一
男一八 女二一	二	一	一	三	男一八 女二一

○小學校祝日大祭日儀式用唱歌歌詞及樂譜ハ認可ヲ經ヘキ件

（明治二十四年十月八日　文部省訓令第二號）

北海道廳　府　縣

一、小學校ニ於テ祝日大祭日ノ儀式ヲ行フノ際唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ特ニ其採擇ヲ慎ムヘキモノナルヲ以テ北海道廳長官府縣知事ニ於テ豫メ本大臣ノ認可ヲ經ヘシ但文部省ノ撰定ニ係ルモノ及他ノ地方長官ニ於テ一旦本大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス

一、前項唱歌用ノ歌詞及樂譜ハ漸次文部省ニ於テ撰定頒布スヘシ

○檢定ヲ經タル小學校唱歌用ノ歌詞及樂譜祝日大祭日唱歌供用方

（明治二十六年十月二十日　文部省訓令第十號）

北海道廳　府　縣

一、明治二十五年文部省訓令第五號ヲ廢ス

二、小學校ノ修身教科書ハ明治二十七年學年ノ始ヨリ之ヲ用ヰルコトヲ得セシムル爲ニ明治二十五年文部省訓令第八號ニ指定シタル期日ノ前ニ之ヲ審査採定スルコトヲ得

三、文部大臣ノ檢定ヲ經タル小學校唱歌教科書中ノ歌詞及樂譜ハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ明治二十四年文部省訓令第二號ノ手續ヲ要セスシテ小學校ニ於テ祝日大祭日ノ儀式ヲ行フノ際唱歌用ニ供セシムルコトヲ得

○小學校儀式唱歌用歌詞及樂譜

（明治二十六年八月十二日　文部省告示第三號）

（改正）大二年文部省告示一二號、昭三年三六九號

小學校ニ於テ祝日大祭日ノ儀式ヲ行フノ際唱歌用ニ供スル歌詞竝樂譜別冊ノ通撰定ス

（樂譜略ス）

（別冊）

歌詞

（君が代　勅語奉答　一月一日　元始祭　紀元節　神嘗祭　天長節　新嘗祭　明治節）

君が代

君が代は。ちよにやちよに。さゞれいしの。巖となりて。こけのむすまで。

勅語奉答

あやに畏き天皇の。あやに尊き天皇の。
あやに尊く長く。日の本の。あやに尊き天皇の。
是ぞめでたき日の本の。下し賜へり大勅語。
是ぞめでたき日の本の。國の教への基なる。
あやに畏き天皇の。人の教への經なる。
あやに尊き天皇の。勅語のまゝに勤みて。
大御心に答へまつらむ。

一月一日

第一章

年のはじめの例とて。終りなき世のめでたさを。
松竹たてゝ門ごとに。いはふ今日こそたのしけれ。

第二章

初日のひかり さしいでて。四方に輝く今朝のそら。
君がみかげに比へつゝ仰ぎ見るこそたふとけれ。

元始祭

天津日嗣の際限なく。天津國の動きなく。
年のはじめに皇神を。祭りまつるこそかしこけれ。
四方の民くさうち靡き。長閑けき空をうち仰ぎ。
豐榮のぼる日の御旗。たてゝ藏はゝね家へぞなき。

紀元節

第一章

雲に聳ゆる高千穗の。高根おろしに草も木も。
なびきふしけん大御代を。仰ぐ今日こそたのしけれ。

第二章

海原なせる埴安の。池のおもより猶ひろき。
めぐみの波に浴みし世を。あふぐけふこそたのしけれ。

第三章

天津ひつぎの高みくら。千代よろづよに動きなき。
もとゐ定めしそのかみを。仰ぐけふこそたのしけれ。

第四章

空にかゞやく日のもとの。萬の國にたぐひなき。
國のみはしらたてし世を。あふぐけふこそたのしけれ。

神嘗祭

五十鈴の宮の　大前に。　今年の秋の　懸稲。
御酒御吊を　たてまつり。　祈ふあしたの　朝日かげ。
麗く御旗も　かゞやきて。　賑ふ御代こそ　めでたけれ。

天長節

今日の吉き日は　大君の。　うまれたまひし　吉き日なり。
今日の吉き日は　御ひかりの。　さし出たまひし　吉き日なり。
ひかり遍れき　君が代を。　いはへ諸人　もろともに。
めぐみ遍れき　君が代を。　いはへ諸人　もろともに。

新嘗祭

民やすかれと　二月の。　所年　祭驗あり。
千町の小田に　うち靡く。　垂穂の稲の　美稲。
御饌につくりて　たてまつる。　新嘗祭尊しや。

明治節

一、亞細亞の東日出づる處
古き天地ざさせる霧を
敎あまねく道明らけく
聖の君の現れまして
大御光に照なくはちひ
治めたまへる御代尊

二、惠の波は八洲に餘り
神の依させる御業を弘め
外つ國國の史にも著く
御稜威の風は海原越えて
民の榮行く力を展ばし
留めたまへる御名長

三、秋の空すみ菊の香高き
今日のよき日を皆ことほぎて
定めましける御恵を崇め
諭しましける詔勅を守り
代代木の森の代代長へに
仰ぎまつらん大帝

○小學校ノ經費整理節約ニ關スル件

（大正十一年十二月二十八日　文部省訓令第二十三號）

北海道廳府縣

小學校ノ敎育ハ道德敎育及國民敎育ノ基礎竝生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルヲ本旨トシ、國民一般ニコレヲ受ケシムベキモノデアル。故ニ敎科ニ於テモ設備ニ於テモ全國ヲ通ジテ或程度マデコレヲ統一スルノ必要ハアルガ、又各地方ニ於ケル氣候・風土・産業・習慣ノ相違ヤ資力ノ大小、兒童數ノ多少等實際ノ情況ニ應ジテ施設スル所ガナケレバナラヌ。從來小學校ニ關スル法令ガ敎科・編制・設備等ニ就イテ自由裁量ノ範圍ヲ認メ其ノ實行ヲ地方當局ニ任セテ居ルノハコレガ爲デアル。以上ノ理由カラ小學校敎育ノ施設ガ地方ニ依ツテ多少其ノ趣ヲ異ニスルノハ當然ノ事デアル。而シテ地方費・就中小學校敎育費ハ比年劇增ヲ來シテ地方ノ負擔ヲ困難ナラシメ、殊ニ就學兒童ノ增加ノ爲全國ニ於テ年年數千學級ヲ增設スル必要モアリ、世運ノ進歩ニ應ジテ敎育ノ內容ヲ充實シ敎員ノ待遇ヲ改善スル必要モアツテ、今後ハ益〻其ノ增額ノ勢ヲ大ニスル傾向ガアルカラ、當事者ハ地方ノ實情ヲ斟酌シテ一層其ノ施設ニ注意シ敎育ノ效果ヲ減ゼザル範圍ニ於テ及ブダケ費用ノ整理節約ヲ圖ラナケレバナラヌ。今其ノ施設ヲシテ土地ノ情況ニ適應セシメ費用ノ整理節約ヲ圖ル爲ニ適宜採用スベキ手段ヲ擧ゲレバ大體左ノ如キモノデアル。

一、小學校敎育費ノ負擔ニ困難ヲ感ズル處デハ比較的少數ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級ハ同一學校ノ他ノ學級ト合併シテモ差支ナイ場合ガアル。此ノ整理ハ勿論小學校令施行規則ノ認ムル範圍內ニ於テ行ヒ且敎員ノ能力ヲモ十分ニ考慮シナケレバナラヌ。尙同一市町村內ニ於ケル他ノ學校ノ學級ト合併スルコトモ出來ルガ、コレヲ實行スルニハ兒童ノ通學路程ヲ考慮スル必要ガアル。

二、尙特別ナル編制ヲ必要トスル處デハ主トシテ年少ノ兒童ニ對シ二部敎授ヲ行ヒ、若シコレニ據リ難イ場合ニハ年長ノ者ニ對シ二部敎授ヲ加味セザル三學級二敎員制ヲ行フコトニ依ツテ六學級ノ學校ニ五敎員、五學級ノ學校ニ四敎員、四學級ノ學校ニ三敎員ヲ配置スル等ノ組織トスルコトガ出來ル。但シ其ノ敎員ノ資格等ハ小學校令施行規則ノ定ムル所ニ依ルハ勿論、殊ニ優良ナル敎員ヲ配置シ給與ヲ十分ニシ且其ノ敎員ヲシテ過勞セシメナイヤウニ注意スル必要ガアル。

三、市町村ノ實情ト學校ノ規模トニ應ジ學級數ノ多イ小學校ニ於テモ學校長ヲシテ成ルベク敎授ヲ擔任セシムルコトニ依ツテ學校長ノ擔任スル敎授ヲ補助スル敎員ヲ置ク場合ヲ少クスルコトガ出來ル。又資力豐ナラザル町村デハ本科正敎員ヲ採用スル場合ニ專科ニ屬スル敎科目ヲ敎ヘルニ堪能ナル者ヲ選ビ或程度マデ敎員數ヲ減ズルコトモ整理ノ一助デアル。

四、校舍ノ新築等ノ場合ニハ衞生ニ注意スルハ勿論、質實ト利用トヲ旨トシ努メテ地方資力ノ程度ニ適應セシメ、又其ノ地方ニ於ケル適當ナル建造物ヲ利用スル等ノ方法ヲ講ジ設備ニ關スル經費ノ整理節約ヲ圖ルコトガ必要デアル。

五、器具・機械・標本・諸帳簿・薪炭等ノ備品消耗品ニ就イテハ節約利用ニ十分注意スルハ勿論、コレヲ購入スルニモ數校聯合シテ共同購入ノ方法ヲ採ル等ニ依ツテ努メテ冗費ヲ省クコトガ必要デアル。

六、學用品ハ出來ルダケ質素節約ヲ旨トシ必要ナルモノニ限リコレヲ使用セシメテ其ノ費ヲ避ケ、共同購買等ノ方法ヲ講ジテ父兄ノ負擔ヲ輕減スルコトガ必要デアル。

以上ハ小學校ニ關スル經費ヲ整理節約スル手段ニ就イテ其ノ大綱ヲ擧ゲタノデアル各學校ニハ敎室ノ制限ヤ敎員ノ資格能力ノ不同ヤ小學校ヲ利用スル實業補習敎育・社會敎育ノ施設ノ有無等彼此事情ヲ異ニスルモノガアルカラ、地方長官ハヨク其ノ實情ヲ察シ必要ニ應ジテ適宜コレヲ參酌セシメ、地方經濟トノ權衡ヲ圖ルト同時ニ國民敎育ヲ一層振興セシムルヤウ監督誘導ニ努力セラレンコトヲ切望スル次第デアル。

○樺太ニ於ケル小學校ニ關スル件

（明治四十一年三月二十三日　勅令第四十五號）

（改正）　大二年勅令三一七號、大九年三四三號、大一一年一六三號、昭四年一七一號、昭七年二六二號

第一條　樺太ニ於ケル小學校ニ關シテハ小學校令第一條、第二條第一項第二項、第三條、第五條、第六條、第十四條第一項、第十五條乃至第二十四條、第二十七條乃至第三十三條、第三十五條乃至第三十九條、第四十一條乃至第四十三條、第四十五條乃至第五十條、第六十五條及第六十六條ノ規定ニ依ル但シ同令中第四十一條第一項ノ場合ヲ除ケノ外文部大臣ノ職務ハ拓務大臣、府縣知事ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行ヒ市町村立小學校トアルハ樺太公立小學校、府縣トアルハ樺太廳トス

樺太公立小學校ト稱スルハ町村又ハ學校設置區域ノ經費ヲ以テ設置スルモノヲ謂フ

第一條ノ二　樺太公立小學校長及教員ノ任用及解職ハ樺太廳長官之ヲ行フ

第二條　小學校令ノ規定ニ依リ難キ場合アルトキハ樺太廳長官ニ於テ拓務大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三條　樺太ニ於テ小學校教員タルヘキ者ハ樺太廳ノ免許狀ヲ受クヘシ

但シ小學校令ニ依ル免許狀ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　樺太公立小學校職員ノ名稱及待遇ニ關シテハ市町村立小學校長及教員名稱及待遇ニ依ル但シ同令中市町村立小學校長及教員トアルハ樺太公立小學校長及教員、市町村立小學校長及訓導トアルハ樺太公立小學校長及訓導トス

第四條ノ二　樺太公立小學校職員ニシテ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ俸給配當ハ別表ニ依ル

第五條　樺太公立小學校職員ノ俸給ハ國庫ノ支辨トス

樺太公立小學校職員ノ旅費ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ國庫支辨ト爲スコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

判任官一等待遇	判任官二等待遇	判任官三等待遇	判任官四等待遇
月俸百圓以上	月俸七十圓以上百圓未滿	月俸五十圓以上七十圓未滿	月俸五十圓未滿

○樺太ノ小學校ニ關スル件施行方

（明治四十一年三月三十一日　內務省令第六號）

（改正）　明四一年內務省令一一號、大二年一八號、大九年關令九號、大一一年四號、昭四年拓務省令一號

第一條　明治四十一年勅令第四十五號第一條ニ依リ拓務大臣ニ於テ定ムヘキ事項ニ付テハ小學校令施行規則中第百十七條、第百三十二條、第百五十九條、第百七十條、第百七十二條、第百七十四條乃至第百八十五條、第二百十二條乃至第二百二十三條ヲ除キ其ノ他ノ規程ヲ準用ス

第一條ノ二　私立小學校長及教員採用解職ハ設立者ニ於テ豫メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　小學校令施行規則中ニ規定スル文部大臣ノ職務ハ拓務大臣府縣知事ノ職務ハ樺太廳長官道廳府縣內務部長ノ職務ハ樺太廳內務部長郡長ノ職務ハ樺太廳支廳長、市町村長ノ職務ハ大正十年法律第四十七號ヲ適用セサル地域ニ在リテハ樺太廳支廳長、道廳府縣判任官ノ職務ハ樺太廳判任官之ヲ行フ

第三條　樺太公立小學校ノ教員ニハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ本俸十分ノ八以內ノ加俸ヲ給ス

樺太ニ滿五年以上勤續ノ者ニハ前項ノ加俸ノ外樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ本俸十分ノ二以內ノ加俸ヲ加給ス

附　則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　中學校

○中學校令

（明治三十二年二月七日）
勅令第二十八號

（改正）　明四〇年勅令二八〇號、大八年一一號

第一條　中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ養成ニ力ムヘキモノトス

第二條　北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應シ一箇以上ノ中學校ヲ設置スヘシ

文部大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ北海道及府縣ニ中學校ノ增設ヲ命スルコトヲ得

第三條　前條ノ中學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第四條　郡市町村（北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム）市町村學校組合及町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域內小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條　私人ハ本令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第六條　土地ノ情況ニ依リ中學校ノ分校ヲ必要トスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ設置スルコトヲ得但シ一校ニ付一分校ニ限ル

第七條　中學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

中學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條　公立中學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條　中學校ノ修業年限ハ五年トス

中學校ニハ補習科ヲ置クコトヲ得

中學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得

補習科及豫科ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條　中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

第十一條　中學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條　中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

中學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條　中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

中學校教員免許狀ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條　（削除）

第十五條　中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十六條　公立中學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ノ額ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條　本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ中學校ト稱スルコトヲ得ス

第十八條　本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附　則

第十九條　本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十條　既設ノ尋常中學校分校ニシテ第六條ノ制限ニ超過スルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經テ本令施行ノ日ヨリ五箇年以內存置スルコトヲ得

第二十一條　明治十九年勅令第十五號中學校令第十二條ニ依リ設置シタル農業工業商業等ノ專修科ハ本令施行ノ日ニ於テ現ニ在學スル生徒ノ卒業スル迄之ヲ存置スルコトヲ得

第二十二條　既設ノ公私立尋常中學校ハ本令施行ノ日ヨリ中學校ト改稱ス

他ノ法令中尋常中學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス

〇明治四十年勅令第二百八十號附則

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ第十條施行後ト雖仍從前ノ例ニ依ル

〇大正八年勅令第十一號附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○中學校令施行規則

（昭和六年一月十日文部省令第二號）

（改正）昭二一年文部省令六號

第一章　生徒教養ノ要旨

第一條　中學校ニ於テハ中學校令ノ旨趣ニ基キ小學校教育ノ基礎ニ據リ一層高等ノ程度ニ於テ道德教育及國民教育ヲ施シ生活上有用ナル普通ノ知能ヲ養ヒ且體育ヲ行フヲ以テ旨トシ特ニ左ノ事項ニ留意シテ其ノ生徒ヲ教養スベシ

一　教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ學校教育ノ全般ヨリ道德教育ヲ行ハンコトヲ期シ常ニ生徒ヲ實踐躬行ニ導キ殊ニ國民道德ノ養成ニ意ヲ用ヒ我ガ建國ノ本義ト國體ノ尊嚴ナル所以トヲ會得セシメ忠孝ノ大義ヲ明ニシ其ノ信念ヲ鞏固ナラシメンコトヲ期スベシ

二　獨立自主ノ精神ヲ養ヒ勤勞ヲ愛好スルノ習慣ヲ育成シ且協同ヲ尙ビ責任ヲ重ンズルノ觀念ヲ涵養センコトニ力ムベシ

三　專ラ心力ノ啓發ヲ旨トシ徒ニ專門的學術ノ體系ニ泥ムコトナク社會生活上適切有用ナル知能ヲ養ハンコトヲ期スベシ

四　生徒ノ身體ヲ强健ナラシムルト共ニ精神ヲ鍛錬シ青年ノ濶達ナル氣風ヲ養ハンコトヲ旨トスベシ

第二章　學科及其ノ程度

第二條　中學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語漢文、歷史、地理、外國語、數學、理科、實業、圖畫、音樂、作業科、體操トス

第四學年以上ニ在リテハ第一種及第二種ノ課程ヲ編制シ生徒ヲシテ其ノ一課程ヲ選修セシム第一種及第二種ノ課程ハ修身、公民科、國語漢文、歷史、地理、理科、作業科、體操ヲ基本科目トシ第一種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、外國語、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及實業ヲ增課シ第二種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及外國語ヲ增課シ之ヲ編制スベシ

前項ノ規定ハ第三學年ヨリ之ヲ適用スルコトヲ得但シ第一種及第二種ノ課程ハ修身、公民科、國語漢文、歷史、地理、數學、理科、作業科、體操ヲ基本科目トシ第一種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、外國語、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及實業ヲ增課シ第二種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適且其ノ數科目及外國語ヲ增課シ之ヲ編制スベシ

特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第一種課程及第二種課程ノ中其ノ一ヲ缺クコトヲ得

實業ニ於テ農業又ハ工業ヲ課スル場合ニ在リテハ作業科ヲ缺クコトヲ得

甲號表

學年 / 學科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一	一	一	一	一
公民科				一	一

外國語ハ英語、獨語、佛語又ハ支那語トス

第三條　各學年ニ於ケル各學科目ノ毎週教授時數ハ第四學年以上ニ於テ第一種及第二種ノ課程ヲ編制スル場合ニ在リテハ甲號表、第三學年以上ニ於テ第一種及第二種ノ課程ヲ編制スル場合ニ在リテハ乙號表ニ依ルベシ

學校長ハ必要アルトキハ甲號表又ハ乙號表ノ毎週教授時數ノ合計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ增減セザル範圍內ニ於テ甲號表又ハ乙號表ノ教授時數ヲ變更スルコトヲ得

甲號表ノ第三學年ニ於ケル音樂ハ之ヲ缺クコトヲ得

前條第五項ノ規定ニ依リ作業科ヲ缺キタルトキハ其ノ教授時數ハ便宜之ヲ他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

實業、作業科、圖畫、音樂等ノ實習及體操ハ甲號表又ハ乙號表ノ教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

甲號表又ハ乙號表ノ教授時數ノ外每週二時以內ヲ課程外ノ指導ニ充ツルコトヲ得

第二章　中學校

○中學校令

（明治三十二年二月七日勅令第二十八號）

（改正）明四〇年勅令二八〇號、大八年一一號

第一條　中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ養成ニ力ムヘキモノトス

第二條　北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應シ一箇以上ノ中學校ヲ設置スヘシ

文部大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ北海道及府縣ニ中學校ノ增設ヲ命スルコトヲ得

第三條　前條ノ中學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第四條　郡市町村（北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム）市町村學校組合及町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域內小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條　私人ハ本令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第六條　土地ノ情況ニ依リ中學校ノ分校ヲ必要トスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ設置スルコトヲ得但シ一校ニ付一分校ニ限ル

第七條　中學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

中學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條　公立中學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條　中學校ノ修業年限ハ五年トス

中學校ニハ補習科ヲ置クコトヲ得

中學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得

補習科及豫科ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條　中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

第十一條　中學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條　中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

中學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條　中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

中學校教員免許狀ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條　（削除）

第十五條　中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十六條　公立中學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ノ額ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條　本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ中學校ト稱スルコトヲ得ス

第十八條　本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附　則

第十九條　本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十條　既設ノ尋常中學校分校ニシテ第六條ノ制限ニ超過スルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經テ本令施行ノ日ヨリ五箇年以内存置スルコトヲ得

第二十一條　明治十九年勅令第十五號中學校令第十二條ニ依リ設置シタル農業工業商業等ノ專修科ハ本令施行ノ日ニ於テ現ニ在學スル生徒ノ卒業スル迄之ヲ存置スルコトヲ得

第二十二條　既設ノ公私立尋常中學校ハ本令施行ノ日ヨリ中學校ト改稱ス

他ノ法令中尋常中學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス

○明治四十年勅令第二百八十號附則

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ第十條施行後ト雖仍從前ノ例ニ依ル

○大正八年勅令第十一號附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○中學校令施行規則

（昭和六年一月十日文部省令第二號）

（改正）昭一一年文部省令六號

第一章　生徒教養ノ要旨

第一條　中學校ニ於テハ中學校令ノ旨趣ニ基キ小學校教育ノ基礎ニ據リ一層高等ノ程度ニ於テ道德教育及國民教育ヲ施シ生活上有用ナル普通ノ知能ヲ養ヒ且體育ヲ行フヲ以テ旨トシ特ニ左ノ事項ニ留意シテ其ノ生徒ヲ教養スベシ

一　教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ學校教育ノ全般ヨリ道德教育ヲ行ハンコトヲ期シ常ニ生徒ヲ實踐躬行ニ導キ殊ニ國民道德ノ養成ニ意ヲ用ヒ我ガ建國ノ本義ト國體ノ尊嚴ナル所以トヲ會得セシメ忠孝ノ大義ヲ明ニシ其ノ信念ヲ堅固ナラシメンコトヲ期スベシ

二　獨立自主ノ精神ヲ養ヒ勤勞ヲ愛好スルノ習慣ヲ育成シ且協同ヲ尚ビ責任ヲ重ンズルノ觀念ヲ涵養センコトニ力ムベシ

三　專ラ心力ノ啓發ヲ旨トシ徒ニ專門的學術ノ體系ニ泥ムコトナク社會生活上適切有用ナル知能ヲ養ハンコトヲ期スベシ

四　生徒ノ身體ヲ强健ナラシムルト共ニ精神ヲ鍛練シ青年ノ濶達ナル氣風ヲ養ハンコトヲ旨トスベシ

第二章　學科及其ノ程度

第二條　中學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語漢文、歷史、地理、外國語、數學、理科、實業、圖畫、音樂、作業科、體操トス

第四學年以上ニ在リテハ第一種及第二種ノ課程ヲ編制シ生徒ヲシテ其ノ一課程ヲ選修セシム第一種及第二種ノ課程ハ修身、公民科、國語漢文、歷史、地理、理科、作業科、體操ヲ基本科目トシ第一種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、外國語、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及實業ヲ增課シ第二種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及外國語ヲ增課シ之ヲ編制スベシ

前項ノ規定ハ第三學年ヨリ之ヲ適用スルコトヲ得但シ第一種及第二種ノ課程ハ修身、公民科、國語漢文、歷史、地理、數學、理科、作業科、體操ヲ基本科目トシ第一種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、外國語、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適宜其ノ數科目及實業ヲ增課シ第二種課程ニハ基本科目ニ國語漢文、數學、理科、圖畫、音樂ノ中適且其ノ數科目及外國語ヲ增課シ之ヲ編制スベシ

特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第一種課程及第二種課程ノ中其ノ一ヲ缺クコトヲ得

實業ニ於テ農業又ハ工業ヲ課スル場合ニ在リテハ作業科ヲ缺クコトヲ得

第三條　各學年ニ於ケル各學科目ノ毎週教授時數ハ第四學年以上ニ於テ第一種及第二種ノ課程ヲ編制スル場合ニ在リテハ甲號表、第三學年以上ニ於テ第一種及第二種ノ課程ヲ編制スル場合ニ在リテハ乙號表ニ依ルベシ

學校長ハ必要アルトキハ甲號表又ハ乙號表ノ毎週教授時數ノ合計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ增減セザル範圍内ニ於テ甲號表又ハ乙號表ノ教授時數ヲ變更スルコトヲ得

甲號表ノ第三學年ニ於ケル音樂ハ之ヲ缺クコトヲ得

前條第五項ノ規定ニ依リ作業科ヲ缺キタルトキハ其ノ教授時數ハ便宜之ヲ他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

實業、作業科、圖畫、音樂等ノ實習及體操ハ甲號表又ハ乙號表ノ教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

甲號表又ハ乙號表ノ教授時數ノ外毎週二時以内ヲ課程外ノ指導ニ充ツルコトヲ得

外國語ハ英語、獨語、佛語又ハ支那語トス

甲號表

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一	一	一	一	一
公民科				二	二

	基本科目 國語漢文	基本科目 歷史地理	基本科目 外國語	基本科目 數學	基本科目 理科	基本科目 圖畫	基本科目 音樂	基本科目 作業科	基本科目 體操	基本科目總時數		增課科目 國語漢文	增課科目 外國語	增課科目 數學	增課科目 理科	增課科目 實業	增課科目 圖畫	增課科目 音樂	增課科目ニ充ツベキ總時數	合計
	七	三	五	三	二	一	一	二	五	三〇										三〇
	六	三	五	三	三	一	一	二	五	三〇										三〇
	六	三	六	五	三	一	一	一	五	三二										三二
	四	三			四			一	五	二〇	第一種	一―三	二―五	二―四	一―四	三―五	一―二	一―二	一二―一五	三二―三五
											第二種	一―三	四―七	二―五	一―二		一―二	一―二	一〇―一三	三〇―三三
	四	三			四			一	五	二〇	第一種	一―三	二―五	二―四	一―四	三―六	一―二	一―二	一二―一五	三二―三五
											第二種	一―三	四―七	二―五	一―二		一―二	一―二	一〇―一三	三〇―三三

乙號表

學年 / 學科目	基本科目 修身	基本科目 公民科	基本科目 國語漢文	基本科目 歷史地理	基本科目 外國語	基本科目 數學	基本科目 理科	基本科目 圖畫	基本科目 音樂	基本科目 作業科	基本科目 體操
第一學年	一		七	三	五	三	二	一	一	二	五
第二學年	一		六	三	五	三	三	一	一	二	五
第三學年	一		四	三		三	三			一	五
第四學年	一	二	四	三			四			一	五
第五學年	一	二	四	三			四			一	五

				第一種	第二種	第一種	第二種	第一種	第二種
基本科目總時數		三〇	三〇	二〇		二〇		二〇	
增課科目	國語漢文			一—三	一—三	一—三	一—三	一—三	一—三
	外國語			二—五	四—六	二—五	四—七	二—五	四—七
	數學			一—二	一—二	二—四	二—五	二—四	二—五
	理科			一—二	一—二	一—四	一—三	一—四	一—三
	實業			三—五		三—五		三—六	
	圖畫			一—二	一—二	一—二	一—二	一—二	一—二
	音樂			一—二	一—二	一—二	一—二	一—二	一—二
	增課科目ニ充ツベキ總時數			一一—一五	一〇—一三	一一—一五	一〇—一三	一一—一五	一〇—一三
合計		三〇	三〇	三一—三五	三〇—三三	三一—三五	三〇—三三	三一—三五	三〇—三三

第四條　各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五條　修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ鞏固ナル意志ヲ鍛錬シ殊ニ我ガ國體ニ關スル信念ヲ養ヒ以テ健全有爲ナル國民タラシメンコトヲ期シ實踐躬行ニ導クヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ就中我ガ國民道德ノ由來ト特質トヲ悟ラシメ建國ノ體制及國體ノ本義ヲ明ニシ國家、社會及家ニ對スル責務竝ニ人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ更ニ道德及社會生活ノ理論ノ概要ヲ授クルト共ニ時代思想ニ對スル正シキ批判力ヲ養ヒ道德的信念ヲ確立セシムルニ力ムベシ

第六條　公民科ハ國民ノ政治生活、經濟生活竝ニ社會生活ヲ完ウスルニ足ルベキ知德ヲ涵養シ殊ニ遵法ノ精神ト共存共榮ノ本義トヲ會得セシメ公共ノ爲ニ奉仕シ協同シテ事ニ當ルノ氣風ヲ養ヒ以テ善良ナル立憲自治ノ民タルノ素地ヲ育成スルヲ以テ要旨トス

公民科ハ憲政自治ノ本義ヲ明ニシ日常生活ニ適切ナル法制上、經濟上竝ニ社會上ノ事項ヲ授クベシ

第七條　國語漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ發表シ文字ヲ端正ニ書寫スルノ能ヲ得シメ國民性ヲ涵養シ文學上ノ趣味ヲ養ヒ知德ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ平易ナル近古文ヨリ簡易ナル上古文ニ及ボシ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ簡易ニシテ實用ニ適スル國文ヲ作ラシメ國語文法ノ大要及習字ヲ授クベシ

第八條　歷史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化進展ノ過程、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我ガ國運進展ノ迹ヲ詳ニシ建國ノ本義ト國體ノ尊嚴無比ナル所以トヲ知ラシメ大義名分ヲ明ニシ國民精神ヲ涵養スルヲ以テ要旨トス

歷史ハ國史及外國史トシ國史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマデノ重要ナル事蹟ヲ授ケ建國ノ體制、皇統ノ無窮、歷朝ノ鴻德盛業、政治、經濟、産業其ノ他文化ノ發達、對外的關係等ニ關シテハ特ニ意ヲ用ヒテ之ヲ授ケ外國史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著明ナル諸國ノ興亡、文化ノ發達及我ガ國運ノ進展ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシムベシ

第九條　地理ハ地球及人類生活ノ狀態ヲ理解セシメ殊ニ兩者ノ關係ヲ明ニシ我ガ國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシメ國民タルノ自覺ヲ促スニ資スルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理、外國地理及地理概說トシ日本地理ニ於テハ我ガ國ノ自然狀態、政治、經濟、産業、交通等ノ狀態竝ニ其ノ關係ヲ明ニシ我ガ國ノ國勢ヲ知ラシメ外國地理ニ於テハ主トシテ我ガ國ト政治、經濟、産業、交通等ニ關シ重要ノ關係ナル諸外國ノ地理ノ大要ヲ授ケ地理概說ニ於テハ自然地理及人文地理ノ概要ヲ知ラシムベシ

第十條　外國語ハ普通ノ英語、獨語、佛語又ハ支那語ヲ了解シ之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ知德ノ增進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、聽方、讀方及解釋、話方及作文、書取、文法ノ大要竝ニ習字ヲ授クベシ

第十一條　數學ハ數量ニ關スル知識ヲ授ケ計算ニ習熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術、代數及幾何ヲ授ケ又三角法ヲ授クルコトアルベシ

第十二條　理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ人生ニ對スル關係及之ガ應用ヲ理解セシメ觀察、工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

理科ハ日常生活ニ關スル事項ノ理科的說明ヨリ始メ進ミテハ重要ナル植物、動物、鑛物ニ關スル一般ノ知識、人體ノ構造、生理及衞生ノ大要竝ニ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授クベシ

第十三條　實業ハ實業ニ關スル知識技能ヲ授ケ實際生活ヲ理解セシメ職業ノ尊重スベキ所以ヲ知ラシメ勤勉力行ノ氣風ヲ養フヲ以テ要旨トス

實業ハ農業、工業若ハ商業ヲ課シ又ハ之ヲ適宜分合シテ授クベシ

第十四條　圖畫ハ形象ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ技能ヲ得シメ工夫創作ノ力ヲ陶冶シ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫及用器畫トシ自在畫ニ於テハ寫生畫ヲ主トシ臨畫及考案畫ヲ加ヘ用器畫ニ於テハ主トシテ幾何畫ヲ授クベシ

第十五條　音樂ハ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ德性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌及簡易ナル重音唱歌ヲ授ケ又樂典ノ大要ヲ授クベシ

第十六條　作業科ハ作業ニ依リ勤勞ヲ尙ビ之ヲ愛好スルノ習慣ヲ養ヒ日常生活上有用ナル知能ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

作業科ハ園藝、工作其ノ他ノ作業ヲ課スベシ

第三學年以上ニ在リテハ作業科ニ於テ用器畫ヲ主トスル圖畫ヲ併セ課スルコトヲ得

第十七條　體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ姿勢ヲ端正ニシ身體ヲ强健ニシ且其ノ動作ヲ機敏ナラシメ快活、剛毅、堅忍持久ノ精神及規律ヲ守リ協同ヲ尙ブノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ體操、教練、劍道及柔道、游戲及競技ヲ授クベシ又弓道、水泳スキー、スケートヲ授クルコトアルベシ

第十八條　補習科ノ修業年限ハ一年以內トシ其ノ學科目ハ第二條第一項ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムベシ

補習科ノ各學科目ハ隨意科目又ハ選擇科目ト爲スコトヲ得

第十九條　豫科ノ修業年限ハ二年トス

豫科ノ學科目、教授ノ要旨及其ノ程度竝ニ每週教授時數ニ關シテハ小學校令第十九條竝ニ小學校令施行規則第一條乃至第十條、第十二條及第十七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ學科目ノ外外國語ヲ加フルコトヲ得

外國語ハ簡易ナル英語、獨語、佛語又ハ支那語トス

外國語ノ每週教授時數ハ三時トシ國語、圖畫、唱歌ノ每週教授時數各一時ヲ減ジテ之ニ充ツベシ

第二十條　豫科ノ教科書ニ關シテハ小學校令第二十四條第一項乃至第三項及小學校令施行規則第五十三條ノ規定ヲ準用ス

特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二十一條　生徒身體ノ情況ニ因リ學修スルコト能ハザル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セザルコトヲ得

第三章　學年、教授日數及式日

第二十二條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

前項ノ學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ得

學年ハ之ヲ分チテ三學期トス

補習科ニ關シテハ前三項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二十三條　教授日數ハ豫科及第一學年乃至第三學年ニ在リテハ每學年二百二十日以上トシ第四學年及第五學年ニ在リテハ每學年二百日以上トス但シ第二十四條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條　傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ事由アルトキハ地方長官ハ道府縣立以外ノ中學校ノ休業ヲ命ズルコトヲ得

第二十五條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒、學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フベシ

第四章　編　制

第二十六條　中學校ノ生徒數ハ八百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ增スコトヲ得

分校ノ生徒數ハ三百人以下トス

豫科ノ生徒數ハ第一學年ニ入學セシムベキ生徒數ヲ、補習科ノ生徒數ハ第五學年ヲ修了スベキ生徒數ヲ參酌シテ之ヲ定ムベシ

前項ノ生徒數ハ第一項ノ生徒數ニ算入セズ

第二十七條　學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スベシ

一　學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第二十八條　作業科、音樂、體操ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得實業ニ於ケル實習ノ場合亦同シ

第二十九條　分校ニハ豫科又ハ第四學年以上ノ生徒ヲ置クコトヲ得ズ

第三十條　教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級每ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル每ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ增スベシ但シ一學級每ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ネズ又他ノ職ヨリ兼ネザルコトヲ要ス

前項ノ教員數ノ外劍道及柔道ニ就キ教員一人以上ヲ增スベシ實業ヲ課スル場合亦同シ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ內第一項ノ教員數ヲ減ズルコトヲ得

第五章　設　備

第三十一條　中學校又ハ其ノ分校ニ於テハ學校ノ規模竝ニ學科組織ニ適應シ相當ナル校地、校舍、體操場、校具及其ノ他ノ必要ナル設備ヲ備フベシ

校地ハ道德上竝ニ衞生上害ナキ所タルベシ

校舍ハ教授上、管理上竝ニ衞生上適當ニシテ實朴堅牢ナランコトヲ要ス

第三十二條　中學校又ハ其ノ分校ニ於テ備フベキ表簿ノ種類概ネ左ノ如シ

一　中學校ニ關係アル法令

二　學則、日課表、教科用圖書配當表及學校醫視察簿

三　職員ノ名簿、履歷書、出勤簿竝ニ擔任學科目及時間表

四　生徒ノ學籍簿、出席簿、身體檢査ニ關スル表及兵役ニ關スル書類

五　入學考査及學業成績考査ニ關スル書類

六　資產原簿、出納簿及經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿竝ニ圖書、器械、器具、標本及模型ノ目錄

七　往復書類

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學、轉學及退學ノ年月日竝ニ其ノ學年、卒業ノ年月日及轉學竝ニ退學ノ事由、兵役關係、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スベシ

第一項ノ表簿中生徒學籍簿ハ十五年以上、其ノ他ノ表簿ハ五年以上之ヲ保存スベシ

第三十三條　土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クベシ

第三十四條　道府縣立以外ノ中學校ニ在リテハ校地ノ增減、校舍其ノ他ノ建物ノ建設又ハ變更ハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第六章　設置及廢止

第三十五條　中學校又ハ其ノ分校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スベシ

一　名稱

二　私立學校ニ在リテハ其ノ位置

三　學科及生徒定員

四　開校年月

五　學則

六　經費及維持ノ方法

公立學校ノ位置ハ地方長官ニ於テ認可ヲ申請スベシ

第一項第一號乃至第三號及前項ノ位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第一項第二號、第二項及第三項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ地形及面積、地質、建物ノ配置、屋外體操場ノ區域及面積、竝ニ附近ノ情況等ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定量分析表ヲ添付スベシ

第一項第四號ノ變更ハ豫メ之ヲ文部大臣ニ届出ヅベシ

第一項第五號ノ變更ハ遲滯ナク文部大臣ニ届出ヅベシ

第三十六條　中學校又ハ其ノ分校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スベシ

中學校ヲ廢止シタルトキハ三十日以內ニ第三十二條第一項第四號ノ生徒學籍簿ヲ地方長官ニ提出スベク地方長官ハ十五年以上之ヲ保存スベシ監督官廳ノ命令ニ依リ中學校ヲ閉鎖シタルトキ亦同ジ

第三十七條　公立中學校ノ費用負擔者若ハ私立中學校ノ設立者ヲ變更シ、私立中學校ヲ公立中學校ニ、公立中學校ヲ私立中學校ニ變更シ又ハ分校ヲ獨立ノ中學校ト爲サントスルトキハ第三十五條第一項ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クベシ但シ同條項中第二號及第四號ノ事項ハ此ノ限ニ在ラズ

第七章　入學、休學、退學及懲戒

第三十八條　生徒ヲ入學セシムベキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以內トス但シ缺員アルトキハ第二學期ノ始ヨリ十日以內ニ臨時入學セシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ補習科ノ生徒入學ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第五學年ニハ轉學又ハ當該學年ニ於テ退學シタル者ノ再入學ヲ除クノ外新ニ生徒ノ入學ヲ許スコトヲ得ズ

第三十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第一學年ノ入學ニ關シ尋常小學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一　他ノ中學校又ハ高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者

二　中學校ニ於テ行フ尋常小學校卒業ノ程度ニ依ル檢定ニ合格シタル者

前項ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ル者ハ年齡十二年以上ノ者タルベシ但シ尋常小學校第五學年ノ課程ヲ修了シ學業ノ成績優秀且身體ノ發育十分ニシテ中學校ノ課程ヲ修ムルニ足ルコトヲ當該學校長ニ於テ證明シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十條　豫科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校第四學年ノ課程ヲ修了シタル者又ハ年齡十年以上ニシテ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルベシ

第四十一條　第二學年以上又ハ豫科第二學年ニ入學ヲ許スベキ者ハ相當年齡ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルベシ

前項ノ入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スベシ

第四十二條　中學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一年以內ニ於テ中學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十三條　他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ其ノ生徒ノ在學證明書及成績表ヲ移轉先學校ニ送附シ移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限リ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第四十四條　各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考査シテ之ヲ定ムベシ

第四十五條　學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セザル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ズ

第四十六條　學校長ハ中學校ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ、豫科ヲ修了セリト認メタル者ニハ修了證書ヲ授與スベシ

第四十七條　補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者タルベシ

學校長ハ補習科ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第四十八條　學校長ハ兵役ニ服スル生徒ニ對シテハ其ノ期間休學ヲ許可スベシ

第四十九條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命ズベシ

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三　引續キ一年以上缺席シタル者

四　正當ノ事由ナクシテ一月以上缺席シタル者

五　出席常ナラザル者

第五十條　生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クベシ

第五十一條　學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第八章　雜則

第五十二條　學則中ニ規定スベキ事項概ネ左ノ如シ

一　學年、學期及休業日ニ關スル事項

二　學科課程、教授時數ニ關スル事項

三　課程ノ選修ニ關スル事項

四　課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

五　生徒ノ入學、退學、休學、懲戒ニ關スル事項

六　授業料、入學料等ニ關スル事項

七　寄宿舍ニ關スル事項

第五十三條　道府縣立以外ノ中學校ニ關シ文部大臣ニ提出スベキ文書ハ地方長官ヲ經由スベシ

前項ノ文書中、學校ノ設置及廢止ニ關スル申請其ノ他重要ト認ムル事

項ニ就テハ地方長官ハ其ノ意見ヲ具スベシ

第五十四條　本令中、學校長トアルハ私立學校ニ在リテハ其ノ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ包含ス

附　則

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スベキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ本令ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

實業、作業科ハ本令施行後五年以内之ヲ缺クコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ實業、作業科ヲ缺キタル學校ニシテ之ヲ置クニ至リタル際現ニ在學スル生徒ニ課スベキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ第二項ノ例ニ依ル

第三項ノ規定ニ依リ實業、作業科ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ教授時數ハ適宜之ヲ他ノ學科目ニ配當スベシ

○昭和十一年文部省令第六號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○中學校令施行規則改正ノ要旨及施行上注意事項

（昭和六年一月二十日　文部省訓令第二號）

北海道廳府縣

今般文部省令第二號ヲ以テ中學校令施行規則ヲ改正セリ

現行中學校令施行規則ハ明治三十四年ノ制定ニ係リ公布以來年ヲ閲スルコト既ニ三十年其ノ間時勢ノ進歩ニ伴ヒ一部ノ改正ヲ施スコト數回ニ及ベリト雖其ノ教育ノ實際ハ高等普通教育ノ本義ニ照シテ尚遺憾ノ點尠カラズ即チ中學校ノ教育ガ往々ニシテ高等教育ヲ受ケントスル者ノ豫備教育タル舊時ノ遺風ヲ脱セズシテ上級學校入學ノ準備ニ流レ爲ニ動モスレバ人格ノ修養ヲ等閑ニ附シ且實際生活ニ適切ナラザルノ嫌アリ而シテ中學校ハ年ヲ逐ヒテ增設セラレ今ヤ校數五百五十餘生徒數三十四萬餘ニ達シ之ヲ中學校令施行規則制定當時ノ二百四十餘校八萬八千餘人ニ比較スルトキハ近時ニ於ケル普及ノ跡顯著ナルモノアルヲ知ルニ足ラン更ニ中學校生徒卒業後ノ情況ニ關シ之ヲ最近十年間ノ資料ニ徵スルニ卒業後直ニ上級學校ニ入學スル者ハ年々約三分ノ一ニ過ギズシテ其ノ大部分ハ卒業ト共ニ社會ノ實務ニ當ルノ情態ナリ然レバ中學校ハ廣ク社會ノ各方面ヨリ將來ヲ異ニスル多數ノ生徒ヲ收容スルモノト見ルヲ得ベシ然ルニ現行制度ノ如ク多數ノ學科目ヲ掲ゲ總テノ生徒ヲシテ一樣ニ之ヲ學修セシメ其ノ性能、趣味、志望、土地ノ情況等ニ依リテ斟酌スルノ餘地極メテ少キガ如キハ頗ル實情ニ適合セザルモノト認メ今回中學校令施行規則ニ改正ヲ加ヘテ中學校ニ於ケル高等普通教育ノ本旨ヲ明ニシ且其ノ學科課程ヲ改善シ以テ中學校教育ノ職能ヲ全カラシメンコトヲ期シタルモノナリ茲ニ其ノ改正ノ要旨及施行上特ニ注意ヲ要スル事項ノ大要ヲ示サントス

一　中學校教育ノ要旨ヲ明ニシタルコト

中學校ガ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ施スモノタルコトハ中學校令ノ示ス所ナレドモ實際ニ於テハ前述ノ如ク往々ニシテ其ノ本旨ニ副ハザルモノアルノ實情ニ鑑ミ今回新ニ生徒教養ノ要旨ヲ規定シ中學校ニ於テハ中學校令ノ旨趣ニ基キ小學校教育ノ基礎ニ據リ一層高等ノ程度ニ於テ道德教育及國民教育ヲ施シ生活上有用ナル普通ノ知能ヲ養ヒ且體育ヲ行フベキモノタルコトヲ明ニシ又生徒教養上特ニ主力ヲ注グベキ事項ヲ列擧スルコトトナセリ

二　高學年ニ於テ第一種及第二種ノ兩課程ヲ編制シ其ノ一課程ヲ選修セシムルコト

中學校ノ學科目ハ之ヲ基本科目ト增課科目トノ二類ニ分テリ基本科目ハ高等普通教育トシテ共通ニ必要ナル知識技能ヲ授クルモノニシテ增課科目ハ生徒ノ性能、趣味、志望、土地ノ情況等ニ依リテ適當ニ選擇履修セシムルモノトス隨ツテ基本科目ハ各生徒ヲ通ジテ必ズ一樣ニ學修セシメ增課科目ハ第四學年以上ノ學年ニ於テ課スルコトトナシ學校ニ於テ適宜增課スベキ學科目ヲ選定シ之ヲ基本科目ト組合セテ第一種及第二種ノ兩課程ヲ編制シ生徒ヲシテ何レカ其ノ一課程ヲ選修セシムルコトトナシタリ尚第三學年ヨリモ本規定ヲ適用シテ第一種及第二種ノ兩課程ヲ編制スルヲ得ルコトトナセリ

低學年ニ於テ基本科目ノミニ付一樣ノ學科課程ヲ定メ之ヲ必修セシムルコトトナシタルハ主トシテ生徒ノ心理的發達ヲ考慮シタル結果ナレドモ同時ニ此ノ期間ニ於テ生徒ヲシテ自ラ其ノ性能、趣味等ヲ覺ラシメ又學校當事者及生徒保護者ヲシテ其ノ觀察ニ基キ高學年ニ於ケル課程ノ選擇竝ニ其ノ學修ヲ有效適切ニ指導セシメンガ爲ナリ

右ニ述ベタルガ如ク高學年ニハ第一種及第二種ノ兩課程ヲ併セ置クヲ本體トスレドモ特別ノ事情アル場合ニハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第一種課程又ハ第二種課程ノミヲ設クルヲ得シムルコトトナセリ是レ地方ノ情況又ハ學校ノ事情ニ依リ兩課程中其ノ一ヲ設クルノ必要ナキ場合又ハ兩課程ヲ同時ニ設クルノ困難ナル場合等ノ存スルコトナキヲ保シ難キニ因ルナリ

三　學科目及其ノ内容ニ改正ヲ施シタルコト

學科目ニ就テハ社會ノ趨勢ト學校教育ノ實情トニ鑑ミ改正ヲ施シタル所尠カラズ

從來ノ法制及經濟ハ其ノ教授ガ概シテ法制及經濟ノ專門的知識ヲ授クルニ傾キ實際生活ニ適切ナラザル嫌アリシニ鑑ミ今回之ヲ改シ新ニ公民科ヲ設ケテ立憲自治ノ國民トシテ必要ナル教養ヲ與フルコトトナセリ公民科ニ於テハ法制上、經濟上及社會上ノ事項ニ關シ之ガ事實的說明ヲナシ以テ道義ニ歸結セシムルヲ旨トシ修身、國語、歷史、地理、實業等ノ諸學科目ト聯絡裨補シテ其ノ教授ノ效果ヲ全ウセンコトヲ期スベキノミナラズ訓練ト相待チテ公民的德操ノ涵養ニ力ムベキナリ修身ト公民科トハ各獨立ノ學科目トナシタルモ兩學科目ハ極メテ密接ナル關係アルモノナルヲ以テ修身ヲ兼ネ修メテ之ガ知識ノ豐富ナル教員ヲシテ公民科ノ教授ニ當ラシムルハ極メテ望マシキコトニ屬ス

新ニ作業科ヲ設ケ園藝、工作、其ノ他ノ作業ヲ課シ勤勞ヲ尙ビ之ヲ愛好スルノ習慣ヲ養ヒ且日常生活上有用ナル知能ヲ與フルコトトナセリ蓋シ勤勞ノ尊重スベキハ輓近ノ世態ニ照シ學生、生徒ノ氣風ニ顧ミ特ニ之ガ必要ヲ認ムル所ナリ是レ作業科ヲ以テ基本科目トナシ將來ノ職業如何ニ拘ラズ總テノ生徒ニ必修セシムルコトトナシタル所以ナリ但シ實業中農業又ハ工業ニ於テ實質上相當ノ作業ヲ課シ得ル場合ニ在リテハ第一種課程ニ於テ作業科ヲ缺キ其ノ教授時數ハ之ヲ作業科以外ノ學科目ニ配當ス

ルヲ得シムルコトトナセリ

從來ノ博物、物理及化學ハ之ヲ綜合シテ理科トナセリ是レ理科ニ於テハ必ズシモ專門的學術ノ體系ニ泥ムコトナク實際生活上有用ナル理科的知能ヲ與フルヲ旨トシ一般理科ヨリ始メ進ンデ博物的事項、物理的事項及化學的事項ヲ課シ又應用理科ヲ授クルニ適セシメンガ爲ナリ而シテ其ノ教授ニ當リテハ殊ニ觀察實驗ニ重キヲ置キテ實際生活ニ裨益スル所多カラシメンコトヲ期スベシ

實業ハ從來之ヲ缺キ又ハ隨意科目ト爲スヲ得ルコトトナセルヲ改メ第一種課程ニ於テ之ヲ必修セシムルコトトナシ且其ノ教授時數ヲ增加セリ是レ今回ノ改正中重要ナルモノノ一ナリ抑モ中學校ニ於テ實業ヲ課スルハ普通教育ノ一事項トシテ實業ニ關スル常識ヲ養ヒ實際生活ヲ理解セシメ職業ノ尊重スベキ所以ヲ會得セシムルト共ニ勤勉力行ノ氣風ヲ養フコトヲ旨トシ實業學校ニ於クルガ如ク實業ヲ專門的ニ授クルノ趣旨ニアラザルモ將來實務ニ就カントスル者ノ爲ニハ極メテ適切有用ナル修業タルヲ失ハズ中學校卒業ノ後社會ノ實務ニ就ク者年ト共ニ多キヲ加フルノ傾向アルニ顧ミ中學校ニ實業ヲ必修セシムル課程ヲ設クルハ洵ニ適切ナル施設ナレバ其ノ運用宜シキヲ得ンコトヲ希望ス尙實業ニ於テハ農業、工業若ハ商業ヲ課シ又ハ適宜之ヲ分合シテ教授事項ヲ定ムベキモノトナシタルハ教材畫一ノ弊ニ陷ルコトナク克ク地方ノ情況ニ應ジテ適切ナル事項ヲ教授セシメンコトヲ期シタルガ爲ナリ

外國語ニ於テハ從來英語、獨語又ハ佛語ヲ課セシガ今回外國語ノ中ニ支那語ヲ加ヘタリ是レ我ガ國ト中華民國トノ關係頗ル密接ナルニ鑑ミ中學校教育ヲシテ實際生活ニ有用ナルモノタラシムルノ趣旨ニ依リ支那語ノ學修ヲ必要トスル地方ニ於テハ之ヲ課シ得ルノ途ヲ開キタルナリ

從來ノ唱歌ハ之ヲ音樂ト改メ基本科目トシテ必修セシムルコトトナシ其ノ課程ニ樂典ノ大要ヲ加ヘタリ是レ音樂ニ依ル情操教育ノ重ンズベキモノアルヲ認メタルガ爲ナリ而シテ之ガ教授ニ當リテハ特ニ歌曲ノ選定ニ留意シテ國民性ノ陶冶ニ資センコトヲ要ス

劍道及柔道ハ之ヲ體操中ニ於テ必修セシムルコトトナセリ是レ劍道及柔道ガ我ガ國固有ノ武道ニシテ實質剛健ナル國民精神ヲ涵養シ心身ヲ鍛練スルニ適切ナルヲ認メタルガ爲ニシテ兩者又ハ其ノ一ヲ必修セシメントス

生徒ノ自發的研究ヲ奬勵シ之ヲ指導スルハ教育ノ要務ナリ之ヲ以テ生徒ヲシテ其ノ性能、趣味、境遇、志望等ニ應ジテ自由ニ研究スル所アラシメ且之ニ對シテ適當ナル指導ヲ施サンガ爲ニ所定ノ教授時數外ニ於テ每週二時以內ヲ課程外ノ指導ニ充ツルヲ得ルコトトナセリ

學科目ノ教授內容ニ就テ改正ヲ加ヘタル點夥カラズ其ノ主要ナルモノヲ擧グレバ從來ニ比シ一層國民精神ヲ涵養センガ爲修身ニ於テ國體觀念ヲ明徵ナラシメ道德的信念ヲ鞏固ニシ穩健中正ナル人世觀ヲ抱カシメンコトヲ期シ國語漢文ニ於テ國民性ノ涵養ニ資スベキ材料ヲ多カラシメ歷史ニ於テ外國歷史ヲ稍簡略ナラシメテ國史ヲ一層精深ニシ地理ニ於テ外國地理中特ニ政治、經濟、產業、交通等ニ關シ我ガ國ト密接ノ關係アル地方ヲ詳ニシテ國民的自覺ヲ促スニ資スルコトトナシタリ又各學科目ヲ通ジテ教授ナシテ實際生活ニ適切有用ナラシムルト共ニ心力ノ啓培ニ力メシメンコトヲ期セリ

以上ハ今回改正ノ主要ナル事項ニシテ之ヲ要スルニ時勢ノ進運ニ應ジ中學教育ノ內容ヲ改善シ高等普通教育ノ本旨ヲ貫徹シ以テ健全有爲ナル國民ヲ養成セシメントスルニ在リ而シテ改正ノ趣旨ニ依リ改善ノ實ヲ擧ゲンコトハ教育ニ當ル者ノ研鑽ト努力トニ俟タザルヲ得ズ殊ニ今回ノ改正ニ於テハ增課科目ノ選擇、兩種課程ノ編制、生徒ノ課程選修ノ指導等教職員ノ考究裁量ニ俟ツモノ甚多シ地方長官ハ克ク改正ノ趣旨ヲ體シ學校當事者ヲ奮勵シ以テ中學教育改善ノ實績ヲ擧ゲンコトヲ期セラルベシ

○中學校教授要目

（昭和六年二月七日
文部省訓令第五號）

北海道廳　府　縣

明治四十四年文部省訓令第十五號中學校教授要目左ノ通改正ス地方長官ハ各學校長ヲシテ本改正要目ニ準據シ地方ノ情況ニ適切ナル教授細目ヲ定メシメ以テ各學科目教授ノ內容ヲ充實シ克ク中學校教育ノ本旨ヲ貫徹セシメンコトヲ期セラルベシ

中學校教授要目（略ス）

○高等學校高等科入學資格試驗規程

（大正八年三月二十九日
文部省令第九號）

（改正）　大一五年文部省令七號、昭一〇年一五號

第一條　高等學校規程第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試驗ヲ受ケントスル者ハ年齡滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全、品行方正且現ニ中學校ニ在學セサル者タルヘシ

第二條　高等學校高等科入學資格試驗ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條　試驗ハ中學校第四學年迄ノ學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ實業、音樂、作業科及體操ハ之ヲ除ク

第四條　專門學校入學者檢定規程第七條第二項又ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ヲ有スル者ニシテ試驗ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス專門學校入學者檢定規程第八條ニ依リ試驗ヲ免除セラルル者ニ付亦同シ

第五條　中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スヘシ

第六條　高等學校高等科入學資格試驗ノ問題、答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第七條　中學校ニ於テハ本令ノ試驗ニ付試驗手數料ヲ徵收スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十五年文部省令第七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等學校高等科入學資格試驗施行ニ關スル手續ヲ開始シタルモノニ在リテハ當該試驗ニ關シ仍從前ノ例ニ依ル

○高等學校高等科入學資格試驗ヲ行フ中學校

（大正八年四月十日文部省告示第百號）

（改正）大一三年文部省告示三七六號

高等學校高等科入學資格試驗規程第二條ニ依リ高等學校高等科入學資格試驗ヲ行フ中學校左ノ通定ム

一官立、公立ノ中學校

○高等學校高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年修了者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ指定

（大正八年四月十日文部省告示第百一號）

（改正）大九年文部省告示三〇五號、四一三號、大一〇年三五號、三五五號、四五三號、大一一年三一號、三一〇號、大一三年二八六號、大一四年三五四號、大一五年三八三號、昭二年八〇號、昭九年九號

高等學校規程第四十三條第一項第四號ニ依リ高等學校高等科ノ入學ニ關シ左記ノ者ヲ中學校第四學年修了者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定ス

一學習院中等科及元中等學科第四學年修了者

一陸軍幼年學校卒業者但シ大正十一年三月以後ノ卒業者ニ限ル

一東京府　私立明治學院中學部第四學年修了者

一東京府　私立青山學院中學部第四學年修了者

一東京府　私立曹洞宗第一中學林第四學年修了者

一東京府　私立天台宗中學第四學年修了者

一東京府　立正中學及元中等科第四學年修了者

一東京所　私立慶應義塾普通部第四學年修了者但シ明治三十九年三月以後ノ修了者ニ限ル

一東京府　私立東京學院元中學部第四學年修了者

一京都府　私立眞宗京都中學第四學年修了者

一京都府　私立同志社中學第四學年修了者

一京都府　私立眞言宗京都中學第四學年修了者

一京都府　私立花園學院第四學年修了者

一京都府　聖峰中學第四學年修了者但シ大正十年三月以後ノ修了者ニ限ル

一京都府　紫野中學第四學年修了者

一京都府　兩洋中學第四學年修了者但シ大正十三年三月以後ノ修了者ニ限ル

一大阪府　元私立淨土宗第六教區第七教區聯合教校第四學年修了者

一神奈川縣　中學關東學院第四學年修了者

一兵庫縣　私立關西學院中學部第四學年修了者

一長崎縣　私立中學東山學院第四學年修了者

一長崎縣　私立鎭西學院中學部第四學年修了者

一新潟縣　私立有恒學舍本科第四學年修了者

一千葉縣　明倫中學第四學年修了者但シ大正十六年三月以後ノ修了者ニ限ル

一三重縣　高田中學第四學年修了者

一愛知縣　私立曹洞宗第三中學林第四學年修了者

一滋賀縣　私立天台宗比叡山中學第四學年修了者但シ大正三年三月以後ノ修了者ニ限ル

一宮城縣　私立東北學院中學部第四學年修了者

一宮城縣　私立曹洞宗第二中學林第四學年修了者

一靑森縣　東奥義塾第四學年修了者但シ大正十五年三月以後ノ修了者ニ限ル

一兵庫縣　元私立武庫佛教中學第四學年修了者

一山口縣　私立曹洞宗第四中學林第四學年修了者

一和歌山縣　私立眞言宗高野山中學第四學年修了者

一熊本縣　私立九州學院第四學年修了者但シ大正五年三月以後ノ修了者ニ限ル

一福岡縣　私立中學西南學院第四學年修了者

一朝鮮　高等普通學校補習科第一學年修了者

○高等學校令

（大正七年十二月六日勅令第三百八十九號）

第一條　高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニ力ムヘキモノトス

第二條　高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス

第三條　高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス

第四條　私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第六條　公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條　高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第九條　高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得

其ノ修業年限ハ一年トス

專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得

專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條　高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

高等學校豫科ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條　高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十二條　高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條　高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以內尋常科三百二十人以內トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以內トス

第十四條　高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以內トス

第十五條　高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條　高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條　高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條　公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條　文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條　本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用カルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ內第十三條ノ規定ヲ適用セス

高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

○高等學校規程

（大正八年三月二十九日文部省令第八號）

（改正）　大九年文部省令第四號、大一四年一七號、昭二年一八號、二八號、昭四年三二號、昭六年七號、昭一〇年一九號

第一章　學科課程及教科書

第一節　尋常科

第一條　尋常科ノ學科目ハ修身、公民科、國語漢文、外國語、歷史、地理、數學、理科、圖畫、音樂、作業科、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二條　各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	一	一	一	一
公民科			一	一
國語漢文	七	七	六	六
外國語	六	七	六	六
歷史	三	三	三	三
地理				
數學	四	四	四	四
理科	二	二	四	五
圖畫	一	一	一	一
音樂	一	一		
作業科	一	一	一	一
體操	五	五	五	五
計	三一	三二	三二	三三

作業科、圖畫、音樂等ノ實習及體操ハ前表ノ教授時數ヲ適宜增加シテ之ヲ課スルコトヲ得

第三條　中學校ノ學科目ノ程度ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ハ尋常科ニ關シ之ヲ準用ス

第二節　高等科

第四條　高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概說、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、鑛物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條　修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奬スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務竝人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條　國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智德ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文竝普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條　外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智德ノ增進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘ

シ

第八條　歷史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歷史ハ日本歷史、東洋歷史及西洋歷史ヲ授クヘシ

第九條　地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ知識ヲ授クヘシ

第十條　哲學概說ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

哲學概說ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

第十一條　心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛練セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第十二條　數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、立體幾何、三角法、初等解析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條　自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條　物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條　植物及動物、鑛物及地質ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

鑛物及地質ハ鑛學ノ産狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル知識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條　法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條　圖畫ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條　體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尚フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道、柔道及弓道ヲ加フルコトヲ得

第十九條　女科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ル

ヘシ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	二九(三二)	二九(三二)	二八(三二)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	三一(三四)	三一(三四)	三〇(三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第二十條　理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四(一)
物理	三	三 講義二 實驗二	五
化學	三	三 講義二 實驗二	五
植物及動物	二	二 講義一 實驗二	四

礦物及地質			二
心理		二	
法制及經濟	二		
圖畫	二	二	(二)
體操	三	三	三
計	二八 (三二)	二八 (三二)	二八 (三二)

第三學年ノ數學(二)及圖畫(二)ト第三學年ノ植物及動物(講義二實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	三〇 (三三)	三一 (三四)	三一 (三四)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第三節　專攻科

第二十一條　專攻科ノ學科目ハ左ノ學科目中ヨリ便宜選擇シテ之ヲ定ムヘシ

國語、漢文、支那時文、外國語、史學、哲學、倫理學、社會學、法律學、政治學、經濟學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、礦物學、地質學、天文學、氣象學、應用化學、機械工學、實業ニ關スル科目等

第四節　教授上ノ注意

第二十二條　高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ意留シテ教授センコトヲ要ス

各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節　教科書

第二十三條　高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章　學年、教授日數及式日

第二十四條　學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條　教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上、高等科ニ在リテハ每學年二百日以上、專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條、傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章　編　制

第二十八條　尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス

高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十九條　公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員數ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ但シ兼任教員ハ教員數ノ半數ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十條　公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道、柔道又ハ弓道ノ教授ヲ擔任スル教員ハ前條ノ定數外トス

第四章　設　備

第三十一條　高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條　校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衞生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條　校舍ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本室等ヲ備フヘシ

校舍ハ教授上、管理及衞生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條　校具ハ教授上必要ナル圖畫、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條　高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

一　學則、日課表及教科用圖書配當表
二　職員ノ名稱及履歷書竝擔任學科目及時間表
三　生徒學籍簿、出席簿、身體檢査ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵猶豫ニ關スル書類
四　試驗ノ問題、答案及成績表
五　資產原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第五章　設立及廢止

第三十六條　公立又ハ私立ノ高等學校ノ設立ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一　名　稱
二　高等學校令第七條ノ事項
三　學　則
四　各科ノ生徒定數
五　位置及校地
六　校舍ノ圖面及建設ノ設計
七　開校ノ期日
八　經費及維持ノ方法

前項第五號ニ關シテハ校地ノ地質及面積竝附近ノ情況ヲ記載シタル圖

而及飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

第一項各號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條　公立又ハ私立ノ高等學校ノ廢止ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第六章　入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條　生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第三十九條　當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ尋常科ニ入學セシムヘシ

第四十條　他ノ高等學校又ハ中學校ノ豫科ヲ修了シタル者及高等學校ニ於テ國語、算術、國史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ行フ檢定ニ合格シタル者ハ尋常科ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

第四十一條　尋常科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ

第四十二條　當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ高等科ニ入學セシムヘシ

第四十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一　他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者

二　高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者

三　專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者

四　文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

五　文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

前項ノ資格試驗ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條　當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ入學前ニ於ケル學業成績ト中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ行フ試驗ノ成績トヲ併セ考査シテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ試驗ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

前項ノ考査ノ外必要アリト認ムルトキハ入學志願者ニ對シテ人物考査ヲ行フコトヲ得

第四十五條　高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ身體檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ限リ入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條　高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條　高等學校生徒ニシテ學籍ヲ失ヒタル者其ノ學籍ヲ失ヒタル時ヨリ二年以内ニ再入學ヲ志願シタルトキハ銓衡ノ上當該學年又ハ翌學年ノ學年ノ始ヨリ三十日以内ニ於テ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十八條　高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第四十九條　高等學校尋常科ト中學校トノ相當學年相互ノ間ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第五十條　高等學校尋常科各學年ノ課程又ハ全學科ノ修了ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

高等學校高等科各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業成績ノミヲ考査シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試驗ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條　學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條　學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ、專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書ヲ、尋常科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條　學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三　引續キ一年以上缺席シタル者

四　正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五　出席常ナラサル者

第五十五條　生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條　學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章　豫科

第五十七條　高等學校ノ豫科ニ關シテハ中學校ノ豫科ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第八章　雜則

第五十八條　高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一　學年、學期及休業日ニ關スル事項

二　學科課程、教授時數ニ關スル事項

三　課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四　生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五　授業料、入學料等ニ關スル事項

第五十九條　私立ノ高等學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等學校大學豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテニ卒業セサルヘキモノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入ス

高等中學校規程、明治四十一年文部省令第九號、高等學校大學豫科入學者無試驗檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ハ之ヲ廢止

ス

○大正九年文部省令第四號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十四年文部省令第十七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和二年文部省令第十八號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和四年文部省令第三十二號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和六年三月文部省令第七號附則

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ本令ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

作業科ハ本令施行後五年以内之ヲ缺クコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ作業科ヲ缺キタル學校ニシテ之ヲ置クニ至リタル際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ第二項ノ例ニ依ル

第三項ノ規定ニ依リ作業科ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ教授時數ハ適宜之ヲ他ノ學科目ニ配當スヘシ

○昭和十年文部省令第十九號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三章　高等女學校

○高等女學校令

（明治三十二年二月八日　勅令第三十一號）

（改正）明四〇年勅令二八一號、明四三年四二四號、大九年一九九號

第一條　高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ養成ニ力メ婦德ノ涵養ニ留意スヘキモノトス

第二條　北海道及府縣ニ於テハ高等女學校ヲ設置スヘシ

第三條　前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第四條　郡市町村（北海道及沖繩市町村學校組合及町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限リ）高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條　（削除）

第六條　私人ハ本令ノ規定ニ依リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條　高等女學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　高等女學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條　公立高等女學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十條　高等女學校ノ修業年限ハ五箇年又ハ四箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ三箇年トスコトヲ得

第十一條　高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

修業年限三箇年ノ高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

第十條ノ二　高等女學校ニ於テハ高等科、專攻科又ハ補習科ヲ置クコトヲ得

第十條ノ三　高等科ハ精深ナル程度ニ於テ高等普通教育ヲ爲スモノトス

專攻科ハ精深ナル程度ニ於テ高等女學校ノ學科目中一科目又ハ數科目ヲ專攻セシムルモノトス

第十條ノ四　高等科及專攻科ノ修業年限ハ二箇年又ハ三箇年トス

第十條ノ五　修業年限三箇年ノ高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

修業年限二箇年ノ高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年限五箇年若ハ三箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

第十條ノ六　專攻科及補習科ニ關スル規則ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外文部大臣之ヲ定ム

第十一條　高等女學校ニ於テハ主トシテ家政ニ關スル學科目ヲ修メムトスル者ノ爲ニ實科ヲ置キ又ハ實科ノミヲ置クコトヲ得

實科ノミヲ置ク高等女學校ノ名稱ニハ實科ノ文字ヲ冠スヘシ

前項ノ高等女學校ニハ第十條ノ二中高等科又ハ專攻科ニ關スル規定ヲ適用セス

第十一條ノ二　實科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者、高等小學校第一學年ヲ修了シタル者若ハ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

第十一條ノ三　實科ノ修業年限ハ左ノ例ニ依ルヘシ但シ第三號ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ延長スルコトヲ得

一　尋常小學校卒業程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ四箇年

二　高等小學校第一學年修了程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ三箇年

三　修業年限二箇年ノ高等小學校卒業程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ二箇年

第十一條ノ四　修業年限二箇年ノ實科高等女學校ノ設置ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　高等女學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條　高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

高等女學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條　高等女學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等女學校教員ノ免許ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十五條　（削除）

第十六條　高等女學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條　公立高等女學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ノ額ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條ノ二　第二條ノ規定ニ依ラサル學校ハ實科高等女學校ニ之ヲ適用セス

第十八條　本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ高等女學校ト稱スルコトヲ得ス

第十九條　本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附　則

第二十條　本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ日ヨリ四箇年以內第二條ノ設置ヲ延期スルコトヲ得

○四十年勅令第二百八十一號附則

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

修業年限三箇年ノ高等女學校ハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業ニ至ル迄仍之ヲ存續スルコトヲ得

修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ第十條施行後ト雖仍從前ノ例ニ依ル

○四十三年勅令第四百二十四號附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ技藝專修科ニ在學スル者ノ卒業ニ至ル迄ハ技藝專修科ヲ存置スルコトヲ得

○高等女學校令施行規則

（明治三十四年三月二十二日　文部省令第四號）

（改正）明三七年文部省令四號、明四一年二〇號、三一號、明四三年二三號、大二年四號、二一號、大四年六號、大九年一五號、大一三年二七號、大一五年二五號、昭二年二二號、二七號、昭七年五號、昭八年一九號、昭一一年七號

第一章　學科及其ノ程度

第一條　高等女學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、外國語、歷史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トス

外國語ハ英語又ハ佛語トス

外國語ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目トナスコトヲ得

圖畫、音樂ノ一科目又ハ二科目ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺カコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ第一項ノ學科目ノ外教育、手藝又ハ實業ヲ加ヘ其ノ他文部大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル學科目ヲ加フルコトヲ得

前項ノ學科目ハ之ヲ隨意科目又ハ選擇科目トナスコトヲ得

生徒身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得

第一條ノ二　高等女學校ニ於テハ高等女學校令第一條ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ養成、婦德ノ涵養ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第二條　修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於ケル女子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメンコトヲ期シ實踐躬行ヲ勸奬スルヲ以テ要旨トス

修身ノ初ハ嘉言善行等ニ徵シ又生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル責務ヲ知ラシムヘシ

第二條ノ二　公民科ハ國民ノ政治生活、經濟生活並ニ社會生活ヲ完フスルニ足ルヘキ知德ヲ涵養シ殊ニ遵法ノ精神ト共存共榮ノ本義トヲ會德セシメ公共ノ爲ニ奉仕シ協同シテ事ニ當ルノ氣風ヲ養ヒ以テ善良ナル立憲自治ノ民タルノ素地ヲ育成スルヲ以テ要旨トス

公民科ハ憲政自治ノ本義ヲ明ニシ日常生活ニ適切ナル法制上、經濟上並ニ社會上ノ事項ヲ授クヘシ

第三條　國語ハ普通ノ言語、文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ兼テ智德ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語ハ現時ノ文章ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ文章ニ及ホシ又實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要及習字ヲ授クヘシ

第四條　外國語ハ普通ノ英語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ智識ノ增進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

第五條　歷史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化ノ由來ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス

歷史ハ我國ノ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事歷ヲ授ケ兼テ外國歷史ノ大要ヲ授クヘシ

第六條　地理ハ地球ノ形狀、運動竝ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理竝ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ兼テ地文ノ一班ヲ授クヘシ

第七條　數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ生活上必要ナル事項ヲ知ラシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術ヲ授クヘシ又必要ニ應シ代數及幾何ヲ授クルコトヲ得

第八條　理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則竝ニ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ兼テ日常ノ生活ニ資スルヲ以テ要旨トス

理科ハ重要ナル植物、動物、鑛物ニ關スル一般ノ知識、人體ノ構造、生理及衛生ノ大要竝ニ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授ケ又便宜實驗ヲ課スヘシ

第九條　圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫トシ寫生畫ヲ主トシ臨畫ヲ加ヘ授ケ又時々自己ノ考案ヲ以テ畫カシムヘシ

前項ノ外幾何畫ノ初步ヲ授クルコトヲ得

第十條　家事ハ家事整理上必要ナル智識技能ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密、清潔ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、看病、育兒、家計簿記其ノ他一家ノ整理、經濟等ニ關スル事項ヲ授ケ又實習ヲ課スヘシ

第十一條　裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方及繕ヒ方ヲ授クヘシ

第十二條　音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ德性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌ヲ授ケ又便宜輪唱歌及複音唱歌ヲ交ヘ樂器使用法ヲ授クヘシ

第十三條　體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ之ヲ强健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ容儀ヲ整ヘ精神ヲ快活ニシ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ體操、教練、遊戲及競技ヲ授クベシ又弓道、薙刀、水泳、スキー、スケートヲ授クルコトヲ得

第十四條　教育ハ教育ニ關スル一般ノ知識ヲ得シメ特ニ家庭ニ於ケル女子教養ノ道ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

教育ハ兒童心理ノ大要、身體養護及知德陶冶ノ概說、家庭教育ト學校教育及社會教育トノ關係ヲ授クヘシ

第十五條　手藝ハ手藝ニ關スル知識技能ヲ得シメ兼テ意匠ヲ練リ美感ヲ養ヒ節約利用ノ習慣ヲ造ルヲ以テ要旨トス

手藝ハ刺繍、造花、袋物、編物等ノ中ニ就キ適切ナル事項ヲ選擇シテ之ヲ授クヘシ

第十五條ノ二　實業ハ實業ニ關シ生活上必要ナル知識技能ヲ得シメ兼テ勤勞ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス

實業ハ農業、工業、商業ノ中ニ就キ當該地方ニ必要ニシテ且女子ニ適切ナル事項ヲ選擇シ又成ルヘク實習ヲ課スヘシ

第十六條　各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ其ノ修業年限ニ依リ甲號表、乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ

甲號表

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	二	二	二	一	一
公民科				一	一
國語	六	六	六	五	五
外國語	三	三	三	三	三
歷史					
地理	三	三	二	二	二
數學	二	二	三	三	三
理科	二	二	三	三	三
圖畫	一	一	一	一	
家事				二	四
裁縫	四	四	四	四	四
音樂	二	二	一	一	
體操	三	三	三	三	三
計	二八	二八	二八	二九	二九

乙號表

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	一	一
公民科			一	一
國語	六	六	五	五
外國語	三	三	三	三
歷史				
地理	三	三	二	二

丙號表

學年 / 學科目	第一學年	第二學年	第三學年
修身	二	二	一
公民科		一	一
國語	五	五	五
外國語	三	三	三
歷史			
地理	二	二	二
數學	二	二	三
理科	二	二	三
圖畫	一	一	一
家事			四
裁縫	四	四	四
音樂	二	二	一
體操	三	三	三
計	二八	二八	二九

甲號表

學年 / 學科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	一	一
公民科			一	一
國語	六	六	五	五
歷史				
地理	二	二	二	
數學	二	二	二	三
理科及家事	三	三	三	四
裁縫	八	八	八	八
圖畫	一	一	一	
唱歌	一	一	一	
實業			二	四
體操	三	三	三	三
計	二八	二八	二九	二九

第十六條ノ二　特別ノ事情アル場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ生徒ノ全部又ハ一部ニ對シ各學年ノ學科目及其ノ程度ニ付前條各表ニ依ラサルコトヲ得但シ甲號表及乙號表ニ依ル學校ノ第二學年以下ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　實科ノ學科目ハ修業年限四箇年ノモノ及三箇年ノモノニ在リテハ修身、公民科、國語、歷史、地理、數學、理科及家事、裁縫、圖畫、唱歌、實業、體操トシ修業年限二箇年ノモノニ在リテハ修身、國語、數學、家事、裁縫、圖畫、唱歌、實業、體操トス

圖畫、唱歌、實業ノ一科目又ハ數科目ハ之ヲ缺クコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ第一項ノ學科目ノ外教育又ハ手藝ヲ加ヘ其ノ他文部大臣ノ認可ヲ受ク必要ナル學科目ヲ加フルコトヲ得

實業及前項ニ依ル加設科目ハ之ヲ隨意科目又ハ選擇科目ト爲スコトヲ得

第十八條　第一條ノ二ノ規定ハ實科ニ關シ之ヲ準用ス

實科ノ學科目ハ第二條、第二條ノ二、第三條、第五條乃至第十五條ノ二ノ規定ニ準據シテ教授スヘシ

第十九條　實科ノ每週教授時數ハ其ノ修業年限ニ依リ甲號表、乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ但シ高等女學校令第十一條ノ三但書ニ依リ修業年限ヲ三箇年ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ學科目及每週教授時數ハ丙號表ニ準シ適宜之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

學年 / 學科目	第一學年	第二學年	第三學年
數學	二	二	二
理科	二	二	三
圖畫	一	一	一
家事			二
裁縫	四	四	四
音樂	二	二	一
體操	三	三	三
計	二八	二八	二九

學年 / 學科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
數學	二	二	二	二
理科	三	三	三	三
圖畫	二	二	一	
家事			二	四
裁縫	四	四	四	四
音樂	二	二	一	一
體操	三	三	三	三
計	二八	二八	二九	二九

外國語、圖畫又ハ音樂ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ便宜前各表中ノ學科目若ハ第一條第五項ニ依ル加設科目ニ配當スルコトヲ得

特別ノ事情アル場合ニ於テハ前各表中各學科目ノ每週教授時數ヲ增加シ又文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ減少スルコトヲ得

第一條第五項ニ依ル加設科目ニ充ツル爲各學年ノ每週教授時數ヲ增加スルコトヲ得

學校長ハ季節ニ依リ各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ增減セサル範圍內ニ於テ每週教授時數ヲ變更スルコトヲ得

各學年ノ每週教授時數ノ總計ハ三十一時ヲ超ユルコトヲ得ス

家事又ハ實業ノ實習及音樂ノ樂器使用法ハ前項ノ總教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

乙號表

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年	計
修身	二	一	一	二九
公民科		一	一	二九
國語	六	四	四	二九
歷史				
地理	二	二		
數學	二	二	二	
理科及家事	三	四	四	
裁縫	八	八	一〇	
圖畫	一	一		
唱歌	一	一		
實業		二	四	
體操	三	三	三	
計	二八	二九	二九	

丙號表

學科目＼學年	第一學年	第二學年	計
修身	一	一	二九
公民科	一	一	二九
國語	四	四	二九
數學	二	一	
家事	四	五	
裁縫	一〇	一〇	
圖畫	一		
唱歌	一		
實業	二	四	
體操	三	三	
計	二九	二九	

第二十六條　第二項乃至第七項ノ規定ハ實科ニ關シ之ヲ準用ス

第二十七條　高等科及專攻科ノ學科目竝ニ其ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十八條　補習科ノ修業年限ハ二箇年以內トス

補習科ノ學科目ハ第一條又ハ第十七條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ

補習科ノ各學科目ハ之ヲ隨意科目又ハ選擇科目ト爲スコトヲ得

第二十二條　高等科、專攻科及補習科ノ每週教授時數ノ總計ハ三十時ヲ超ユルコトヲ得ス

第二章　學年、教授日數及式日

第二十三條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

前項ニ依ル學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ得

前二項ノ規定ハ補習科ニ關シテハ之ヲ適用セス

第二十四條　教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十五條　傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ事由アルトキハ地方長官ハ道府縣立以外ノ高等女學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章　編制

第二十七條　高等女學校ノ生徒數ハ八百人以內トス但シ特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ增スコトヲ得

高等科ノ生徒數ハ四百八十人以內トス

高等科、專攻科及補習科ノ生徒數ハ第一項ノ生徒數ニ算入セス

第二十八條　學級ハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ但シ實科ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一學級ノ生徒數ハ五十人以內トス但シ高等科及專攻科ニ在リテハ四十人以內トス

第二十九條　音樂、體操、隨時科目及選擇科目ハ教授上支障ナキ場合ニ限リ學科、學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第三十條　教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級每ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル每ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ增スヘシ但シ高等科ニ在リテハ一學級每ニ二人以上ノ割合ヲ以テ之ヲ增スヘシ

前項ノ場合ニ於テ一學級每ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ネス又ハ他ノ職ヨリ兼ネサルコトヲ要ス但シ女子師範學校ニ併設ノ高等女學校ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アル場合ニ於テハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ內第一項ノ規定ニ依ル員數ヲ減スルコトヲ得

第三十條ノ二　高等科ノ教員ハ全數ノ二分ノ一以上ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校高等科教員免許狀又ハ師範學校專攻科竝ニ高等女學校高等科及專攻科教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス

第四章　設備

第三十一條　高等女學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及教具ヲ備フヘシ

道府縣立高等女學校ニ於テハ前項ノ外成ルヘク寄宿舍ヲ備フヘシ

第三十二條　校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ教育上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條　校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナラシコトヲ要ス

第三十四條　校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

第三十五條　高等女學校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

一　高等女學校ニ關係アル法令
二　學則、日課表、教科用圖書配當表及學校醫視察簿
三　職員ノ名簿、履歴書、出勤簿並ニ擔任學科目及時間表
四　生徒ノ學籍簿、出席簿及身體檢査ニ關スル表
五　入學考査、學業成績考査ニ關スル書類
六　資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書器械器具標本模型ノ目錄
七　往復書類

前項ノ表簿中生徒學籍簿ハ十箇年以上之ヲ保存シ其ノ他ノ表簿ハ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十六條　土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第三十七條　位置ノ變更ニアラサル校地ノ變更、校舍、寄宿舍ノ建設又ハ變更ハ道府縣立高等女學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ屆出ツヘク其他ノ高等女學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ屆出ツヘシ

第五章　設置及廢止

第三十八條　高等女學校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一　名稱
二　各學科ノ修業年限
三　各學科ノ生徒定員
四　開校年月
五　經費及維持ノ方法

前項ノ事項ノ外公立學校ニ就キテハ地方長官ニ於テ位置ノ認可ヲ申請シ私立學校ニ就キテハ設立者ニ於テ位置ヲ具シ申請スヘシ

第一項第一號乃至第四號及位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ第三號ノ變更ニシテ總定員ニ增減ヲ生セサル場合ニ於テハ文部大臣ニ屆出ツヘシ

前二項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域、面積並ニ附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

第三十九條　高等女學校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第四十條　公立高等女學校ノ費用負擔者又ハ私立高等女學校ノ設立者ヲ變更シ私立高等女學校ヲ公立高等女學校ニ公立高等女學校ヲ私立高等女學校ニ變更セントスルトキハ第三十八條第一項第一號乃至第三號第五號及變更ノ年月日ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十條ノ二　實科高等女學校ハ高等小學校ニ併設スルコトヲ得

前項ノ場合ニ限リ實科高等女學校ノ修業年限ヲ二箇年ト爲スコトヲ得

第六章　入學、在學、退學及懲戒

第四十一條　年齡十二年以上ニシテ國語、算術、國史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ高等女學校ニ於テ行フ檢定ニ合格シタル者ハ第一學年ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

第四十二條　高等小學校第一學年修了以上ノ程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル高等女學校ノ入學ニ關シテハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ實科ニ在リテハ前條ノ學科目ノ外裁縫ヲ加フ

第四十二條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ修業年限三箇年ノ高等科ノ入學ニ關シ修業年限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一　修業年限五箇年ノ高等女學校第四學年ヲ修了シタル者及修業年限三箇年ノ高等女學校第二學年ヲ修了シタル者
二　專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者
三　文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第四十二條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ修業年限二箇年ノ高等科ノ入學ニ關シ修業年限五箇年又ハ三箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一　修業年限三箇年ノ高等科第一學年ヲ修了シタル者
二　高等女學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者
三　文部大臣ニ於テ指定シタル者

前項ノ資格試驗ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十二條ノ四　專攻科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ前二條ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

第四十三條　第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齡ニ達シ相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ

第四十四條　高等女學校生徒ニシテ退學シタル者一箇年以內ニ其ノ高等女學校若ハ他ノ高等女學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ原學年以下ノ學校ニ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十五條　他ノ高等女學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ其ノ生徒ノ在學證明書成績表及其ノ學校ノ學科課程表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限リ前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第四十六條　各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

第四十七條　補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等女學校ヲ卒業シタル者タルヘシ但シ補習科ノ學科目ニ就キ既修ノ課程ニ差異アルトキハ試驗ヲ行フコトヲ得

第四十八條　實科ノ學科目中一科目又ハ數科目ヲ學修セムトスル者ハ選科生トシテ入學セシムルコトヲ得

第四十九條　學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十條　學校長ハ修業年限ノ終リニ於テ高等女學校ノ學科ヲ卒業セリ